

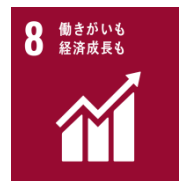


三重大学

施設マネジメント計画

< インフラ長寿命化計画 >

2021



2021年3月



三重大学

目次

1. 施設マネジメント	1
1-1 施設マネジメントの必要性	2
1-1-1 施設マネジメントの導入	2
1-1-2 三重大学の基本的な目標	2
1-1-3 施設マネジメントの観点	3
1-2 インフラ長寿命化計画の必要性	4
1-3 本学の教育・研究等に関する取組・成果	5
1-3-1 教育における取組	5
1-3-2 環境先進大学として	6
1-3-3 SDGs への取り組み	6
1-3-4 地域防災への貢献	7
1-3-5 国際交流	7
1-3-6 社会連携・地域貢献機能の強化	7
1-3-7 教育研究組織の改編	8
1-4 第4期以降も見据えた本学の将来構想	8
1-4-1 多様で柔軟な連携を図る教育研究機能の強化	8
1-4-2 多様でインクルーシブな教育研究の展開	9
1-4-3 グローバル社会への貢献	9
1-5 三重大学のあるべき姿から考える国立大学のあるべき姿	10
1-5-1 地域貢献型大学の定員規模拡大	10
1-5-2 地域貢献型大学と地域の企業との連携の在り方	10
1-5-3 地球温暖化や大規模地震等による環境破壊から地球を守るために大学が果たす役割	11
1-6 アセットマネジメント	11
1-6-1 主要キャンパスの概要と課題	11
1-6-2 アセットマネジメントに係る財政と資産の状況	13
1-6-3 土地利用の状況	14
1-6-4 所有面積・職員宿舍の状況	18
1-7 クオリティマネジメント	19
1-7-1 施設の老朽化	19
1-7-2 施設の部位別老朽化	22
1-7-3 所有施設の一覧	22
1-7-4 基幹設備の老朽化	28
1-7-5 ライフラインの老朽化	29
1-7-6 耐震性能の状況	30
1-7-7 非構造部材の耐震性能の状況	30
1-7-8 公共下水道整備計画	30
1-8 スペースマネジメント	31
1-8-1 スペース管理	31
1-8-2 全学共用スペース	31
1-8-3 学長裁量スペース	31
1-8-4 流動的・交流的なスペースの確保	31
1-8-5 スペースの再配分	32
1-8-6 自己財源整備	33
1-8-7 必要面積・所有面積・整備率の状況	34

1-9	コストマネジメント	36
1-9-1	施設整備・運営に係る施設の状況	36
1-9-2	施設整備予算	36
1-9-3	施設運営費のコスト	39
1-9-4	資本的支出額	46
1-9-5	コスト縮減への取り組み	47
1-9-6	三重県の脱炭素宣言	51
1-10	総合的な施設マネジメント	52
1-10-1	施設整備の基本的な方針	53
1-10-2	施設総量適正化に向けての方針	53
1-10-3	施設整備・更新の優先順位づけの方策	54
1-10-4	長寿命化・予防保全の方針	54
1-10-5	施設の状況把握, および日常的な維持管理の方針	54
1-10-6	長寿命化および維持管理費の縮減に関する方針	55
1-10-7	省エネルギーの基本方針	55
1-10-8	施設整備水準	56
1-10-9	施設マネジメント推進体制	58
1-10-10	点検・評価	60
2	インフラ長寿命化計画	65
2-1	インフラ長寿命化計画の目指すべき姿	66
2-1-1	安全で強靱なインフラシステムの構築	66
2-1-2	総合的・一体的なマネジメントの実現	66
2-2	行動計画	66
2-2-1	インフラ長寿命化計画の行動計画	66
2-2-2	施設の長寿命化計画の基本方針	67
2-2-3	建物の部位別機能改善	69
2-2-4	施設に関するライフサイクルコスト (LCC) の試算と支出の抑制	72
2-2-5	施設の集約化とライフサイクルコスト (LCC) の平準化	73
2-2-6	キャンパスアクションプラン (営繕) の試算 (自己資金)	74
2-2-7	基幹設備の長寿命化計画	75
2-2-8	ライフラインの長寿命化計画	77
2-2-9	宿舍施設の長寿命化計画	79
3	個別施設計画 (毎年度見直し)	80
3-1	施設の長寿命化・改築・修繕計画	81
3-2	インフラ長寿命化個別施設計画 (2021.2.1 現在)	86
3-3	施設集約化計画	90
3-3-1	上浜キャンパス集約化計画	90
3-3-2	観音寺キャンパス集約化計画	91
3-3-3	高野尾キャンパス集約化計画	92

1. 施設マネジメント

1-1 施設マネジメントの必要性

1-1-1 施設マネジメントの導入

国立大学法人は、次代を担う豊かな人材の育成，地域から求められる独創的・先端的学術研究の推進や医療の提供等，社会の要請・期待を受けて様々な活動が行われている。キャンパスと施設は，これらの活動を支援・推進する重要な基盤である。

特に，法人化後の大学は教育活動や研究開発等に個性を発揮することが期待されており，キャンパスや施設についても柔軟に個性化を支える対応が求められている。このため，大学の多様な教育・研究活動に対応した施設の充実や産学官連携・地域連携・国際化・診療等の大学諸活動に応じた施設整備が必要となっており，これらの重点的・計画的に行うべき施設整備の前提となる施設マネジメントの取り組みが国立大学法人に求められている。

三重大学の基本的な目標を達成するためには，教育・研究環境の充実，産学官連携及び地域連携推進環境の拡充，学生環境及び情報基盤の充実，グローバル環境の構築は必要不可欠であり，教育・研究・診療・産学官連携・地域連携・国際化・診療の進展に対応した重点的・計画的に施設整備を行うことが必要である。また，2017年より「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」（以下「SDGs」）にも取り組んでおり，持続可能なキャンパス環境を構築する必要性が生じている。これらのことから，本学が所有する既存施設を有効に活用することが重要であり，学長のトップマネジメントの一環として中長期的な視点に立った施設マネジメントを導入する必要がある。

施設マネジメントでは，三重大学キャンパスマスタープラン2018（以下「CMP2018」）を踏まえ，施設利用状況調査，施設点検パトロール，大学施設の性能評価システムの老朽度により既存施設の現状を把握し，適切な施設機能を維持するとともに，教育・研究・産学官連携・地域連携・国際化・診療の進展や施設利用者の要望に応じた機能の向上，既存施設の有効活用を継続的に実施していくことが重要になっている。

三重大学の教育・研究・産学官連携・地域連携・国際化・診療活動の基盤となる施設の良好な環境を維持していくためには，施設整備，既存施設の活用，運営管理を一体的に行うことが必要不可欠であり，経営的視点に立った施設マネジメントを継続的に実施していかなければならない。

1-1-2 三重大学の基本的な目標

三重の力を世界へ

地域に根ざし，世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。

～ 人と自然の調和・共生の中で ～

◆基本理念

三重大学は，総合大学として，教育・研究の実績と伝統を踏まえ，「人類福祉の増進」「自然の中での人類の共生」「地域社会の発展」に貢献できる「人材の育成と研究の創成」を目指し，学術文化の受発信拠点となるべく，切磋琢磨する。

1. 教育

三重大学は「4つの力」，すなわち「感じる力」「考える力」「コミュニケーション力」と，それらを総合した「生きる力」を躍動させる場として，社会の新しい進歩を促すと同時に他者に対する寛容と奉仕の心を併せもった感性豊かな人材を育成する。

三重大学は，課題探求心，問題解決能力，研究能力を育てるとともに，学際的・独創的・総合的視野をもち，国際的にも活躍できる人材を育成する。

三重大学は、多様な学生を受け入れるための教育制度を構築するとともに、学生の心身の健康を維持・増進させ、意欲的に修学できる学習環境を整備し、学生の個性を重んじた進路指導を実施することを目指す。

2. 研究

三重大学は、多様な独創的応用研究と基礎研究の充実を図り、さらに固有の領域を伝承・発展させるとともに、総合科学や新しい萌芽的・国際的研究課題に鋭意取り組み、研究成果を積極的に社会に還元する。

3. 社会貢献

三重大学は、教育と研究を通じて地域作りや地域発展に寄与するとともに、地域社会との双方向の連携を推進する。

4. 情報化

三重大学は、学内における情報化はもとより、学術研究・地域連携・社会活動等の情報を受発信し、グローバル社会における学術文化の起点となることを目指す。

5. 国際化

三重大学は、国際交流・国際協力の拡大と活性化を図るとともに国際的な課題の解決に貢献できる人材を養成し、大学の国際化を目指す。

6. 組織

三重大学は、審議・執行・評価の独自性を確立し、学長のリーダーシップの下に、速やかな意志決定と行動を可能にする開かれた大学運営と体制の整備に努める。

1-1-3 施設マネジメントの観点

三重大学（以下「本学」）の施設マネジメントとして、施設の質的管理（クオリティマネジメント）、施設に係るコスト管理（コストマネジメント）、施設の運用管理（スペースマネジメント）、施設の資産的管理（アセットマネジメント）の4つの観点と総合的な施設マネジメントの観点からインフラ長寿命化計画を策定し、三重大学施設マネジメント計画（以下「FMP」）を取りまとめる。

◆アセットマネジメント基本方針

所有資産の最適化を図るため、計画的・効率的に施設の整備及び維持管理を行うとともに、施設の長寿命化、利活用及び統廃合を進める「アセットマネジメント」を推進する。

具体的には、資産価値の推移やライフサイクルコスト（LCC）により、所有資産（施設・設備）の状態を客観的に把握・評価し、中長期的な所有資産の状態を予測する。その後、予算制約の中で、施設のライフサイクルプロセスを通じて、「いつ」「どのような対策を」「どこに行く」「最適であるか」を判断し、効果的・効率的な投資を行うとともに、施設運営の最適化を図り、PDCA サイクルを用いた見直しを常に行う。

◆クオリティマネジメント基本方針

高度化・多様化する教育・研究・産学官連携・地域連携・国際化・診療活動に対応するため、機能性、防災・事故防止等の安全性、施設利用者の快適性・利便性を確保し、個性的で魅力あるキャンパスづくりを進めるとともに、施設の長寿命化、省エネルギー・省資源に配慮した施設水準の向上を図る「クオリティマネジメント」を推進する。

特に、本学上浜キャンパスの現状を把握し、施設機能や将来構想を踏まえ、キャンパス全体及びキャンパス計画を設定されている各ゾーン（エリア）について、キャンパスの良好な環境を維持し、将来へつなぐための土地の有効活用を行うことが必要である。

◆スペースマネジメント基本方針

学生・職員によるスペースの必要以上の専有や既得権意識を排除して全学的にスペースを管理し、目的・用途に応じた施設のニーズ、利用度等を踏まえながら、既存スペースを適切に再配分し、施設の有効活用を推進していく必要がある。また、教育・研究・産学官連携・地域連携・国際化・診療活動の進展により生じる新たな施設需要についても、既存施設の活用を最優先で検討する必要がある。

所有面積の増加は、コスト（定期的な改修費や毎年の維持管理費、光熱水費等）の増大につながることを認識し、所有施設の総量の最適化を図ることが重要であり、改修等の際には、教育・研究・診療・産学官連携・地域連携・国際化活動の変化に柔軟に対応できるような可変性を有した計画とする。

◆コストマネジメント基本方針

本学の施設に係る支出（新增改築費、改修費、維持管理費及び光熱水費）は、継続的に必要となることから、大学経営に与える影響が大きい。

施設のクオリティの確保やスペースの利用に係るコストについては、大学経営の視点から、費用対効果の向上や所有施設全体のライフサイクルコストの効率化を踏まえて必要額を検討し、戦略的に財源を確保・管理する必要がある。

施設のライフサイクルコストは、施設の初期建設コスト（イニシャルコスト）の他に、定期的な改修費や毎年の修繕費、保全費、光熱水費等のランニングコストが継続的に必要となる。ランニングコストは、ライフサイクルコスト全体の約7割を占めるが、単なるコストの縮減は安全性の確保や教育・研究・診療・産学官連携・地域連携・国際化活動の質に影響を及ぼし、活力低下や資産価値低下を招くため、適切なコストマネジメントによる合理的な対応が必要である。

特に、施設の新増改築等を計画する際には、費用対効果やランニングコストを考慮した施設の規模や仕様の検討とともに、施設の機能改善・維持に必要な財源の負担方法等について十分な検討を行うことが求められる。

◆総合的施設マネジメント

キャンパスや施設という資源を活用して、大学のミッション達成に貢献するための活動が総合的施設マネジメントである。

総合的キャンパスマネジメントは、アセットマネジメント、クオリティマネジメント、スペースマネジメント、コストマネジメントの観点から、総合的に施設の整備や維持・管理を行うことにより寿命を延伸するとともに、利活用や統廃合等によりムダをなくし、所有総量の縮小等により施設運営の最適化を図るものである。

老朽化した施設の修繕、改修等の対策に係る需要が一時期に集中するおそれがあるため、建物の長寿命化を着実に進めてトータルコストの縮減に努め、予算の平準化を図るため「インフラ長寿命化計画」を策定して、計画的に整備を実施する。

1-2 インフラ長寿命化計画の必要性

平成24年12月の中央自動車道笹子トンネル天井板落下事故を受け、政府全体の取組として、国民生活や社会経済活動を支えるインフラに関する維持管理等の方向性を示す基本的な計画である「インフラ長寿命化基本計画

(インフラ老朽化対策の推進に関する関係府省庁連絡会議決定)」(以下「基本計画」)が、平成 25 年 11 月に策定された。

文部科学省は、所管又は管理する施設の維持管理等を着実に推進するための中期的な取組の方向性を明らかにするため「文部科学省インフラ長寿命化計画(行動計画)」を平成 27 年 3 月に策定した。

本学は、大学施設、附属病院施設、附属学校施設、職員宿舎及びその他附属施設等、多数の学生・患者・職員が利用する多種多様な施設を所有しており、その多くは昭和 40 年代～昭和 50 年代に工学部設置、三重県からの国立移管である医学部・水産学部設置、人文学部設置のために整備され、建築後 25 年以上を経過した老朽施設は約 21.6 万 m^2 (所有面積の約 7 割)、そのうち改修を要する老朽施設が約 7.8 万 m^2 (所有面積の約 2 割)存在し、第 4 期中期目標期間が終了する 2028 年 5 月 1 日時点では約 9.6 万 m^2 に増加するため、老朽化対策が急務となっている。

このことから、要改修老朽施設を計画的に改善していく必要があるが、厳しい国の財政状況の中、これらの施設を従来の改築手法(建設後 60 年程度で建替え)で対応していくことは困難な状況であり、老朽化した施設の改修などの対策に係る需要が一時期に集中するおそれがあることから、施設点検により劣化、損傷等の老朽化状況を的確に把握した上で、優先順位付けや予算の平準化、トータルコストの縮減等を考慮した整備計画を策定・見直しを行い、効果的・効率的な長寿命化整備を図り、良好な施設機能の維持や安全性の確保に努めていく必要がある。

国立大学法人等の施設については、「国立大学法人等施設整備 5 か年計画(平成 28 年度～32 年度)」に基づいた老朽化対策が推進されている。本学でも建物の耐震対策と老朽化対策を進めており、平成 28 年度末に旧病院本館を取り壊したことにより、Is 値 0.7(構造耐震指標)以下の建物耐震補強及び非構造部材(天井等)の耐震化が全て完了した。

これらのことから、本学施設の長寿命化に向けた取組を一層推進するための中長期的な取組の方向性を明らかにするため、FMP の中でインフラ長寿命化計画を定めて計画的に整備・改善を実施するものとする。

1-3 本学の教育・研究等に関する取組・成果

本学建学以来の伝統と実績に基づき、「三重の力を世界へ：地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す ～人と自然の調和・共生の中で～」を基本理念に掲げ、取組みを進めた。第 3 期は、「幅広い教養の基盤に立った高度な専門知識や技術を有し、社会に積極的に貢献できる人材」を育成することを教育研究の目標としつつ、第 1 期・第 2 期の産学官民連携事業における顕著な成果を基盤として、「地域のイノベーションを推進できる人材の育成」を具体的目標としている。

1-3-1 教育における取組

本学の教育目標として、第 1 期に「4つの力」を位置づけ、「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、それらを統合した「生きる力」を養成するため、「4つの力」の修学達成度評価システムの開発や、全学的な PBL 教育の拡充、共通教育でのアントレプレナー教育に取り組んだ。

第 2 期より全学的な教養教育体制の再構築を行い、平成 27 年度入学生より新しい教養教育カリキュラムを開始し、新カリキュラムの自立的・能動的学修力の育成という理念に基づいた「アクティブ・ラーニング領域」を設け、「スタートアップセミナー」と「教養ワークショップ」の 2 科目を中心としてその理念の実現を図る等、本



学の個性を伸長させてきた。

第3期は、平成27年度にCOC+事業に採択され、三重県の現状を知り、今後の三重県を展望しつつ、地方創生のエンジンとなって三重県の新時代を切り開くことのできる人材を育成する「三重創生ファンタジスタ資格認定プログラム」を、副専攻コースとして全学部・全学科でスタートさせたほか、インターンシップの卒業要件化を全学部で決定し、2019年度入学生から実施することとする等、三重県全体をフィールドとした教育の実施と地域社会に必要とされるリーダー人材の育成に取り組んでいる。

1-3-2 環境先進大学として

本学は、四日市公害の疫学調査を通じた国の環境規制に資する研究をはじめ、「環境」をテーマとした教育研究にいち早く取り組んでおり、2007年度には日本の大学として初めて大学全体として「環境 ISO14001」を認証取得し、以降、学生との協働による自主的な3R活動や緑化整備、地域協働による海岸清掃等の環境マネジメント活動等にも取り組んでいる。

第2期は、スマートキャンパス実証事業を導入し、キャンパス内での効率的な運用を組み合わせ、CO₂排出量削減に向けた取組を行い、2014年には2010年度比で26.4%の削減を達成している。これらの取組は、環境ISO学生委員会と協力し、「環境報告書」で公表する他、国内外の学会等での発表を通じ、広く水平展開を図っている。

本学の環境活動は高い評価を得ており、「環境大臣賞」等大臣賞レベルの受賞は5年連続6回、年間全ての環境活動（環境報告書）の評価である「環境コミュニケーション大賞」は8年連続12回の受賞となった。

第3期は、エネルギー使用量6%削減というチャレンジングな目標を設定し、ハード面での省エネ改修を進めて企業体としての省エネ活動を着実に実施しつつ、国連の17のSDGsへと活動範囲を拡大している。また、「科学的地域環境人材（SciLets）育成事業」を開講し、環境保全や環境政策の企画立案に関するビデオ講義を配信している。

1-3-3 SDGsへの取り組み

本学は、2017年よりSDGsに取り組んでおり、持続可能な世界の実現に向けて、地域の多様なニーズにこたえる基盤を構築していかなければいけない。特に、環境先進大学としての取組成果、教育研究基盤、地域サテライトをベースにした地域貢献型大学として、地域の幅広いニーズにこたえるとともに、優秀な人材を育て輩出していく必要がある。

三重大学
(地域貢献)
世界に誇れる
環境先進大学
+
教育研究基盤
+
地域サテライト

+

項目	世界ランク	国内大学ランク
総合ランキング	401-600位	20位 T/72 大学
SDG 1 (貧困をなくそう)	201-300位	8位 T/33 大学
SDG 2 (飢餓をゼロに)	101-200位	12位 T/35 大学
SDG 3 (すべての人に健康と福祉を)	201-300位	12位 T/55 大学
SDG 4 (質の高い教育をみんなに)	201-300位	1位 T/56 大学
SDG 5 (ジェンダー平等を実現しよう)	401+位	9位 T/44 大学
SDG 6 (安全な水とトイレを世界中に)	201-300位	12位 T/37 大学
SDG 7 (エネルギーをみんなにそしてクリーンに)	201-300位	6位 T/38 大学
SDG 8 (働きがいも経済成長も)	401+位	35位 T/46 大学
SDG 9 (産業と技術革新の基盤をつくろう)	101-200位	9位 T/50 大学
SDG 10 (人や国の不平等をなくそう)	301-400位	18位 T/43 大学
SDG 11 (住み続けられるまちづくりを)	301-400位	22位 T/47 大学
SDG 12 (つくる責任つかう責任)	101-200位	9位 T/40 大学
SDG 13 (気候変動に具体的な対策を)	201-300位	11位 T/37 大学
SDG 14 (海の豊かさを守ろう)	101-200位	9位 T/34 大学
SDG 15 (陸の豊かさを守ろう)	101-200位	8位 T/36 大学
SDG 16 (平和と公平をすべての人に)	301-400位	22位 T/44 大学
SDG 17 (パートナーシップで目標を達成しよう)	301-400位	22位 T/68 大学

日本国内
1位

THE (Times Higher Education) 大学インパクトランキング 2020 において、本学は総合ランキング 401-600 位、SDG4 (質の高い教育をみんなに) で日本国内 1 位、世界ランク 201-300 位にランクインした。

1-3-4 地域防災への貢献

防災分野においては、全国初の試みとして、大学と県が共同で運営する「三重県・三重大学 みえ防災・減災センター」を設置し、大規模地震等の自然災害に備えて、産学官民連携による防災・減災活動の推進体制を強化した。

また、本学が主体となって運営してきた「美し国おこし・三重さきもり塾」を発展的に解消し、上記センター内に「みえ防災塾」を設置し、防災人材育成を行っている。活動を開始してから、延べ 452 名 (2019 年度末) の修了生を輩出し、防災・減災を担う人材として地域や所属先で活動している。

その他、地域住民や行政だけでは限界のある過去の震災資料のアーカイブ化や、防災人材バンクによる地域とのマッチング、企業の防災計画策定の支援等、地域防災に係る総合的センター機能を担っている。

1-3-5 国際交流

国際交流としては、1994 年度から中国・タイ・インドネシアの協定大学と輪番で開始した「3 大学ジョイントセミナー」は、参加大学等の規模を拡大し、27 回目 (2020 年 10 月) となる「Tri-U 国際ジョイントセミナー&シンポジウム」へと発展した。このほか、アジアパシフィック地域を中心とした技術支援や三重大学内で毎年開催している国際シンポジウム、国際ワークショップを通じた国際交流、留学生の受入、国際インターンシップに取り組んでいる。

2006 年度には、全国に先駆けて、教育学部と天津師範大学 (中国) とダブル・ディグリープログラムを実施し、現在は全学的な国際交流として接続学位プログラムを実施している。

1-3-6 社会連携・地域貢献機能の強化

第 3 期においては、社会連携・地域貢献機能を強化すべく、体制整備として「地域イノベーション推進機構」の設置をはじめ、地元企業や自治体と大学とをつなぐハブ機能として「地域拠点サテライト」(北勢サテライト、伊賀サテライト、伊勢志摩サテライト、東紀州サテライト) の設置、さらに組織的な地域創生プロジェクトの推進を目的とした「地域創生戦略企画室」を順次設置した。これに加え、県内全ての自治体 (29 市町) との協定締結や地域連携の窓口となる事務組織の整備によって社会連携・地域貢献基盤を強化した。

これら体制整備と併せて、社会連携・地域貢献活性化に向けた支援事業

の強化に取り組み、官学連携の活性化に向けた「地域貢献活動支援事業」を推進した結果、自治体とのプロジェクト件数は第 3 期当初の 46 件から約 3 倍の 141 件となった (2019 年度末)。

また、地元企業との共同研究促進を目指す「中小企業との共同研究スタートアップ促進事業」を開始した結果、



中小企業との共同研究件数は、第3期当初の111件から約2倍の208件（2019年度実績）を獲得し、第3期中期計画の数値目標（200件）を前倒しで達成している。

1-3-7 教育研究組織の改編

教育研究組織の改革としては、地域社会と連携しながら世界最高レベルの知的活動を行う「三重の力を世界へ」の目標の下、教育学研究科では、現職教員の研修機能の強化のために教職大学院を設置（2017年度）、生物資源学部では海洋生物資源学科を設置（2017年度）、地域イノベーション学研究科では社会イノベーションユニットを設置（2017年度）、工学部では総合工学コースを設置（2019年度）した。

ほかにも特色のある教育研究を数多く行っており、地域に根ざしながら独自性豊かな教育・研究成果を生み出す知の拠点として取り組み、成果を上げている。

1-4 第4期以降も見据えた本学の将来構想

本学の基本的理念である「三重の力を世界へ：地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す ～人と自然の調和・共生の中で～」の下、多様な価値観が躍動する大学として、持続可能な社会を実現するために課題解決に向けて協働し合う、インクルーシブな教育研究活動に取り組み、新たな価値を創造する。

また、社会の発展に誰ひとりとして取り残されることなく、皆が自由な発想で様々な可能性にチャレンジすることを許容する社会づくりに寄与していく。

1-4-1 多様で柔軟な連携を図る教育研究機能の強化

1) 多様な地域連携プラットフォームの設置

人口減少が進む中、三重県が自立的に発展していくためには、次代を担う「人づくり」の視点が重要である。三重県知事からは、本学が県内高等教育機関の中核として、産業界や三重県との連携による、「地域連携プラットフォーム（仮称）」を設置し、三重県発の地方創生を支える多様なニーズに対応した人材の養成・確保を進めるよう要望されている。

県からの要望を踏まえ、本学は三重県地域を中心とした地域社会の維持・発展に資するため、例えば、県内他大学等との連携により医療系人材及び学校教員の養成機能を強化する等、各学部の特性や専門性を活かして、県内の課題を解決し全国に普及するモデルケースとなるプラットフォームを設立する。

2) 地域拠点サテライトの深化による教育研究フィールドの強化

本学が位置する三重県は、南北に長い地理的特性から県内各市町で多種多様な社会、産業構造を有している。三重県は日本全体の縮図であり、あらゆる社会課題の解決の糸口を探るための教育研究フィールドと言っても過言ではない。

第3期に本学は、地元企業や自治体と大学とをつなぐハブ機能として、三重県内の4つのエリアに拠点を置く「地域拠点サテライト」（北勢、伊賀、伊勢志摩、東紀州）の設置をはじめ、県内全ての自治体（29市町）との協定締結等により、地域連携基盤を強化してきた。

第4期以降は、上記地域連携プラットフォームを媒介として、県内に“点”として存在しているサテライトを“面”へと転換し、三重県全域を教育研究フィールドとしてより活用できるようにして、多様な社会課題の解決に資する教育研究成果を発現させる。

3) 自治体や企業等が抱える課題を発見・解決する新たな教育研究組織・機能の設置

地域の自治体や企業等の現場においては、ビッグデータ、IoT、AI等に対応しうる専門技能を持った人材の確保・育成といったニーズの高まりが予想され、本学に対する期待も大きい。

企業における研究は、「技術（technology）」が最優先される（例：発明、特許取得、技術開発等）のに対して、大学における研究では、「科学（science）」が重視される（例：真理の探究、法則の発見等）。知識集約型社会に

向けて社会システムが変わりつつある中、企業と大学との連携を深め、互いの志向性の違いを打破し、真に企業と大学が融合した研究とそれに基づく教育へのチャレンジが必要である。

そのため本学では、第3期までの成果をさらに発展させ、企業等の外部人材・資金を活用した新たな教育組織の立ち上げと、全学的な社会ニーズに応えるリカレント教育機能の構築を検討しており、社会のニーズに迅速に応える三重地域の創生に資する大学を実現する。

4) 社会連携・地域貢献機能の強化

第3期では、キャンパス外の教育研究フィールドである「地域拠点サテライト」等をはじめとした地域創生に資する教育研究組織と併せて、それらを支える事務チームを新設して、体制の整備に取り組んできた。

第4期以降、より社会連携・地域貢献機能を強化するために、プラットフォーム機能等を含め、社会連携・地域貢献の窓口を担う事務組織の再編等により、地域連携におけるワンストップサービス機能を充実させる。

また、事務組織の合理化、効率化を進めていくため、例えば各部の企画業務を統合して企画戦略部門を強化するほか、業務運営上関連の深い組織を組み合わせ、組織と業務の大括り化を実施することで、部門間の連携強化と業務集約を行う。

さらに、事務職員がより深く教育研究にコミットし、教員の負担軽減による教育研究機能の強化を図るため、引き続き、教職協働の在り方や教職協働を推進するための事務職員の新たな育成方策等について検討する。

1-4-2 多様でインクルーシブな教育研究の展開

1) 大学全体を知之の工房とした未来の価値を創造する人材育成の展開

第3期におけるPBL型教育、COC+事業「三重創生ファンタジスタ養成教育プログラム」の実績を踏まえ、社会課題に対して解決策を提案できる人材を育成する文理横断的な教育プログラムを開発し、学生の主体的で深い学びの質を保証する教育（反転学修、PBL型授業、副専攻等）を全学展開する。

2) リベラルアーツとしての人文学・社会科学教育の充実

現代社会はますます複雑化しており、様々な問題を的確に把握して解決するためには、物事を多面的に捉えて分析する能力をもった人材が求められる。その能力の基本は、人間と社会を正確に理解すること、深く考察することであり、人文学・社会科学の理念と相通じるものである。

そのため本学は、人文学・社会科学と自然科学の双方を俯瞰できる人材の育成を目指し、総合大学における人文学部の機能を再定義し、本学の全学生が専門教育の前にリベラルアーツとしての人文学・社会科学を学べるように取り組むとともに、各学部における研究教育の根幹としての機能強化を図る。

3) 実践的数理・データサイエンス素養を培う教育の実現と地域への展開

地元企業・自治体が求める人材育成を調査したところ、主に、①「情報リテラシーの高い実務能力に優れた人材の育成」、②「データサイエンスに基づき、地域が抱える諸問題を発見し、解決へと導く人材の育成」、③「サイバー領域におけるセキュリティ対応を構築できる実務能力に優れた人材の育成」の3点についてニーズが高いことを確認した。

これらの要望に応えるべく、本学は文理融合・数理データサイエンス教育を全学的に展開するとともに、各学部・研究科においても、学問的な専門分野の知識を活かし、専門領域のデータを扱える人材にまで高めることによって、社会変革や地域のニーズを捉えつつ大学としての役割を果たしていく。

1-4-3 グローバル社会への貢献

グローバル社会で活躍する人材の育成に向けて、経済成長を遂げるアジア地域の大学との国際共同学位プログラムの充実や、学部・研究科の特色を活かした海外インターンシップ等に取り組む。

また、大学と地域の国際化に向けて優秀な留学生の獲得や、県内企業との連携によるインターンシップの充実、留学生の就職支援に取り組む。高度で知的なイノベータ人材の育成に向けて、留学生や社会人等定員を超えて入

学させる学生の受入体制の整備や、サテライトを活用したキャンパス内外での社会に開かれた大学院教育を基盤としたリカレント教育を展開する。さらに、地域経済の活性化に向けて、企業や自治体に対する組織的連携機能を充実させ、知の創出と循環に取り組む。

1-5 三重大学のあるべき姿から考える国立大学のあるべき姿

厚労省の発表（2019年12月）では、2019年の出生数において想定より2年早く90万人を割り込んでおり、生産年齢人口の減少と高齢人口割合の増加は一層加速している。

このような社会環境、構造の変化が地域に及ぼす影響は極めて大きい。社会変革に即応する人材の育成、自由でダイナミックな発想に基づく基礎研究、応用研究の展開と研究成果の還元は、地域創生・活性化には必須の課題であり、地域貢献型大学はその中心的役割を果たすことが求められている。

上記のような大学を取り巻く状況を踏まえ、いわゆる地域貢献型大学として本学が考える国立大学のあるべき姿と、それを実現するための改革の方向性は下記のとおりである。

1-5-1 地域貢献型大学の定員規模拡大

人口減少と高齢化は、労働力供給の減少だけでなく、将来の経済規模の縮小や産業力の低下を招く恐れがある。特に地方においては、大学進学時における若者の県外への流出は深刻な課題である。

本学が位置する三重県のように、大学収容力が小さく、県内の大学進学率が向上しているにもかかわらず相応の定員枠が設置されていない場合、地域のリーダーとして活躍が期待される若者の県外への流出を招く構造となっている。

そのため、医学部以外にも、地域貢献型大学に時限付きの定員増を認める等、地域貢献型大学の定員拡大に向けた直接的方策を実施し、地域貢献型大学における収容力を早急に是正すべきである。

本学では、三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コースの設立等、地域人材育成と若者を地域にとめ置く機能の強化に取り組んできたが、地域貢献型大学として、定員増により増加した県内への進学者が、県内の魅力ある企業へ就職するよう取組を進める。

1-5-2 地域貢献型大学と地域の企業との連携の在り方

大学にとって産業界は、教育と研究の両面で、カウンターパートとしての重要性が高まっている。大企業が林立する都市型大学とは異なり、地域貢献型大学では連携すべき企業と立地上距離がある等、face to faceの連携が難しいというデメリットがある。

そもそも地方においては、大型の連携が展開できる資金力のある大企業は数少ない。また一方で、地域貢献型大学には、地域創生という観点で、地域の中小企業との連携を継続的に実施すべき使命が期待されている。地域貢献型大学は、大学として必要な外部資金額を獲得しながら地域からの期待にも応えていかねばならないという難しい課題に対峙している。

外部資金の割合については、最も高い大学で25%を獲得しているのに比して、本学は5.8%に留まり、地域貢献型大学においても、今後ますます外部資金の割合を向上させたいかねばならない状況にある。本学では、寄附講座や連携大学院により企業の優秀な技術者が大学教育の現場で活躍しているが、このことにより、より高い研究成果や外部資金の獲得に繋がっていくと考えている。

今後は、大学教育に関しても、地域貢献型大学と地域の企業が更に結び付きを強める必要がある。企業の第一線で活躍する研究者が、大学の専任教員として講義、学生指導、単位認定、卒業認定、就職支援等を通じて大学教育に深くコミットすることは、学生への新たな刺激になるとともに、教員との交流が深まり新たな教育機会の創出に繋がる。その一方で、企業にとっても大学をフィールドとして優秀な研究者や技術者の養成に繋がり、企業と大学にとってwin-winの関係へと発展するものである。

とはいえ、地域貢献型大学では立地面での企業との距離や、教育研究面でより高い貢献が期待できる博士学位

取得者を有する企業研究所も限られている。地域貢献型大学が、このようなデメリットを乗り越えるべく創意工夫を重ね、国の財政的バックアップも得ながら、教育と研究の両方で地域企業と連携することこそ、新しい大学教育の在り方に繋がるものであり、本学は、「地域でも可能な連携モデルづくり」を目指し取組を進めている。

1-5-3 地球温暖化や大規模地震等による環境破壊から地球を守るために大学が果たす役割

2015年9月の国連サミットでの持続可能な開発目標（SDGs）の採択や、2019年12月の地球温暖化対策を話し合う国際会議（COP25）の開催等、温暖化による環境破壊から地球を守るための取組が世界規模で進んでいる。

このほど、本学が位置する三重県が、2050年までに県域からの温室効果ガスの排出実質ゼロを目指す脱炭素宣言を行っている。

本学は、「環境」をテーマとした教育研究にいち早く取り組み、環境先進大学として、CO₂排出量の削減や環境マネジメント活動において高い成果をあげてきているが、地域貢献型大学として、今後もますます教育研究を通じた地球温暖化対策への貢献が求められている。

また、台風や大雨による度重なる被害や、南海トラフを発生源とした大規模地震等、自然災害による環境破壊のリスクが高まっている（南海トラフ地震の発生確率：今後30年間で70～80%（予想））。

南海トラフ地震とそれに伴う津波による学生、教職員の人的被害、建物倒壊等の物的被害は、もはや大学単位でのリスク管理、経営努力では如何ともし難いほどの甚大な被害が想定されている。

特に本学等は、伊勢湾に面し、三方を水系に囲まれた洪水浸水想定地域に位置しており、水害や津波による災害のリスクに直面している。

本学はこれまでも、三重県との協働により地域防災に貢献してきたが、津波被害による甚大な人的・物的被害に鑑み、例えばキャンパス移転も含めて、大規模災害によるリスクを回避するための方策を検討する等、地域貢献型大学としてさらに県との連携を強化し、地域防災に貢献していくことが求められている。

1-6 アセットマネジメント

所有資産の最適化を図るため、計画的・効率的に施設の整備及び維持管理を行うとともに、施設の長寿命化、利活用及び統廃合を進める「アセットマネジメント」を推進する。

具体的には、資産価値の推移やライフサイクルコスト（LCC）により、所有資産（施設・設備）の状態を客観的に把握・評価し、中長期的な所有資産の状態を予測する。その後、予算制約の中で、施設のライフサイクルプロセスを通じて、「いつ」「どのような対策を」「どこに行く」「最適であるか」を判断し、効果的・効率的な投資を行うとともに、施設運営の最適化を図り、PDCAサイクルを用いた見直しを常に行うことである。

1-6-1 主要キャンパスの概要と課題

本学は、上浜キャンパス、観音寺キャンパス、高野尾キャンパス、職員宿舎、附属演習林等、敷地面積約560万m²を所有しており、所有施設全体の延べ床面積は約32.0万m²である。主要キャンパスとしては、上浜キャンパスと観音寺キャンパスの2か所であり、津市内に位置している。

メインキャンパスである上浜キャンパスは、津駅から北東約1.7kmに位置し、敷地面積約53万m²のフラットな敷地に教養教育、人文学部、教育学部、医学部、工学部、生物資源学部、地域イノベーション学研究所等の教育・研究施設や附属病院施設が整備されている。このキャンパスは、伊勢湾沿岸にあることから塩害対策が必要であり、地震発生時には津波被害も想定しないといけない。

観音寺キャンパスは、津駅から南西約1.1kmに位置し、敷地面積約9.5万m²（県からの借地約9.2万m²を含む）の丘陵な敷地に附属学校が整備されている。

現状の施設は、耐震性が劣る教育・研究施設や附属病院施設等の改善は全国に先駆けて完了しているものの、経年劣化による「安全上の問題」、機能劣化により教育研究の質や医療の質が確保できない等の「機能上の問題」、基幹設備の老朽化により教育・研究・診療に重大な支障を発生させる可能性が高くなっている等の「基幹設備の問題」の他、自学自習室の整備、ユニバーサルデザイン等の利用者や地域医療から求められているニーズに対応した施設の充実等、緊急に対応していかなければならない施設整備の課題が山積みである。

上浜キャンパスの施設概要

- 土地：約 52.8 万m² / 建物：約 27.9 万m²
- 大学等建物：約 20.6 万m² (208 棟) / 附属病院建物：約 7.2 万m² (6 棟)



観音寺キャンパスの施設概要

- 土地：約 9.5 万m² / 建物：約 1.9 万m²
- 附属学校等建物：約 1.7 万m² (37 棟) / 職員宿舎：約 0.2 万m² (2 棟)



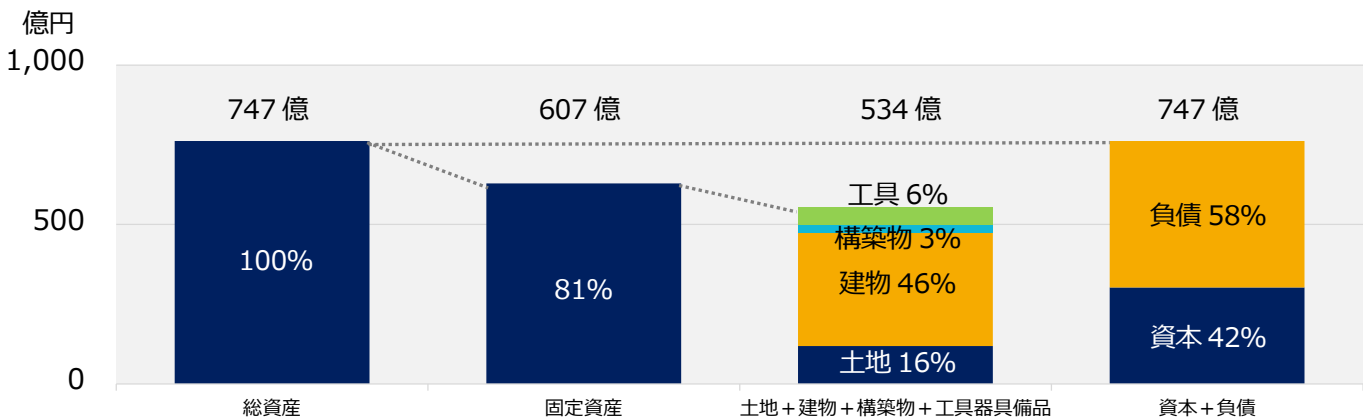
1-6-2 アセットマネジメントに係る財政と資産の状況

2020年度決算報告によれば、経常収益が470億円、これに対し経常費用は457億円となっている。これは、16年前の2004年度の経常収益308億円、経常費用294億円に対して、外部資金や病院収入の増加等により増加傾向にある。

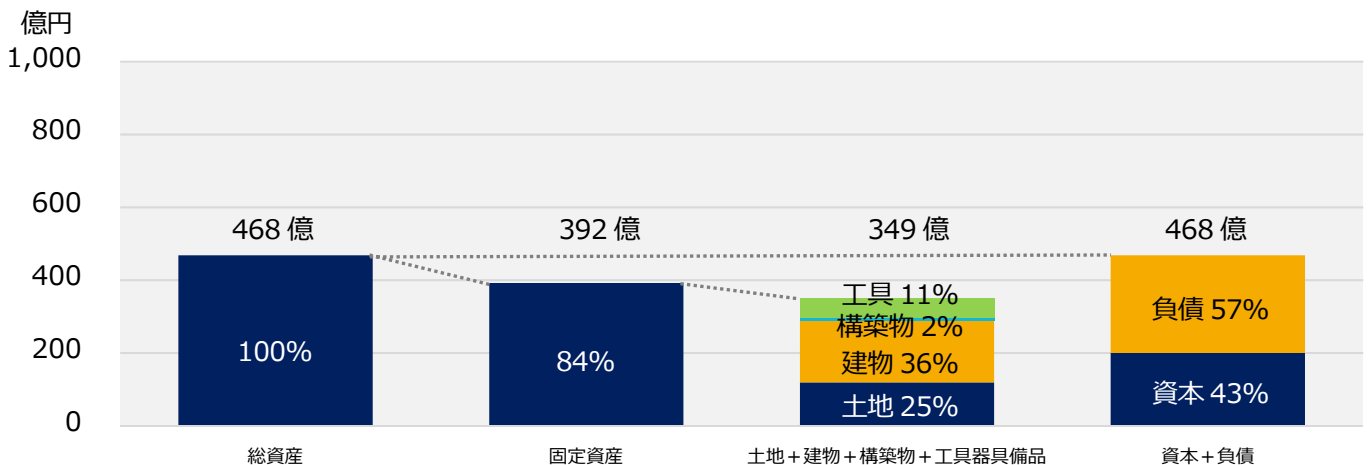
一方、資産総額も2004年度468億から2020年度747億円に増加している。特に、固定資産（減価償却費差引後）は、2004年度392億円から2020年度607億円に215億円増加している。

2020年度の資産構成比では、総資産の81%が固定資産であり、その内の土地・建物・構築物・工具器具備品が71%を占める（図表_1-6①）。このことは、大学における教育・研究・産学官連携・地域連携・国際化・診療の基盤として、建物・設備を構築することの重要性を示している。

資産の増加傾向は、教育分野、研究分野、産学官連携・地域連携分野、国際化分野、診療分野の発展とともに、必要性に応じて教育研究施設や附属病院施設、実験設備、医療機器等を増強してきた成果でもある。



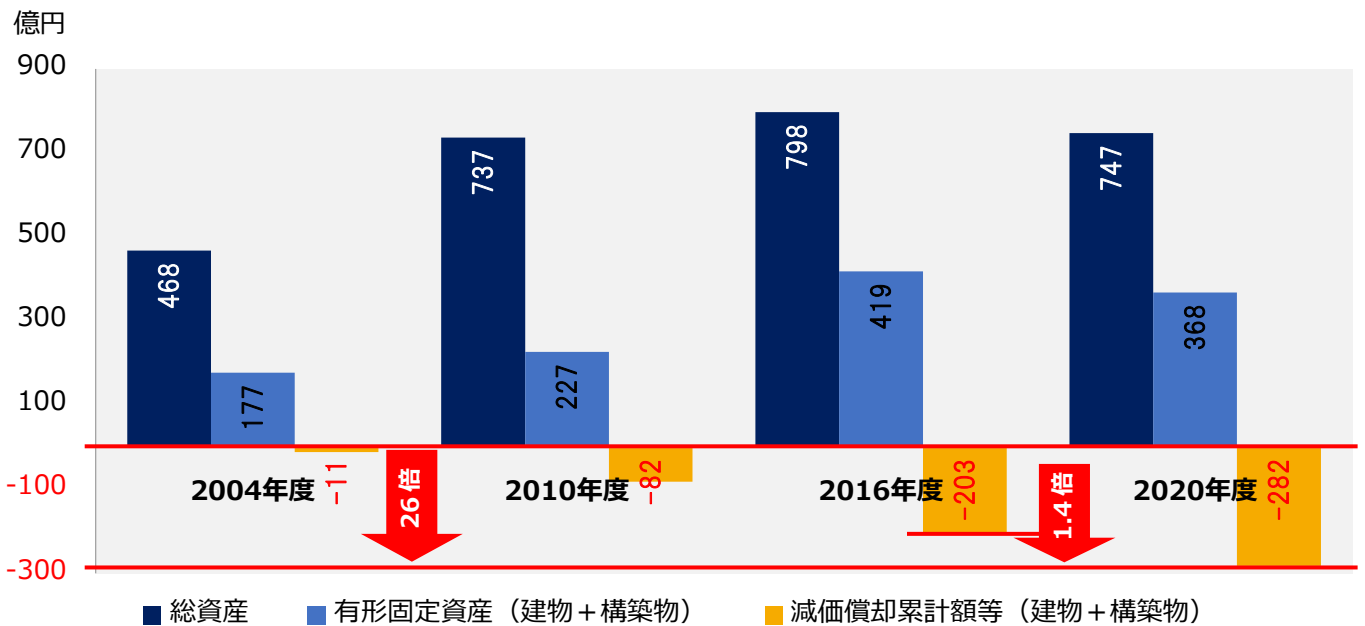
図表_1-6① 2020年度三重大学資産構成



図表_1-6② 2004年度三重大学資産構成

建物+構築物の有形固定資産を見ると、2020年度は約368億円になっており、2004年度比較で約2倍、2016年度比較で減少傾向となっているため、本学の資産価値は上昇傾向にあったが、近年は減少傾向になっている。

また、2020年度の建物+構築物の減価損失累計額等が約282億円となっており、2004年度比較で26倍、2016年度比較で1.4倍に増えていることから、施設の老朽化施設（建物+構築物）老朽化が進んでいることが分かる。（図表_1-6③）



図表_1-6③ 資産推移

本学が法人化した2004年度と比較して有形固定資産（建物+構築物）が約2倍になり、施設資産が増加していることから、既存の老朽施設（2020.5.1現在で経年25年以上の未改修施設が全体の26.3%）を含む全施設の維持管理費の増加を余儀なくさせている。さらに、施設整備に関わる財源である施設整備費補助金（当初予算）等は減少傾向にあり、今後の施設整備や運用資金の逼迫は免れない。

本学は、施設及び基幹設備（インフラ）の経年による老朽化対策等の課題を抱えており、厳しい財政状況の中においても、キャンパス環境を維持向上させ、施設利用者に最小費用で最大限の満足度を与えるために、FMPを着実に推進する必要性が生じている。

1-6-3 土地利用の状況

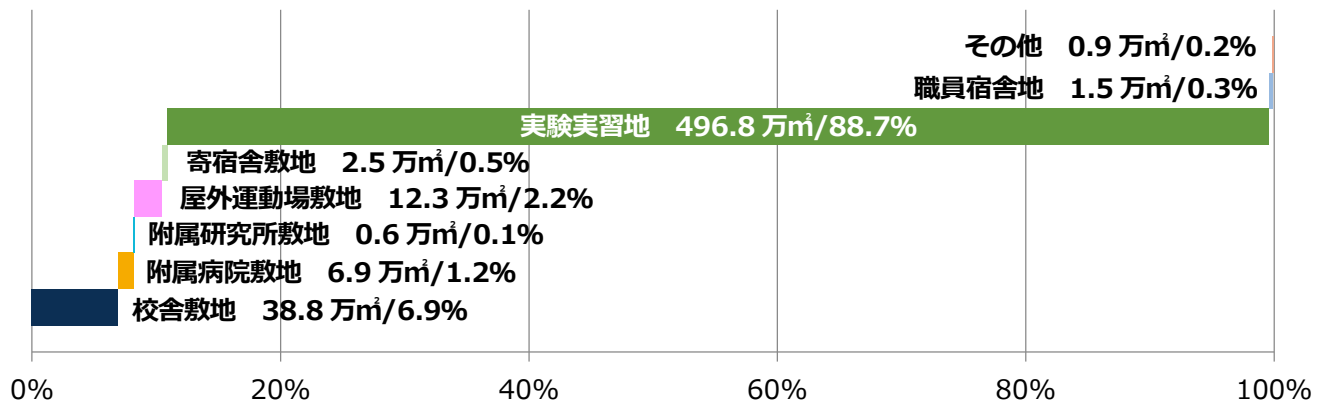
■土地面積

- 1) 上浜キャンパス【メインキャンパス】：528,040m²
- 2) 観音寺キャンパス【附属学校+職員宿舎】：95,227m²（県からの借地91,824m²含む）
- 3) 高野尾キャンパス【附属農場】：353,179m²
- 4) 美杉地区【附属演習林】4,569,562m²
- 5) 船頭地区【艇庫】241m²
- 6) 栗真中山地区【男子学生寄宿舎】7,966m²
- 7) 江戸橋1丁目地区【職員宿舎】1,831m²
- 8) 美杉宿舎地区【職員宿舎】198m² ※2020.6月売却済み
- 9) 渋見地区【職員宿舎】1,944m² ※2020.5月売却済み
- 10) 志摩地区【附属水産実験所】35,649m²
- 11) 松阪港地区【練習船実習施設】1,356m²
- 12) 鳥居住宅地区【職員宿舎】8,564m²

合計 5,603,757m²

■ 本学全体の敷地用途別面積（2020.5.1 現在）

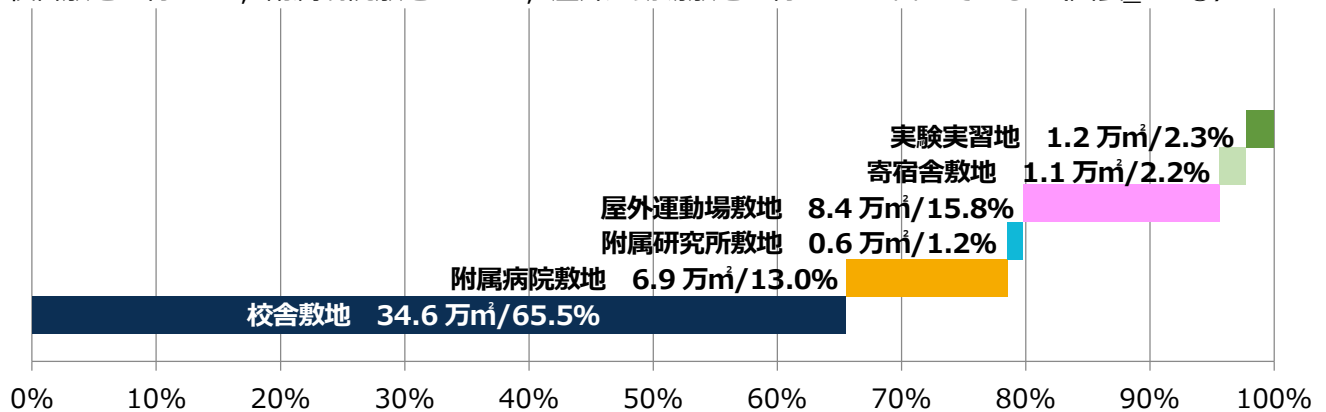
校舎敷地が約 7%，附属病院敷地が 1.2%，実験実習地敷地が約 89%を占めている。（図表_1-6④）



図表_1-6④ 本学全体の敷地用途別面積

■ 上浜キャンパスの敷地用途別面積（2020.5.1 現在）

校舎敷地が約 66%，附属病院敷地が 13%，屋外運動場敷地が約 16%を占めている。（図表_1-6⑤）

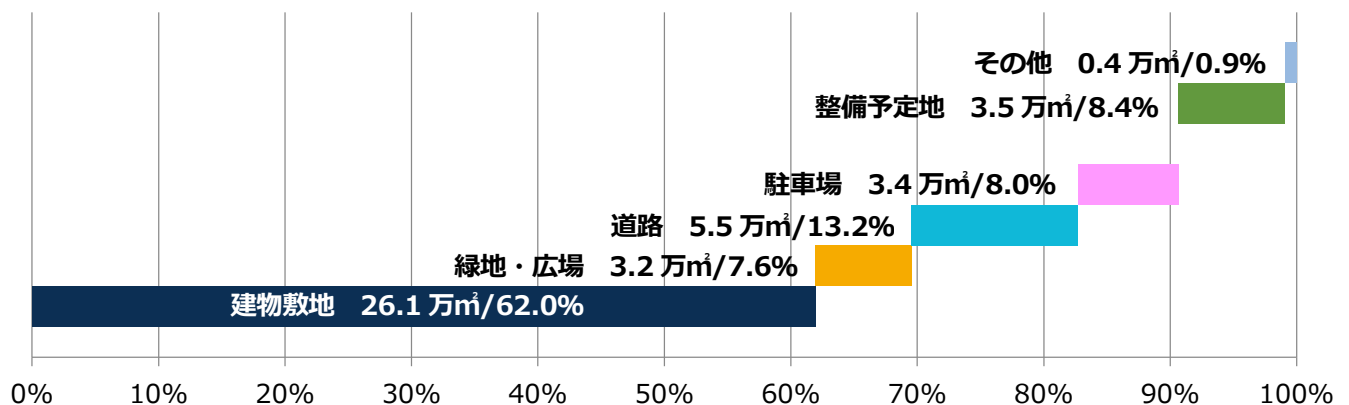


図表_1-6⑤ 上浜キャンパスの敷地用途別面積

■ 上浜キャンパスの校舎等敷地利用状況区分別面積（2020.5.1 現在）

上浜キャンパスの校舎等（校舎敷地+附属病院敷地+附属研究所敷地）42.1 万²の内訳を見ると、建物敷地が 62%を占めており、建物の建て詰まりが進行してきていることが分かる。（図表_1-6⑥）

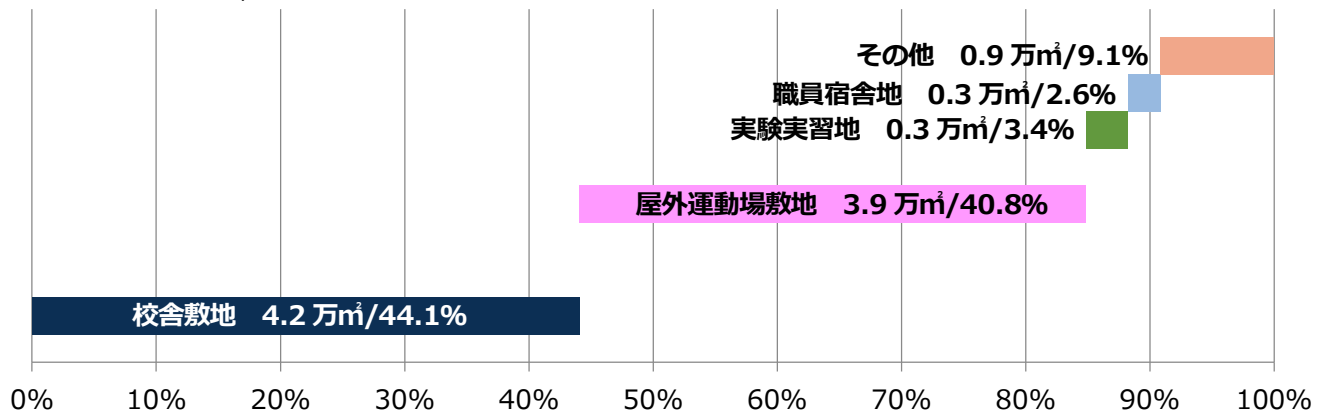
上浜キャンパスはフラットな敷地であり、整備予定地として約 3.5 万²確保できているが、建物の建て詰まりが進行してきているため、配置計画を十分に検討した上で整備していく必要がある。



図表_1-6⑥ 上浜キャンパスの校舎等敷地利用状況区分別面積

■ 観音寺キャンパスの敷地用途別面積（2020.5.1 現在）

校舎敷地が約 44%，屋外運動場敷地が 41%を占めている。（図表_1-6⑦）

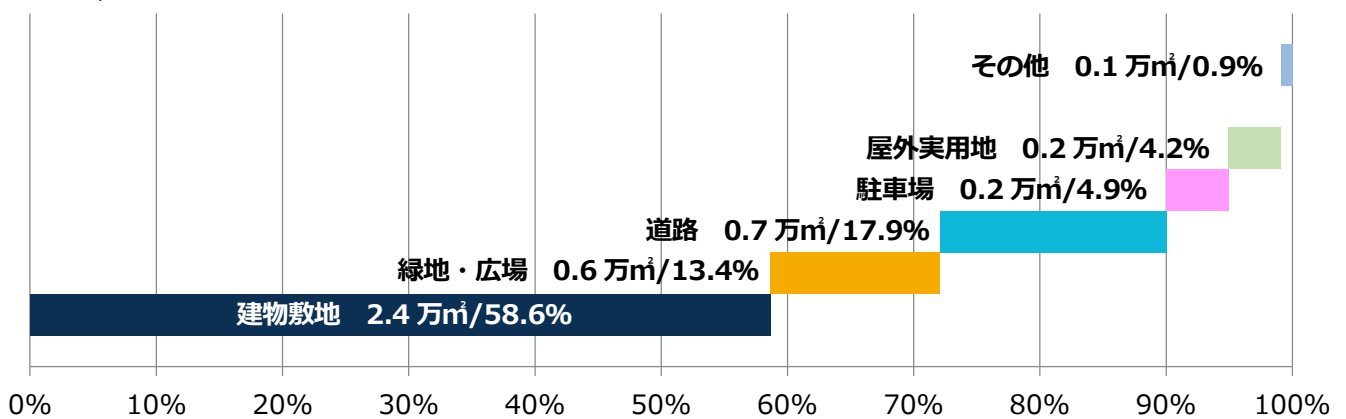


図表_1-6⑦ 観音寺キャンパスの敷地用途別面積

■ 観音寺キャンパスの校舎等敷地利用状況区分別面積（2020.5.1 現在）

観音寺キャンパスの校舎敷地 4.2 万㎡の内訳を見ると，建物敷地が 59%，緑地・広場や屋外運動場が 7%～16%の面積を占めている。（図表_1-6⑧）

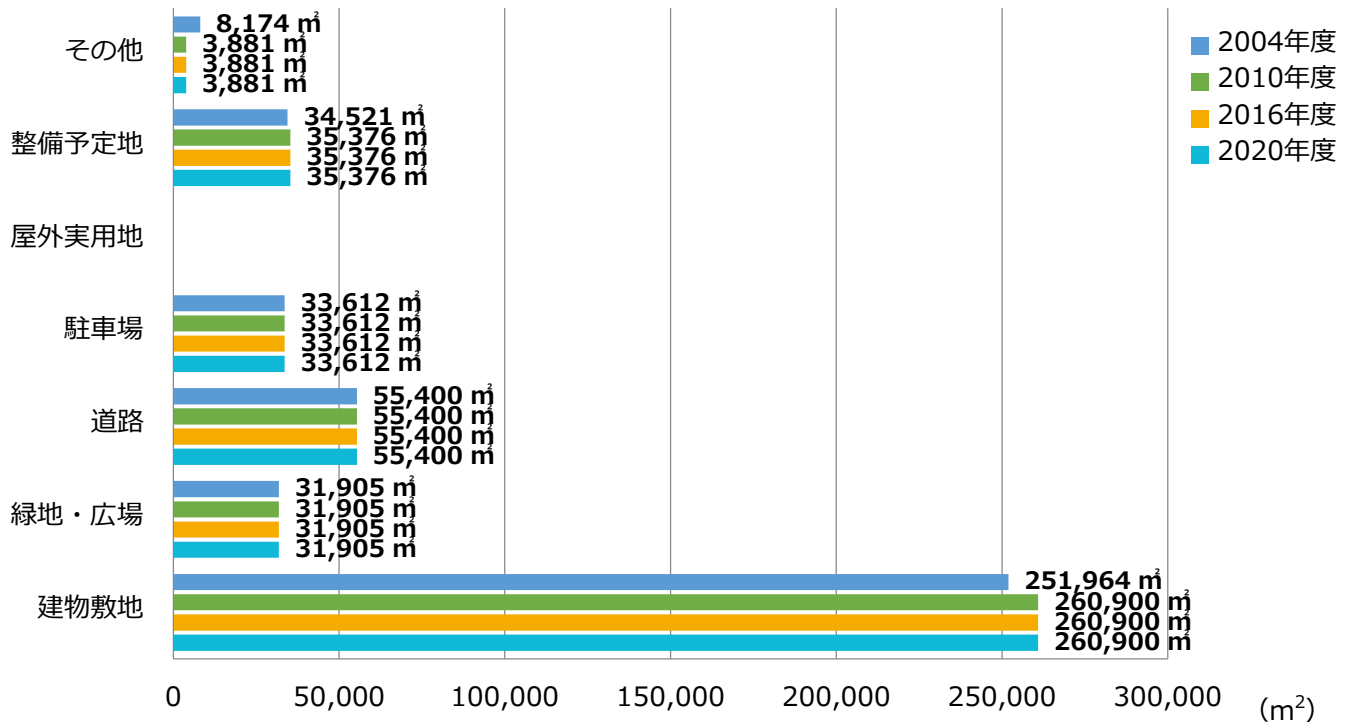
観音寺キャンパスは丘陵な敷地であり，傾斜地が多いことから整備予定地が確保できていないため，将来の施設整備は，建物の配置計画を十分に検討した上で整備していく必要がある。



図表_1-6⑧ 観音寺キャンパスの校舎等敷地利用状況区分別面積

■ 上浜キャンパスの校舎等敷地の利用状況の推移（2020.5.1 現在）

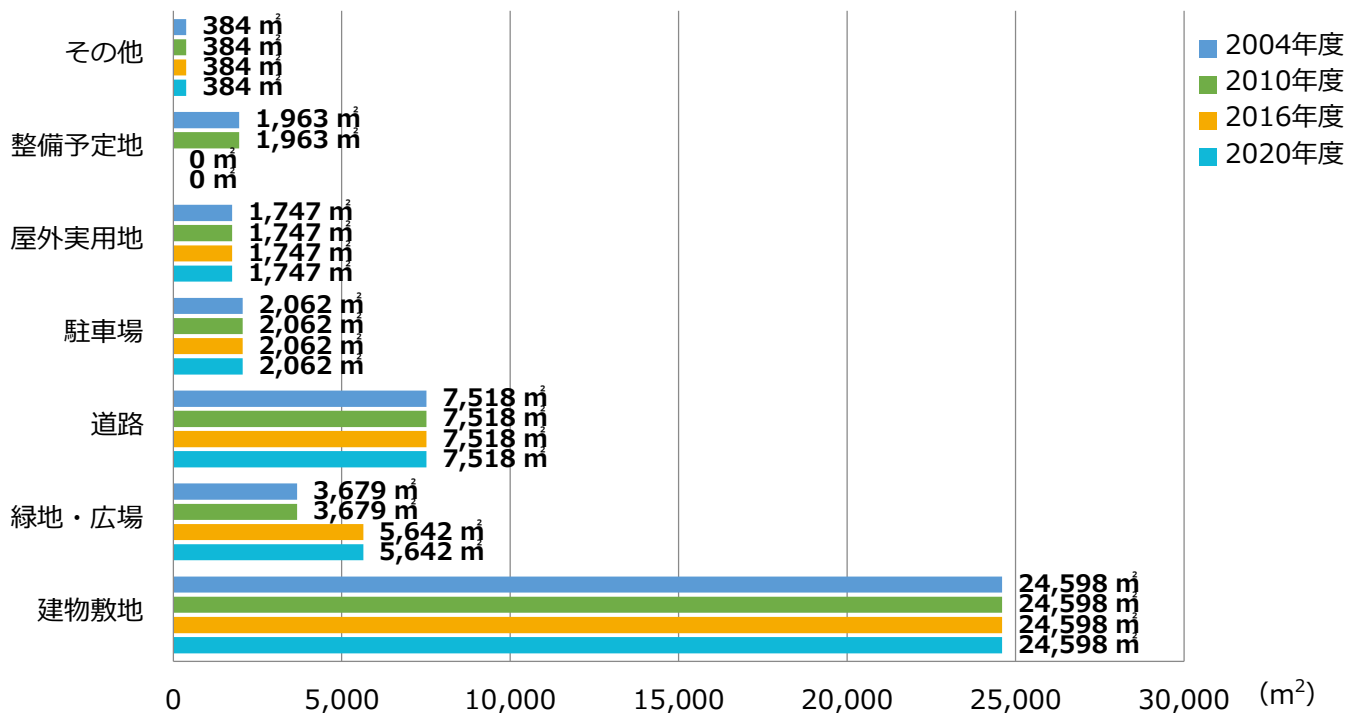
上浜キャンパスの校舎等（校舎敷地+附属病院敷地+附属研究所敷地）では、建物敷地が拡大しているが、大きく変化していないことから、附属病院再開発整備を除き必要最低限の増築に抑制した戦略的リノベーションによる施設マネジメントを実施してきたことが分かる。（図表_1-6⑨）



図表_1-6⑨ 上浜キャンパスの校舎等敷地の利用状況の推移

■ 観音寺キャンパスの校舎敷地の利用状況の推移（2020.5.1 現在）

観音寺キャンパスの校舎敷地では、整備予定地が緑地・広場に転用されているが、大きく変化していないことから、戦略的リノベーションによる施設マネジメントを実施してきたことが分かる。また、整備予定地が確保できていないといった課題を抱えている。（図表_1-6⑩）



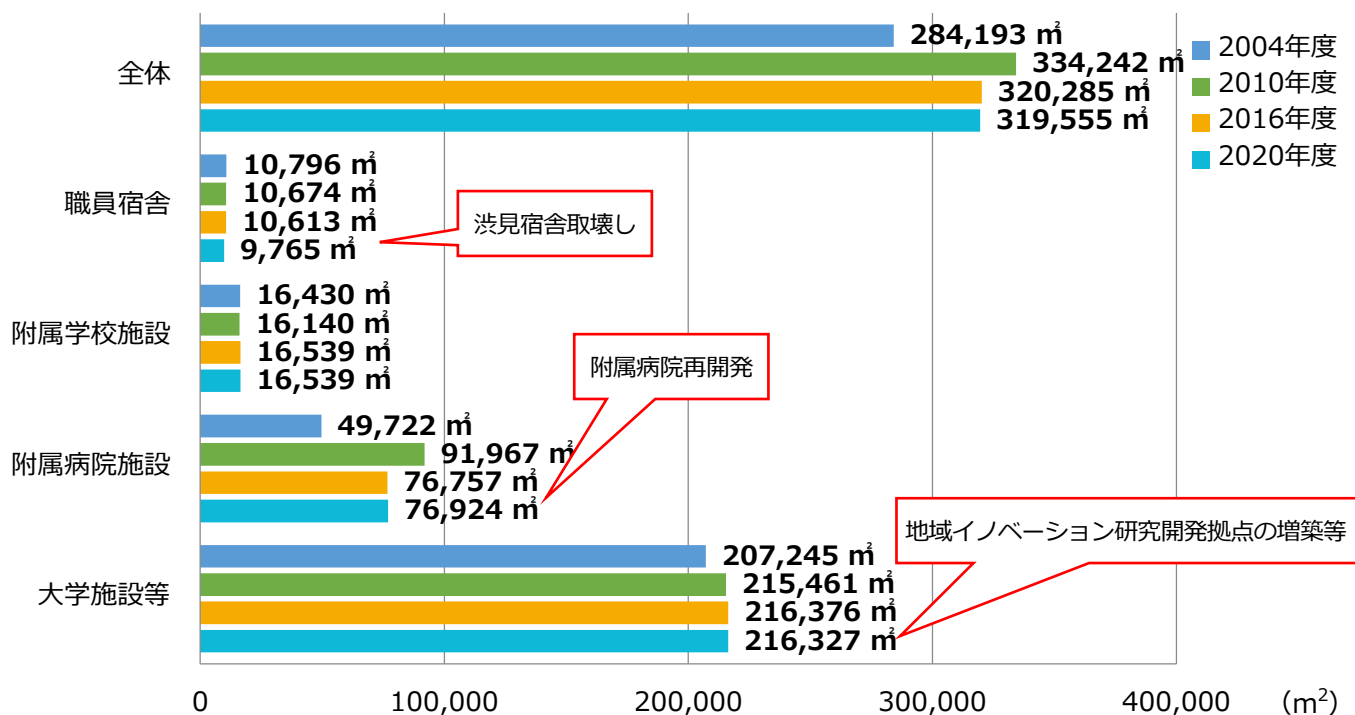
図表_1-6⑩ 観音寺キャンパスの校舎敷地の利用状況の推移

1-6-4 所有面積・職員宿舍の状況

■ 本学の所有面積の推移（2020.5.1 現在）

本学の所有面積の推移を見ると、大学施設等は地域連携活動の活性化により地域連携スペースが約 0.9 万 m^2 増加している。附属病院施設は地域医療のニーズに対応する附属病院再開発により約 2.7 万 m^2 増加している。

これらの所有面積増は、本学の中期目標を達成するための必要最低限の増改築・借用であり、施設マネジメントが有効に機能していることが分かる。（図表_1-6①）



図表_1-6① 本学の所有面積の推移

■ 職員宿舍の状況（2020.5.1 現在）

職員宿舍は、津市内の4か所の敷地に整備されている。

三重大学職員宿舍概要					
宿 舎 名	所 在 地	土地面積	建物延べ床面積	棟数	将来計画
観音寺宿舍	津市観音寺町 359	2,512 m^2	2,295 m^2	2	処分
江戸橋1丁目宿舍	津市江戸橋一丁目 106	1,831 m^2	892 m^2	1	用途変更
美杉宿舍	津市美杉町川上 783-3	198 m^2	43 m^2	1	処分
鳥居住宅	津市鳥居町 191-2	8,564 m^2	6,535 m^2	5	集約化

※ 美杉宿舍 土地面積 198 m^2 …… 2020.6 売却済み
 渋見宿舍 土地面積 1,944 m^2 …… 2020.5 売却済み

1-7 クオリティマネジメント

高度化・多様化する教育分野，研究分野，産学官連携・地域連携分野，国際化分野，診療分野の活動に対応するため，機能性，防災・事故防止等の安全性，施設利用者の快適性・利便性を確保し，個性的で魅力あるキャンパスづくりを進めるとともに，施設の長寿命化，省エネルギー・省資源に配慮した施設水準の向上を図るために「クオリティマネジメント」を推進する。

特に，大学全体の現状を把握し，施設の役割機能，将来構想を踏まえ，キャンパス全体及びキャンパス計画に設定されている各ゾーン（エリア）について，キャンパスの良好な環境を維持し，将来へつなぐための有効活用を行うことが必要である。

1-7-1 施設の老朽化

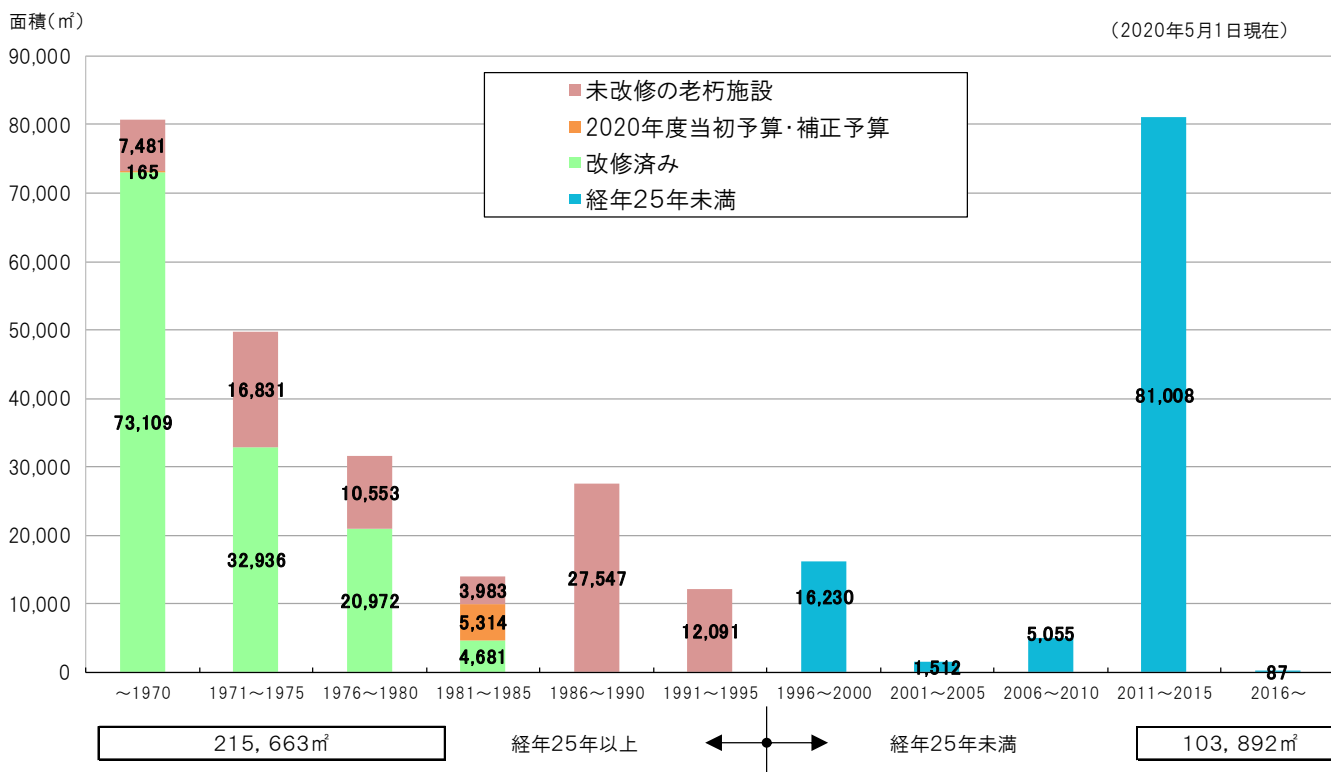
本学が所有している施設約 32.0 万㎡（東京ドーム 7 個分）のうち，経年 25 年を経過した改善が必要な老朽未改修の施設は約 8.4 万㎡（所有面積の約 3 割）存在し，第 4 期中期目標期間が終了する 2028 年 5 月 1 日現在では約 9.2 万㎡に増加するため，老朽化対策が急務となっている。（図表_1-7①，②，③，④，⑤，⑥）

建物の老朽化は不可避なことであるが，経年 25 年以上の建物が増え続け老朽化対策が遅れると，施設の劣化に伴う安全・衛生面のリスクだけでなく，持続的な教育研究活動の維持や施設の長寿命化への対応が遅れることが懸念されることから，多様な教育研究診療活動に支障が生じ，活動のさらなる発展に影響を及ぼすことにつながりかねない。

国立大学法人三重大学 施設の経年別所有面積 <2020年5月1日現在>

経年25年以上の老朽施設は約67% うち、未改修老朽施設は約27%存在

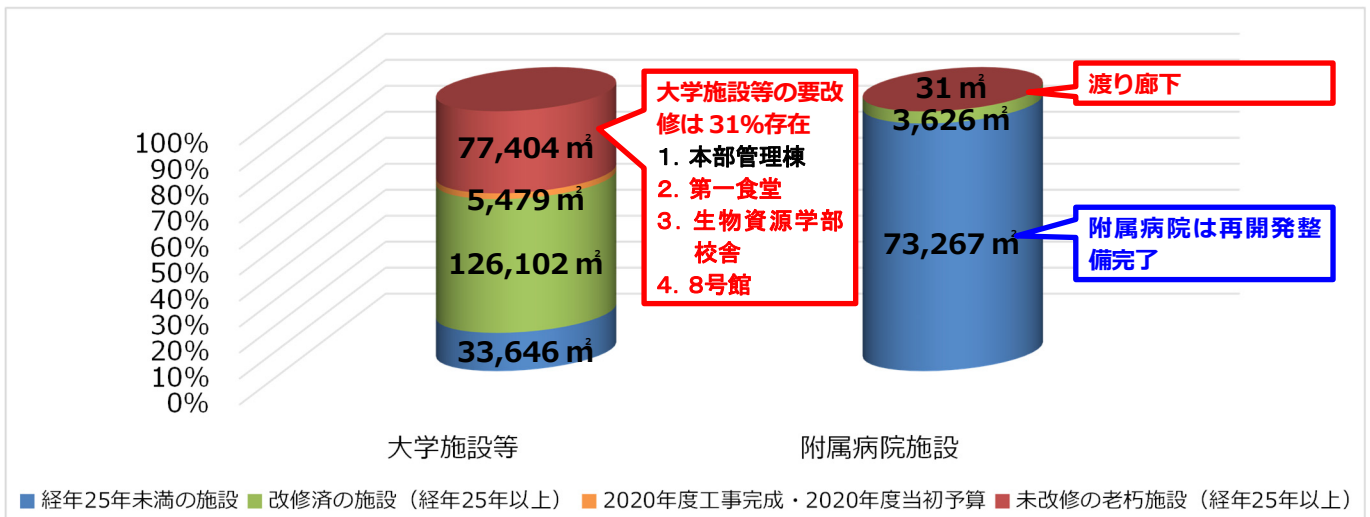
- ・国立大学法人三重大学の所有施設は319,555㎡
- ・経年25年以上の老朽化施設は215,663㎡(約67%) うち、未改修の老朽化施設は83,965㎡(所有面積の約27%)
- ・2020年度当初予算・補正予算により整備される老朽施設は5,314㎡であり、未改修老朽施設は約27%→約25%(78,486㎡)に改善される。



※ 改修済には、自己財源による整備分も含む。また、内外部の機能改善まで完了しているもののみ計上している。

図表_1-7① 施設の経年別所有面積 (2020.5.1 現在)

国立大学法人三重大学 施設の経年別所有面積
 <2020年5月1日現在>



※ 改修済には、自己財源による整備分も含む。また、内外部の機能改善まで完了しているもののみ計上している。

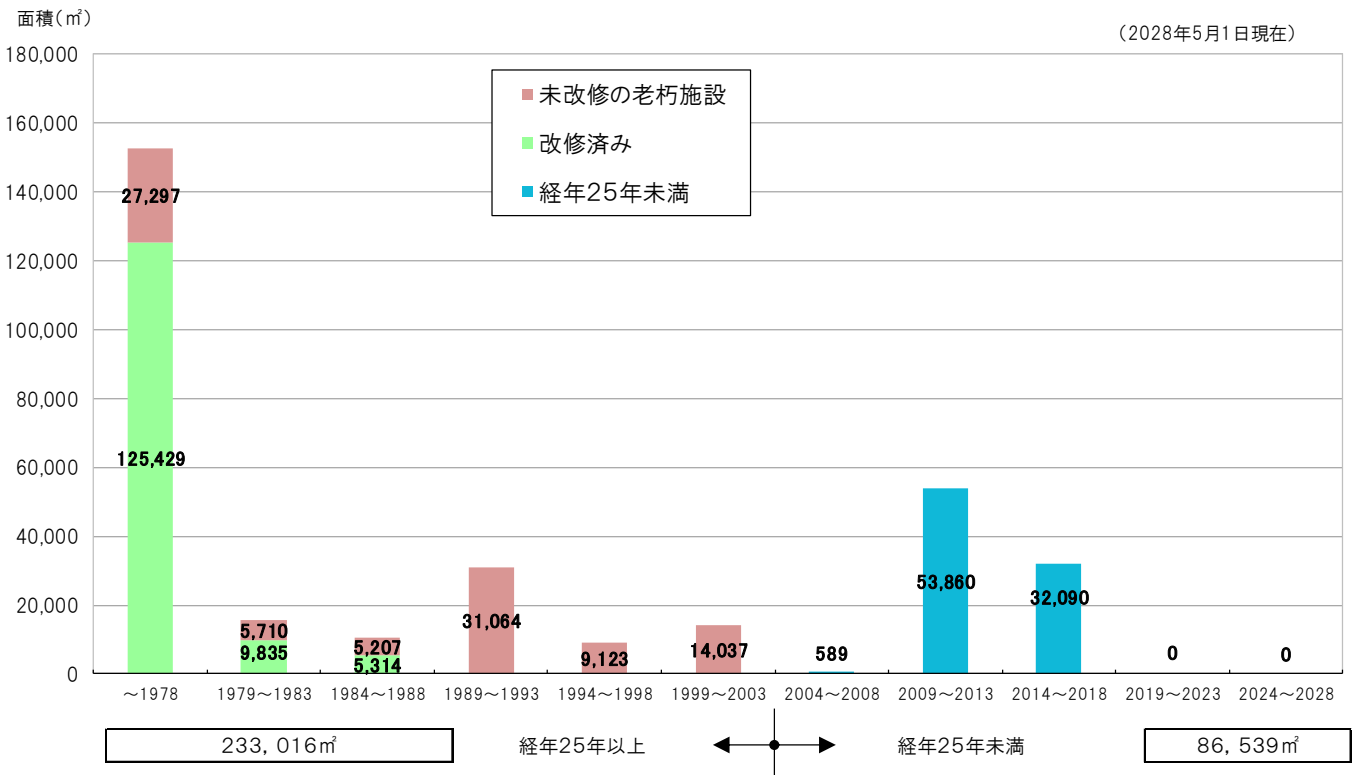
図表_1-7② 建物用途別の経年別所有面積 (2020.5.1 現在)



国立大学法人三重大学 施設の経年別所有面積
 <2028年5月1日時点>

経年25年以上の老朽施設は約73% うち、未改修老朽施設は約29%存在

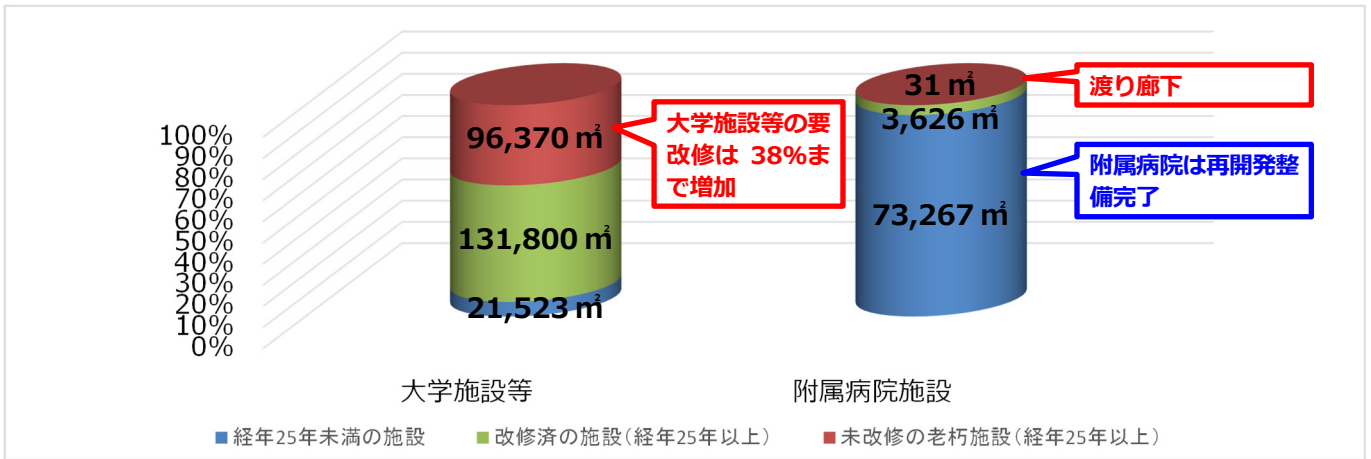
・国立大学法人三重大学の所有施設は319,555 m²
 ・経年25年以上の老朽施設は233,016 m²(約73%) うち、未改修の老朽施設は92,438 m²(所有面積の約29%)



※ 改修済には、自己財源による整備分も含む。また、内外部の機能改善まで完了しているもののみ計上している。

図表_1-7③ 施設の経年別所有面積 (2028.5.1 現在)

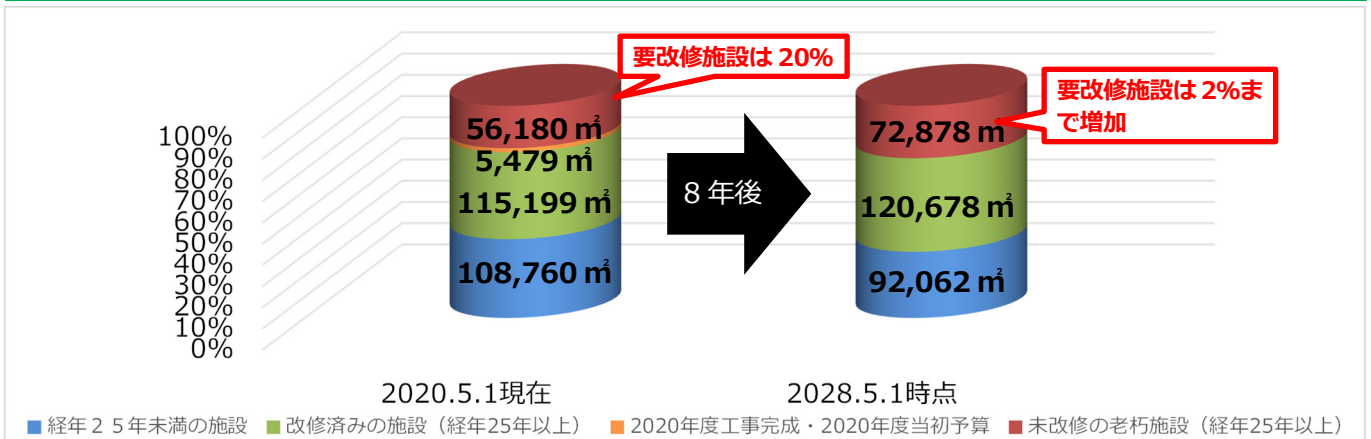
国立大学法人三重大学 施設の経年別所有面積
 <2028年5月1日現在>



※ 改修済には、自己財源による整備分も含む。また、内外部の機能改善まで完了しているもののみ計上している。

図表_1-7④ 建物用途別の経年別所有面積 (2028.5.1 現在)

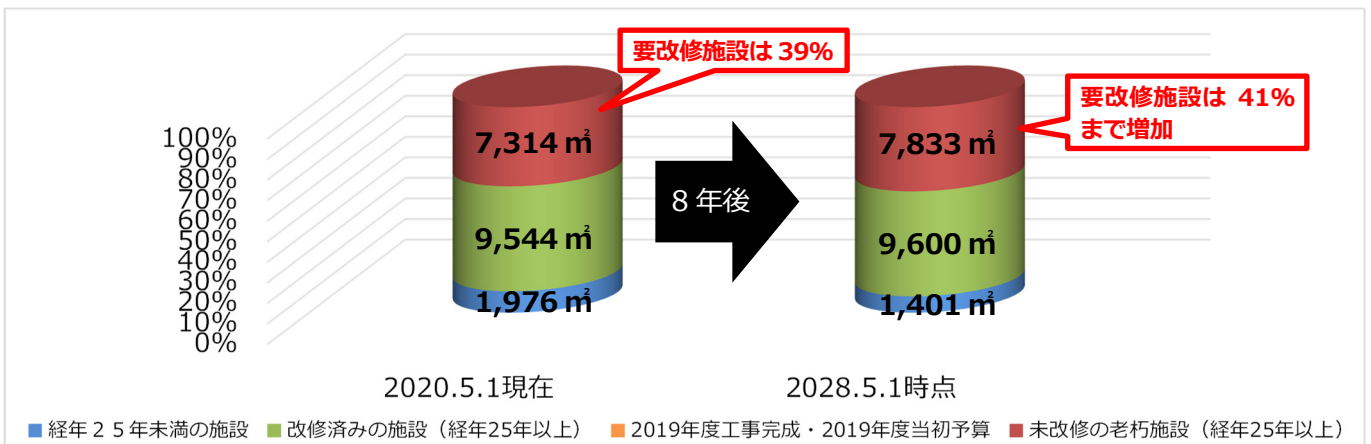
上浜キャンパスの経年別所有面積
 <2020年5月1日現在 ⇒ 2028年5月1日時点>



※ 改修済には、自己財源による整備分も含む。また、内外部の機能改善まで完了しているもののみ計上している。

図表_1-7⑤ 上浜キャンパスの経年別所有面積

観音寺キャンパスの経年別所有面積
 <2020年5月1日現在 ⇒ 2028年5月1日時点>

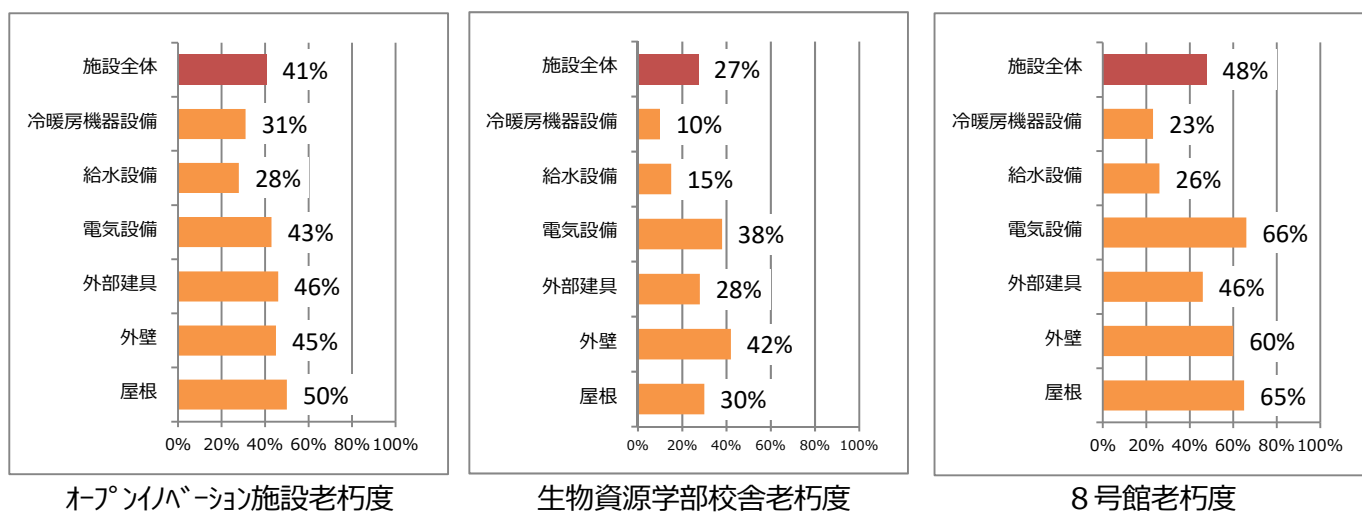


※ 改修済には、自己財源による整備分も含む。また、内外部の機能改善まで完了しているもののみ計上している。

図表_1-7⑥ 観音寺キャンパスの経年別所有面積

1-7-2 施設の部位別老朽化

本学の老朽化を評価するため、経年 25 年以上の教育研究施設で未改修の施設に関して、大学施設の性能評価システムの老朽化に関する事項を分析する。その結果を見ると、全体的に電気設備及び外壁の老朽度が高く、オープンインベーション施設は冷暖房機器設備の老朽化も進んでいる。



施設の老朽化評価は、定期的なメンテナンスを行っている部位の老朽度が低い傾向となっているが、設備系の老朽度が高い傾向となっているため、設備機器の不具合や設備配管からの漏水等により、教育・研究活動に支障をきたしかねない状況となっている。今後も経年による老朽化は不可避であり、年々劣化していくことから、維持管理費が増加し大学経営への負担が予想される。

これらのことから、建物の劣化に伴うリスク回避及び維持管理費の縮減等、良好なキャンパス環境の確保を図るため、キャンパス全体の老朽施設を的確に把握して、計画的な老朽改善を着実に実行することが重要になっている。

1-7-3 所有施設の一覧

本学の所有施設一覧を見ると、上浜キャンパス、観音寺キャンパス、高野尾キャンパスに 500m²以下の小規模施設が多いことが分かる。これは教育研究活動の進展に合わせて必要最低限の増築を繰り返してきた結果であり、外壁や屋上防水等のメンテナンス費上昇の一因となっている。今後は、教育研究機能の向上、維持管理費の縮減、CMP2018 に基づいた良好なキャンパス環境を確保するため、500m²以下の小規模施設及び 500m²～1,500m²程度の中規模施設を集約化していくことが重要になっている。特に、集約化による屋上防水面積、外壁面積、共通スペース（廊下・トイレ等）の縮減を図ることが、今後の施設運営費を抑制することにつながる。（図表_1-7⑦）

図表_1-7⑦ 所有施設の一覧（2020.5.1 現在）

〔 黄色は 500m²以上で経年 25 年以上の要改修施設／紫色は工事中・令和 3 年度工事予定の施設
青色は 500m²以下で経年 25 年以上の要改修施設／薄青色は 500m²以下の小規模施設 〕

棟番号	棟名称	建築年	構造	地上階	施設区分名称	棟計	経年
上浜-1	車庫	1973	S	1	大学管理施設	98 m ²	47
上浜-2	倉庫	1969	R	1	大学管理施設	57 m ²	51
上浜-3	本部管理棟	1973	R	5	大学管理施設	3093 m ²	47
上浜-5	インフォメーションセンター	1974	R	1	大学管理施設	48 m ²	46
上浜-15	教育学部校舎一号館	1968	R	4	大学教育・研究施設	9112 m ²	52
上浜-16	校舎別棟	1955	R	2	大学教育・研究施設	228 m ²	65
上浜-17	薬品庫	1972	B	1	大学教育・研究施設	7 m ²	48
上浜-18	薬品庫	1968	B	1	大学教育・研究施設	12 m ²	52
上浜-19	技術棟	1968	R	2	大学教育・研究施設	1174 m ²	52
上浜-21	音楽棟	1968	R	2	大学教育・研究施設	1136 m ²	52
上浜-22	窯場	1972	B	1	大学教育・研究施設	20 m ²	48

棟番号	棟名称	建築年	構造	地上階	施設区分名称	棟計	経年
上浜-23	美術棟	1972	R	3	大学教育・研究施設	761 m ²	48
上浜-27	教職支援センター	1967	R	2	大学教育・研究施設	1741 m ²	53
上浜-29	情報教育棟	1974	S	2	大学教育・研究施設	196 m ²	46
上浜-31	教養教育 120 番教室	1967	R	1	大学教育・研究施設	245 m ²	53
上浜-32	教養教育校舎 1 号館	1967	R	4	大学教育・研究施設	4896 m ²	53
上浜-33	教養教育 190 番教室	1971	R	1	大学教育・研究施設	232 m ²	49
上浜-34	教養教育校舎 2 号館	1971	R	5	大学教育・研究施設	2489 m ²	49
上浜-35	第一体育館	1967	RS	2	大学体育施設	1853 m ²	53
上浜-36	教養教育校舎 3 号館	1973	R	3	大学教育・研究施設	1893 m ²	47
上浜-37	第一食堂	1970	R	2	大学支援施設	1254 m ²	50
上浜-38	プロパン庫・食品庫	1970	B	1	大学支援施設	25 m ²	50
上浜-41	総合研究棟Ⅱ A 棟	1966	R	4	大学教育・研究施設	4392 m ²	54
上浜-42	渡り廊下	1966	R	1	大学設備室等	12 m ²	54
上浜-43	総合研究棟Ⅱ D 棟	1966	R	1	大学教育・研究施設	248 m ²	54
上浜-44	渡り廊下	1966	R	1	大学設備室等	12 m ²	54
上浜-45	渡り廊下	1966	R	2	大学設備室等	26 m ²	54
上浜-46	総合研究棟Ⅱ B 棟	1965	R	4	大学教育・研究施設	3837 m ²	55
上浜-47	渡り廊下	1965	R	2	大学設備室等	50 m ²	55
上浜-48	総合研究棟Ⅱ C 棟	1965	R	2	大学教育・研究施設	680 m ²	55
上浜-50	薬品庫	1965	B	1	大学教育・研究施設	33 m ²	55
上浜-51	三翠会館	1936	W	2	大学支援施設	501 m ²	84
上浜-55	水理実験室	1966	R	1	大学教育・研究施設	375 m ²	54
上浜-56	材料実験室	1966	R	1	大学教育・研究施設	329 m ²	54
上浜-57	病理昆虫実験硝子室	1971	S	1	大学教育・研究施設	137 m ²	49
上浜-58	果樹学実験研究硝子室	1973	S	1	大学教育・研究施設	158 m ²	47
上浜-59	園芸実習実験硝子室	1968	S	1	大学教育・研究施設	158 m ²	52
上浜-63	生理生態実験室	1969	R	2	大学教育・研究施設	621 m ²	51
上浜-65	ボイラー室	1969	B	1	大学設備室等	20 m ²	51
上浜-66	機械実験室	1967	R	1	大学教育・研究施設	386 m ²	53
上浜-67	森林育成学実験硝子室	1972	S	1	大学教育・研究施設	160 m ²	48
上浜-69	共同実験室 (A 棟)	1971	RS	1	大学教育・研究施設	363 m ²	49
上浜-70	共同実験室 (C 棟)	1971	RS	1	大学教育・研究施設	480 m ²	49
上浜-71	共同実験室 (B 棟)	1971	R	2	大学教育・研究施設	546 m ²	49
上浜-72	育種・遺伝資源学温室	1969	S	1	大学教育・研究施設	158 m ²	51
上浜-73	有機廃液焼却室	1967	R	1	大学教育・研究施設	8 m ²	53
上浜-74	R I (生資) 実験施設	1967	R	1	大学教育・研究施設	193 m ²	53
上浜-75	共同実験室 (D 棟)	1971	S	1	大学教育・研究施設	217 m ²	49
上浜-81	農業生産技術学硝子室	1965	S	1	大学教育・研究施設	168 m ²	55
上浜-82	ポンプ室	1973	B	1	大学設備室等	7 m ²	47
上浜-84	射場	1930	W	1	大学体育施設	93 m ²	90
上浜-87	自動車車庫	1975	S	1	大学支援施設	101 m ²	45
上浜-88	プール管理室	1969	B	1	大学体育施設	78 m ²	51
上浜-89	課外活動用シャワー室	1974	B	1	大学体育施設	20 m ²	46
上浜-90	プール機械室	1969	B	1	大学体育施設	5 m ²	51
上浜-91	倉庫	1971	W	1	大学体育施設	211 m ²	49
上浜-92	合宿所	1975	S	1	大学支援施設	199 m ²	45
上浜-93	便所	1969	B	1	大学体育施設	43 m ²	51
上浜-94	総合運動場管理室	1968	B	1	大学体育施設	120 m ²	52
上浜-95	厩舎	1971	S	1	大学支援施設	160 m ²	49
上浜-96	便所	1969	B	1	大学体育施設	34 m ²	51
上浜-98	L 5 棟	1970	S	1	大学教育・研究施設	224 m ²	50
上浜-99	便所	1963	B	1	大学教育・研究施設	2 m ²	57
上浜-100	附属図書館	1978	R	3	大学図書館	8276 m ²	42
上浜-101	管理棟	1970	R	2	大学教育・研究施設	636 m ²	50
上浜-102	倉庫	1972	S	1	大学教育・研究施設	15 m ²	48
上浜-103	L 1 棟	1970	S	1	大学教育・研究施設	271 m ²	50
上浜-104	L 3 棟	1970	S	1	大学教育・研究施設	271 m ²	50
上浜-105	3 号館	1971	R	4	大学教育・研究施設	3954 m ²	49
上浜-106	講義棟 (B)	1971	R	1	大学教育・研究施設	446 m ²	49
上浜-107	薬品庫	1972	B	1	大学教育・研究施設	36 m ²	48
上浜-108	2 号館	1970	R	4	大学教育・研究施設	3723 m ²	50
上浜-109	講義棟 (A)	1970	R	2	大学教育・研究施設	482 m ²	50
上浜-110	1 号館	1970	R	4	大学教育・研究施設	3672 m ²	50
上浜-112	看護師宿舎	1975	R	4	附属病院	1323 m ²	45
上浜-113	国際女子学生寄宿舍	1973	R	4	大学宿泊施設	2112 m ²	47
上浜-119	総合医学教育棟	1973	R	2	大学教育・研究施設	2130 m ²	47
上浜-120	渡り廊下	1975	R	2	大学設備室等	27 m ²	45

棟番号	棟名称	建築年	構造	地上階	施設区分名称	棟計	経年
上浜-121	病態医科学研究棟	1975	SR	9	大学教育・研究施設	9804 m ²	45
上浜-122	渡り廊下	1975	R	2	大学設備室等	31 m ²	45
上浜-123	探索医科学研究棟	1974	R	3	大学教育・研究施設	3229 m ²	46
上浜-124	渡り廊下	1975	R	2	大学設備室等	20 m ²	45
上浜-125	車庫	1970	S	1	大学教育・研究施設	45 m ²	50
上浜-126	多用途棟	1970	S	1	大学教育・研究施設	288 m ²	50
上浜-127	危険物倉庫	1970	B	1	大学教育・研究施設	9 m ²	50
上浜-128	先端医科学教育研究棟	1970	R	5	大学教育・研究施設	9139 m ²	50
上浜-129	ボイラー棟	1970	S	1	大学設備室等	165 m ²	50
上浜-130	ポンプ室	1970	B	1	大学設備室等	35 m ²	50
上浜-132	乾燥室	1975	B	1	大学教育・研究施設	41 m ²	45
上浜-133	R I (医) 実験施設	1970	R	1	大学教育・研究施設	745 m ²	50
上浜-134	医学系サークル棟	1971	S	1	大学体育施設	389 m ²	49
上浜-135	製造実験工場	1971	RS	1	大学教育・研究施設	761 m ²	49
上浜-138	第二体育館	1971	S	2	大学体育施設	1445 m ²	49
上浜-139	車庫	1968	S	1	大学教育・研究施設	30 m ²	52
上浜-140	レーモンドホール	1971	W	1	大学教育・研究施設	279 m ²	49
上浜-141	課外倉庫 2	1968	B	1	大学支援施設	9 m ²	52
上浜-142	ポンプ室	1968	R	1	大学設備室等	16 m ²	52
上浜-143	課外倉庫 1	1968	B	1	大学支援施設	45 m ²	52
上浜-145	総合研究棟 I	1968	R	4	大学教育・研究施設	7674 m ²	52
上浜-146	射場	1973	S	1	大学体育施設	90 m ²	47
上浜-150	L 2 棟	1976	R	1	大学教育・研究施設	300 m ²	44
上浜-151	L 4 棟	1976	R	1	大学教育・研究施設	200 m ²	44
上浜-152	文化系サークル共用棟	1976	S	1	大学支援施設	352 m ²	44
上浜-153	第二食堂	1976	R	1	大学支援施設	997 m ²	44
上浜-154	動物実験施設	1976	R	3	大学教育・研究施設	4401 m ²	44
上浜-156	土壌肥料研究硝子室	1976	S	1	大学教育・研究施設	158 m ²	44
上浜-157	実習室	1977	S	1	大学教育・研究施設	189 m ²	43
上浜-158	体育系サークル共用棟	1977	S	1	大学支援施設	174 m ²	43
上浜-162	翠陵会館	1978	R	3	大学支援施設	1763 m ²	42
上浜-163	第二体育練習場	1978	S	1	大学支援施設	153 m ²	42
上浜-164	総合情報処理センター	1979	R	2	大学教育・研究施設	831 m ²	41
上浜-165	特別高圧受変電室	1979	R	2	大学設備室等	478 m ²	41
上浜-166	翠明荘	1979	R	2	大学支援施設	308 m ²	41
上浜-167	環境保全分析施設	1979	S	1	大学管理施設	344 m ²	41
上浜-168	講義棟 (C)	1979	R	2	大学教育・研究施設	569 m ²	41
上浜-169	共通棟	1979	R	1	大学教育・研究施設	99 m ²	41
上浜-170	教育学部校舎 二号館	1980	R	5	大学教育・研究施設	2486 m ²	40
上浜-171	女子学生寄宿舎	1980	R	3	大学宿泊施設	1160 m ²	40
上浜-172	共同棟	1980	R	1	大学宿泊施設	85 m ²	40
上浜-173	車庫	1980	S	1	大学管理施設	55 m ²	40
上浜-174	臨床講義室	1980	RS	2	大学教育・研究施設	621 m ²	40
上浜-175	生活排水処理施設	1980	R	1	大学管理施設	152 m ²	40
上浜-176	生活排水処理施設	1980	S	1	大学管理施設	94 m ²	40
上浜-177	外国人教師等宿泊施設	1980	R	1	大学宿泊施設	115 m ²	40
上浜-178	外国人教師等宿泊施設	1980	R	2	大学宿泊施設	308 m ²	40
上浜-179	数理・データサイエンス館	1980	R	3	大学教育・研究施設	579 m ²	40
上浜-180	変電室	1980	R	1	大学設備室等	60 m ²	40
上浜-181	8 号館	1981	R	3	大学教育・研究施設	654 m ²	39
上浜-182	4 号館	1981	R	4	大学教育・研究施設	3397 m ²	39
上浜-198	倉庫	1973	S	1	大学教育・研究施設	16 m ²	47
上浜-206	器具庫	1973	S	1	大学体育施設	49 m ²	47
上浜-207	倉庫	1974	S	1	大学支援施設	36 m ²	46
上浜-211	R I (医) 実験施設	1983	R	1	大学教育・研究施設	404 m ²	37
上浜-212	車庫	1983	S	1	大学管理施設	87 m ²	37
上浜-213	課外活動等共用施設	1983	R	2	大学支援施設	480 m ²	37
上浜-214	教養教育校舎 4 号館	1984	R	5	大学教育・研究施設	2192 m ²	36
上浜-215	人工気象装置室	1984	R	1	大学教育・研究施設	151 m ²	36
上浜-216	定型業務等運営・支援センター	1984	R	1	大学管理施設	82 m ²	36
上浜-217	人文学部校舎	1984	R	5	大学教育・研究施設	5314 m ²	36
上浜-218	ポンプ室	1985	B	1	大学設備室等	15 m ²	35
上浜-219	変電室	1986	R	1	大学設備室等	80 m ²	34
上浜-220	作物学硝子温室	1987	S	1	大学教育・研究施設	123 m ²	33
上浜-221	害虫隔離飼育室	1988	S	1	大学教育・研究施設	152 m ²	32
上浜-222	留学生会館 (単身棟)	1988	R	3	大学宿泊施設	993 m ²	32
上浜-223	留学生会館 (夫婦棟)	1988	R	2	大学宿泊施設	228 m ²	32

棟番号	棟名称	建築年	構造	地上階	施設区分名称	棟計	経年
上浜-224	屋内運動場	1988	R	1	大学体育施設	734 m ²	32
上浜-226	生物資源学部校舎	1990	SR	7	大学教育・研究施設	24780 m ²	30
上浜-228	5号館	1992	R	5	大学教育・研究施設	2263 m ²	28
上浜-229	地域イノベーション研究開発拠点A棟・B棟	1993	R	3	大学教育・研究施設	3677 m ²	27
上浜-230	三翠ホール	1995	SR	2	大学管理施設	4084 m ²	25
上浜-231	オープンイノベーション施設	1995	R	3	大学教育・研究施設	1210 m ²	25
上浜-232	電気室	1994	S	1	大学設備室等	26 m ²	26
上浜-233	高圧ガス貯蔵庫	1993	B	1	大学教育・研究施設	10 m ²	27
上浜-234	飼育棟	1995	S	1	大学教育・研究施設	300 m ²	25
上浜-235	飼育管理棟	1995	S	1	大学教育・研究施設	78 m ²	25
上浜-236	回流水槽棟	1995	S	1	大学教育・研究施設	70 m ²	25
上浜-237	高圧ガス貯蔵所	1995	B	1	大学教育・研究施設	10 m ²	25
上浜-238	7号館	1996	R	5	大学教育・研究施設	2782 m ²	24
上浜-239	油圧源庫	1996	B	1	大学教育・研究施設	18 m ²	24
上浜-240	講義棟（E）	1996	R	2	大学教育・研究施設	488 m ²	24
上浜-241	講義棟（D）	1992	R	2	大学教育・研究施設	334 m ²	28
上浜-243	6号館	2000	SR	6	大学教育・研究施設	4227 m ²	20
上浜-244	看護学科棟	2000	SR	6	大学教育・研究施設	7056 m ²	20
上浜-245	渡り廊下	2000	S	1	大学設備室等	108 m ²	20
上浜-246	事業系一般廃棄物置場	1998	B	1	大学管理施設	28 m ²	22
上浜-247	卓越型研究施設	2000	R	4	大学教育・研究施設	1513 m ²	20
上浜-249	特殊ガスボンベ庫	2003	R	1	大学教育・研究施設	16 m ²	17
上浜-250	ボンベ庫	2003	R	1	大学教育・研究施設	14 m ²	17
上浜-251	車庫	2002	S	1	大学管理施設	31 m ²	18
上浜-252	書籍倉庫	2002	S	1	大学管理施設	74 m ²	18
上浜-253	実験室	2002	S	1	大学教育・研究施設	27 m ²	18
上浜-254	計測機器室	2003	S	1	大学教育・研究施設	15 m ²	17
上浜-255	倉庫	2002	S	1	大学管理施設	24 m ²	18
上浜-256	防災備蓄倉庫	2002	S	1	大学管理施設	15 m ²	18
上浜-257	倉庫	2003	S	1	大学教育・研究施設	15 m ²	17
上浜-258	倉庫	2003	S	1	大学教育・研究施設	15 m ²	17
上浜-259	倉庫	2003	S	1	大学教育・研究施設	15 m ²	17
上浜-260	倉庫	2003	S	1	大学教育・研究施設	15 m ²	17
上浜-261	倉庫	2003	S	1	大学教育・研究施設	15 m ²	17
上浜-262	倉庫	2003	S	1	大学教育・研究施設	15 m ²	17
上浜-263	倉庫	2003	S	1	大学教育・研究施設	15 m ²	17
上浜-264	医療技術棟	2003	S	1	大学教育・研究施設	157 m ²	17
上浜-265	植物バイオ温室	2005	S	1	大学教育・研究施設	123 m ²	15
上浜-266	倉庫	2006	S	1	大学管理施設	15 m ²	14
上浜-267	倉庫	2006	S	1	大学管理施設	15 m ²	14
上浜-268	倉庫	2006	S	1	大学管理施設	15 m ²	14
上浜-269	倉庫	2006	S	1	大学管理施設	19 m ²	14
上浜-270	倉庫	2006	S	1	大学管理施設	15 m ²	14
上浜-271	倉庫	2006	S	1	大学管理施設	15 m ²	14
上浜-272	倉庫	2006	S	1	大学管理施設	15 m ²	14
上浜-273	立体駐車場	2006	S	1	大学管理施設	2658 m ²	14
上浜-274	車庫	2006	S	1	大学管理施設	57 m ²	14
上浜-275	立体駐車場	2006	S	2	大学管理施設	4404 m ²	14
上浜-276	ボンベ庫	2008	B	1	大学教育・研究施設	34 m ²	12
上浜-277	病棟・診療棟	2011	SR	12	附属病院	40650 m ²	9
上浜-278	外国人留学生寄宿舎A棟	2009	S	2	大学宿泊施設	762 m ²	11
上浜-279	外国人留学生寄宿舎B棟	2009	S	2	大学宿泊施設	762 m ²	11
上浜-280	エネルギーセンター	2010	R	3	大学設備室等	2481 m ²	10
上浜-281	臨床研究開発センター棟	2009	S	2	附属病院	224 m ²	11
上浜-282	さつき保育園	2010	W	2	大学管理施設	585 m ²	10
上浜-283	RO装置用倉庫	2010	R	1	大学設備室等	13 m ²	10
上浜-284	塩素用倉庫	2010	S	1	大学設備室等	13 m ²	10
上浜-285	駐輪場	2011	S	1	大学管理施設	31 m ²	9
上浜-286	管理施設	2011	S	2	附属病院	1296 m ²	9
上浜-287	環境・情報科学館	2011	R	3	大学教育・研究施設	2173 m ²	9
上浜-288	外来・診療棟	2014	R	5	附属病院	28361 m ²	6
上浜-289	地域イノベーション研究開発拠点C棟・D棟	2013	R	5	大学教育・研究施設	4764 m ²	7
上浜-290	発電機室(防潮壁)	2013	R	1	大学設備室等	50 m ²	7
上浜-291	発電機室(動物実験施設)	2013	R	1	大学設備室等	41 m ²	7
上浜-292	第一体育練習場	2014	S	1	大学体育施設	154 m ²	6
上浜-293	温室	2010	S	1	大学教育・研究施設	15 m ²	10
上浜-294	ハーモニーハウス	2014	W	1	大学支援施設	113 m ²	6

棟番号	棟名称	建築年	構造	地上階	施設区分名称	棟計	経年
上浜-295	外国人留学生寄宿舎C棟	2015	S	2	大学宿泊施設	952㎡	5
上浜-296	外国人留学生寄宿舎D棟	2015	S	2	大学宿泊施設	952㎡	5
上浜-297	永井記念トレーニングルーム	2015	S	1	大学体育施設	106㎡	5
上浜-298	駐車場整理事務所	2017	S	1	附属病院	87㎡	3
高野尾-1	管理棟	1970	R	2	大学教育・研究施設	1236㎡	50
高野尾-2	穀物庫	1970	B	1	大学教育・研究施設	80㎡	50
高野尾-3	資材庫	1970	S	1	大学教育・研究施設	130㎡	50
高野尾-4	堆肥舎	1970	B	1	大学教育・研究施設	128㎡	50
高野尾-5	育すう舎	1970	S	1	大学教育・研究施設	84㎡	50
高野尾-6	ケージ鶏舎	1970	S	1	大学教育・研究施設	90㎡	50
高野尾-7	平飼鶏舎	1970	S	1	大学教育・研究施設	72㎡	50
高野尾-8	豚舎	1970	S	1	大学教育・研究施設	128㎡	50
高野尾-9	羊舎	1970	S	1	大学教育・研究施設	66㎡	50
高野尾-10	牛舎	1970	S	1	大学教育・研究施設	360㎡	50
高野尾-11	礫耕温室	1970	S	1	大学教育・研究施設	260㎡	50
高野尾-12	ミスト耕温室	1970	S	1	大学教育・研究施設	260㎡	50
高野尾-13	土耕温室	1970	S	1	大学教育・研究施設	260㎡	50
高野尾-14	鉢物花卉温室	1970	S	1	大学教育・研究施設	260㎡	50
高野尾-15	ポイラー室	1970	S	1	大学設備室等	40㎡	50
高野尾-16	荷造調査室	1970	S	1	大学教育・研究施設	63㎡	50
高野尾-17	大農具室	1971	S	1	大学教育・研究施設	396㎡	49
高野尾-18	小農具室	1971	S	1	大学教育・研究施設	126㎡	49
高野尾-19	第1農産製造室	1971	S	1	大学教育・研究施設	498㎡	49
高野尾-20	第2農産製造室	1971	S	1	大学教育・研究施設	378㎡	49
高野尾-21	穀物乾燥調整室	1971	S	1	大学教育・研究施設	150㎡	49
高野尾-26	屋外便所	1970	R	1	大学設備室等	26㎡	50
高野尾-27	加圧ポンプ室	1970	R	1	大学設備室等	26㎡	50
高野尾-28	農具室	1971	S	1	大学教育・研究施設	75㎡	49
高野尾-29	果樹選果室	1972	S	1	大学教育・研究施設	149㎡	48
高野尾-30	学生宿泊所	1972	R	2	大学宿泊施設	525㎡	48
高野尾-31	油庫	1972	B	1	大学教育・研究施設	20㎡	48
高野尾-32	作業室兼機械室	1972	S	1	大学教育・研究施設	220㎡	48
高野尾-33	渡り廊下	1972	S	1	大学設備室等	9㎡	48
高野尾-34	園芸育苗温室	1971	S	1	大学教育・研究施設	90㎡	49
高野尾-35	実験用硝子室	1971	S	1	大学教育・研究施設	140㎡	49
高野尾-36	ブドウ温室	1971	S	1	大学教育・研究施設	122㎡	49
高野尾-38	林産ミスト温室	1971	S	1	大学教育・研究施設	165㎡	49
高野尾-39	畜産実験室	1972	S	1	大学教育・研究施設	119㎡	48
高野尾-40	乾草室	1972	S	1	大学教育・研究施設	60㎡	48
高野尾-41	トラクター車庫	1975	S	1	大学教育・研究施設	90㎡	45
高野尾-42	熱帯植物温室	1975	S	1	大学教育・研究施設	160㎡	45
高野尾-43	機械室	1977	B	1	大学設備室等	6㎡	43
高野尾-45	倉庫	1975	S	1	大学教育・研究施設	33㎡	45
高野尾-46	倉庫	1976	S	1	大学教育・研究施設	16㎡	44
高野尾-47	倉庫	1976	S	1	大学教育・研究施設	21㎡	44
高野尾-48	倉庫	1976	S	1	大学教育・研究施設	70㎡	44
高野尾-49	便所	1999	B	1	大学教育・研究施設	10㎡	21
高野尾-50	バイオマスガス発生装置棟	2002	S	1	大学教育・研究施設	162㎡	18
高野尾-51	倉庫	2002	S	1	大学教育・研究施設	15㎡	18
高野尾-52	倉庫	2004	S	1	大学教育・研究施設	15㎡	16
高野尾-53	畜糞備蓄室	2005	S	1	大学教育・研究施設	199㎡	15
美杉-8	育種育苗用硝子室	1967	S	1	大学教育・研究施設	19㎡	53
美杉-9	機械庫兼雨天作業室	1976	S	1	大学教育・研究施設	121㎡	44
美杉-10	管理棟学生宿泊施設	1978	R	2	大学教育・研究施設	1081㎡	42
美杉-11	車庫	1980	S	1	大学教育・研究施設	153㎡	40
美杉-12	危険物保管庫	1980	B	1	大学教育・研究施設	9㎡	40
観音寺-1	管理棟	1966	R	2	附属学校	1310㎡	54
観音寺-2	昇降口	1966	R	1	附属学校	115㎡	54
観音寺-3	校舎	1966	R	3	附属学校	2537㎡	54
観音寺-4	工作室	1966	S	1	附属学校	360㎡	54
観音寺-6	給食棟	1963	R	1	附属学校	188㎡	57
観音寺-7	実習生控室	1971	S	1	附属学校	60㎡	49
観音寺-8	昇降口	1963	R	1	附属学校	67㎡	57
観音寺-9	管理棟	1963	R	1	附属学校	536㎡	57
観音寺-10	校舎	1963	R	3	附属学校	2876㎡	57
観音寺-14	プール機械室	1971	S	1	附属学校	16㎡	49
観音寺-15	プール便所	1971	B	1	附属学校	14㎡	49

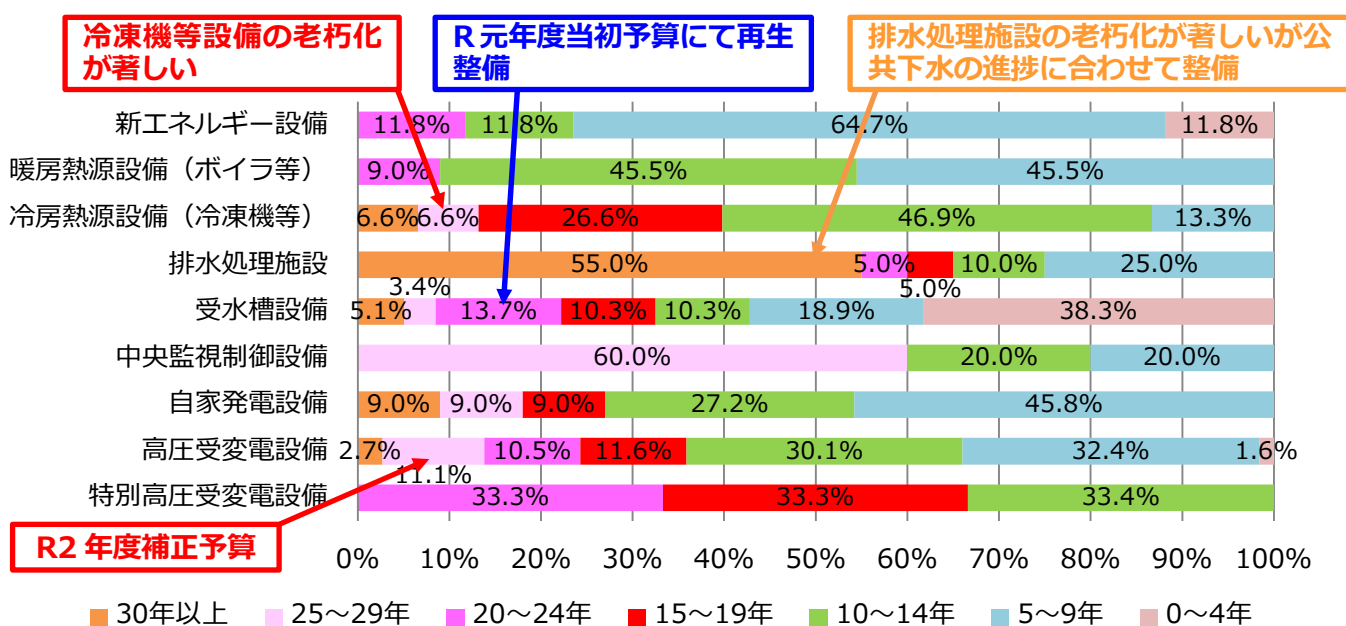
棟番号	棟名称	建築年	構造	地上階	施設区分名称	棟計	経年
観音寺-16	プール更衣室	1971	B	1	附属学校	76 m ²	49
観音寺-17	高等部校舎	1975	R	3	附属学校	1140 m ²	45
観音寺-18	小学部校舎	1966	R	2	附属学校	858 m ²	54
観音寺-20	渡り廊下	1967	S	1	大学設備室等	32 m ²	53
観音寺-21	中学部校舎	1967	R	1	附属学校	807 m ²	53
観音寺-22	体育館	1966	R	1	附属学校	820 m ²	54
観音寺-23	脱衣室	1968	B	1	附属学校	60 m ²	52
観音寺-24	園舎	1966	R	1	附属学校	607 m ²	54
観音寺-25	倉庫	1966	B	1	附属学校	23 m ²	54
観音寺-26	遊戯室	1966	R	1	附属学校	197 m ²	54
観音寺-32	C棟	1971	R	5	大学宿泊施設	1240 m ²	49
観音寺-33	B棟	1971	R	5	大学宿泊施設	1055 m ²	49
観音寺-40	園舎	1976	R	2	附属学校	149 m ²	44
観音寺-41	特別教室	1979	R	2	附属学校	625 m ²	41
観音寺-42	脱衣室	1980	B	1	附属学校	72 m ²	40
観音寺-45	石灰庫	1975	S	1	附属学校	10 m ²	45
観音寺-46	体育倉庫	1980	S	1	附属学校	35 m ²	40
観音寺-49	倉庫	1995	S	1	附属学校	29 m ²	25
観音寺-50	清掃用具庫	1979	S	1	附属学校	19 m ²	41
観音寺-55	教生控室	1972	S	1	附属学校	62 m ²	48
観音寺-56	倉庫	1974	S	1	附属学校	19 m ²	46
観音寺-59	第2特別教室	1983	R	2	附属学校	628 m ²	37
観音寺-60	武道場	1986	R	1	附属学校	350 m ²	34
観音寺-61	便所・シャワー室	1986	B	1	附属学校	49 m ²	34
観音寺-62	日常生活訓練施設	2001	W	1	附属学校	468 m ²	19
観音寺-63	クラブ倉庫2	2004	B	1	附属学校	34 m ²	16
観音寺-64	クラブ倉庫1	2004	B	1	附属学校	18 m ²	16
観音寺-65	屋内運動場	2014	RS	2	附属学校	1273 m ²	6
船頭-1	艇庫	1969	S	1	大学支援施設	205 m ²	51
栗真中山-1	男子寄宿舎	1969	R	4	大学宿泊施設	3723 m ²	51
栗真中山-2	プロバン庫	1969	B	1	大学宿泊施設	9 m ²	51
栗真中山-4	倉庫	1987	S	1	大学宿泊施設	58 m ²	33
江戸橋1-1	B棟・C棟	1975	R	4	大学宿泊施設	892 m ²	45
志摩-1	実験実習棟	1978	R	2	大学教育・研究施設	470 m ²	42
志摩-2	学生宿泊棟	1978	R	2	大学宿泊施設	403 m ²	42
志摩-3	艇庫	1978	S	1	大学教育・研究施設	120 m ²	42
志摩-4	水族飼育棟	1978	S	1	大学教育・研究施設	72 m ²	42
志摩-5	危険物倉庫	1978	B	1	大学教育・研究施設	6 m ²	42
志摩-6	管理棟	1979	W	1	大学教育・研究施設	64 m ²	41
松阪港-1	船具庫兼作業場	1981	R	2	大学教育・研究施設	400 m ²	39
松阪港-2	艇庫	1981	S	1	大学教育・研究施設	165 m ²	39
松阪港-3	倉庫	1981	B	1	大学教育・研究施設	9 m ²	39
鳥居住宅-1	1号棟	1972	R	5	大学宿泊施設	1238 m ²	48
鳥居住宅-2	2号棟	1973	R	5	大学宿泊施設	1238 m ²	47
鳥居住宅-3	3号棟	1975	R	5	大学宿泊施設	1353 m ²	45
鳥居住宅-4	4号棟	1976	R	5	大学宿泊施設	1353 m ²	44
鳥居住宅-5	5号棟	1978	R	5	大学宿泊施設	1353 m ²	42

1-7-4 基幹設備の老朽化

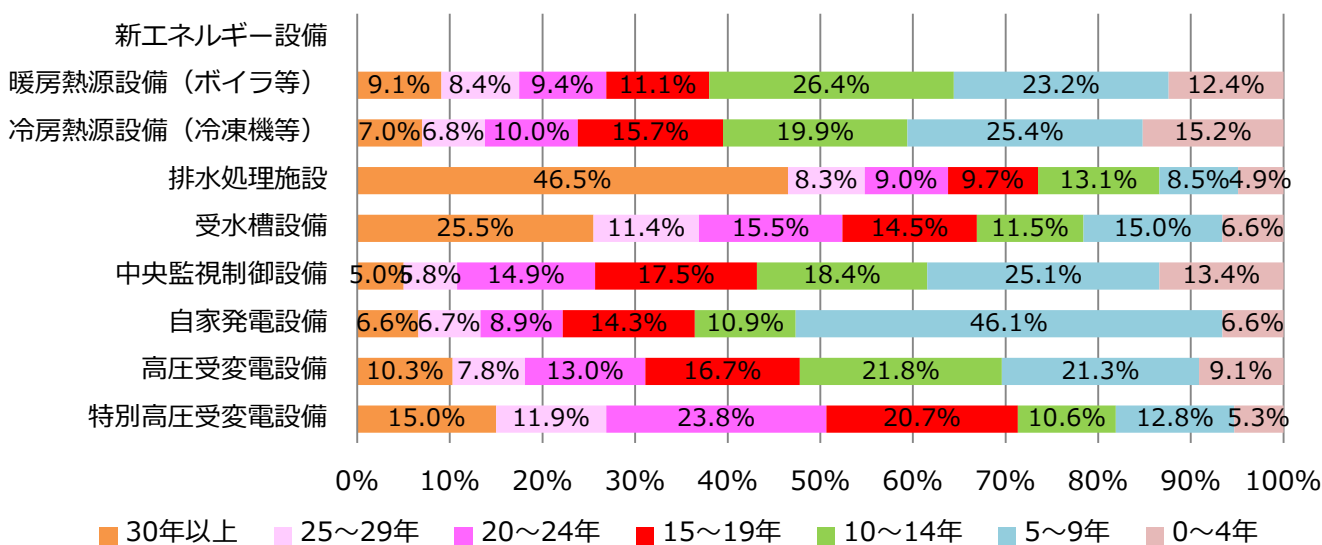
本学の主要な基幹設備（受変電設備，受水槽，空調設備等の建築設備）に関して，附属病院施設は再開発整備により基幹設備が更新され，老朽化改善整備が進んでいるが，大学施設は老朽化により保安上の問題を抱えた設備やエネルギーロスがあり環境負荷の大きい設備が残っている。

基幹設備の耐用年数は，一般的に15年～20年程度と言われており，20年を過ぎると故障の頻度が高まってくる。上浜キャンパスでは，冷熱源設備，排水処理施設，受水槽設備，高圧受変電設備の老朽化が進んでおり，令和元年度からの施設整備予算により受水槽設備の改善が進んでいる。（図表_1-7⑧，⑨）

教育研究診療活動の基盤である基幹設備の適切な更新が行われない場合には，電力や熱源を安定的に供給できないばかりか，大事故につながりかねないことから，重要性や緊急性を考慮に入れて計画的に改善整備を実施していかなければならない。



図表_1-7⑧ 三重大学 基幹設備経年年数分布 (2020.5.1 現在)



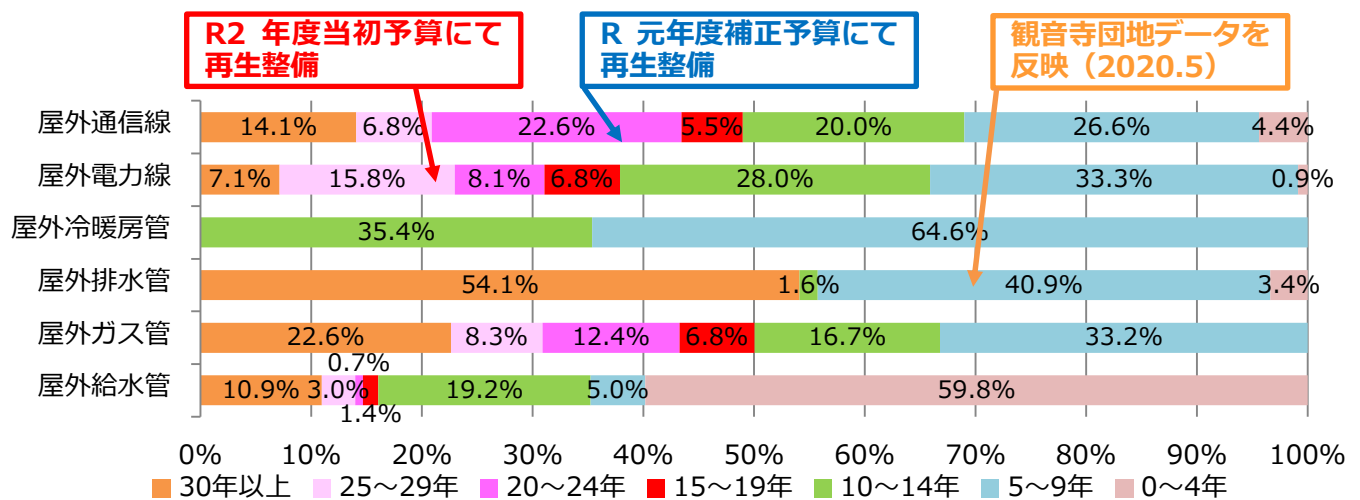
図表_1-7⑨ 全国平均 基幹設備経年年数分布 (2020.5.1 現在)

1-7-5 ライフラインの老朽化

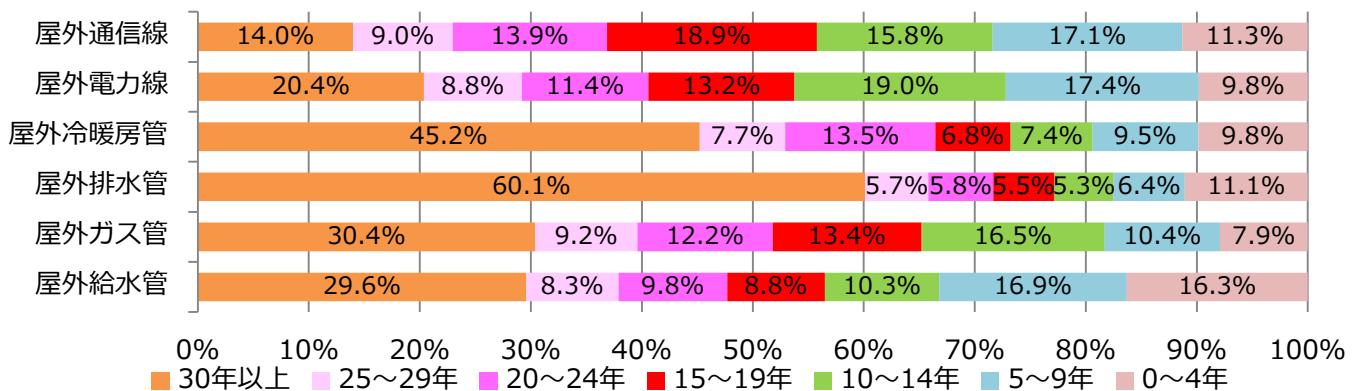
本学の主要なライフライン（電気、給排水、ガス、通信設備等の基幹配管・配線）は、平成26年度からの基幹・環境整備予算により老朽化改善整備が進んでいるが、老朽化により保安上の問題を抱えたライフラインが残っている。

ライフラインの耐用年数は、一般的に20年～25年程度と言われており、文部科学省の調査データによると25年を経過すると事故の発生率が高まり、30年を経過すると事故発生率が2倍になると言われている。上浜キャンパスでは、屋外通信設備、屋外給水管、屋外ガス管の老朽化が進んでおり、令和元年度からの施設整備予算により屋外通信設備と屋外給水管の改善が進んでいる。なお、屋外排水管に関しては管更生により再生が進んでいる。（図表_1-7⑩, ⑪, ⑫）

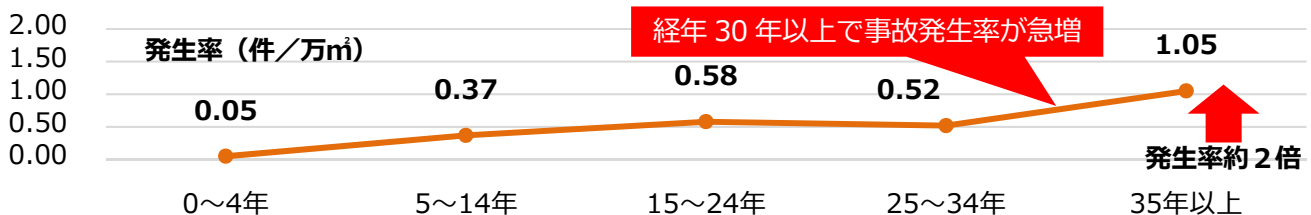
教育研究診療活動の基盤であるライフラインの適切な更新が行われない場合には、エネルギー等を安定的に供給できないばかりか、大事故につながりかねないことから、基幹設備と同様に重要性や緊急性を考慮に入れて計画的に改善整備を実施していかなければならない。



図表_1-7⑩ 三重大学 ライフライン経年年数分布 (2020.5.1 現在)



図表_1-7⑪ 全国平均 ライフライン経年年数分布 (2020.5.1 現在)

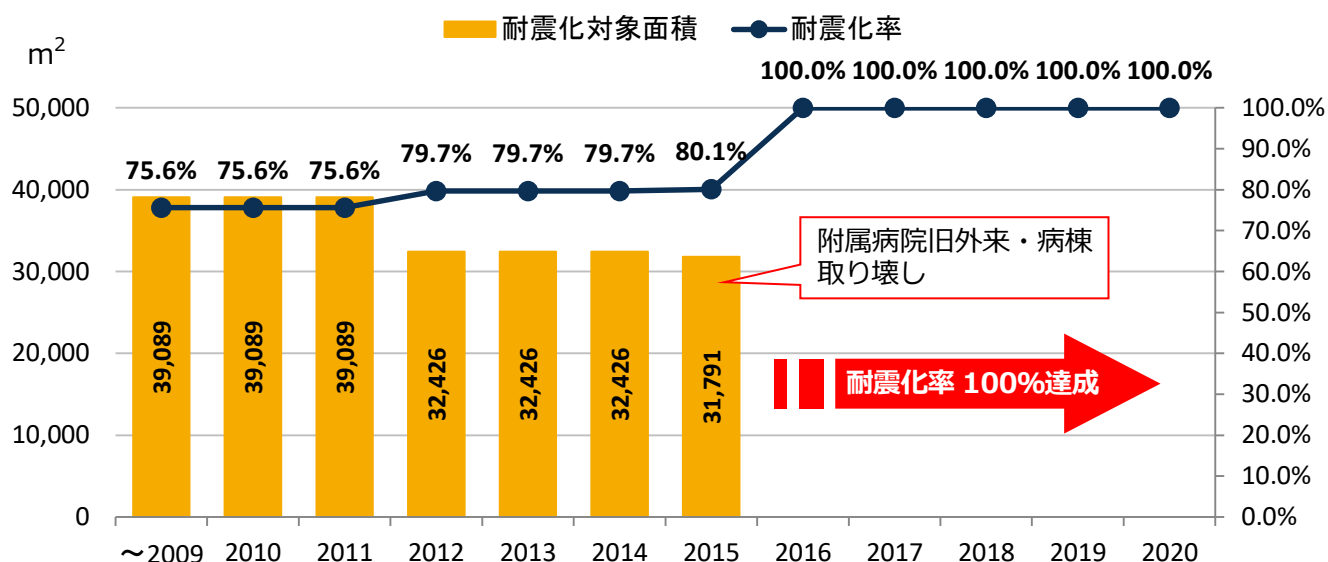


図表_1-7⑫ 未改修建物1万㎡当たりの事故発生率 (平成31年3月現在)

1-7-6 耐震性能の状況

本学は、1981年以前の旧耐震基準による耐震化対象建物は159,928m²所有していたが、文部科学省の3次にわたる5か年整備計画の実施によって、耐震性能が劣る建物の耐震補強改修が進められてきた結果、耐震化率100%を達成した。(図表_1-7③)

なお、文部科学省の学校構造設計指針において、耐震指標(Is値)の目標値を0.7以上(職員宿舎は0.6以上)としている。文教施設の耐震安全性の目標は、大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることとし、人命の安全確保に加えて機能確保が図られていることを前提としている。



図表_1-7③ 大学施設 耐震化率の推移 (2020.5.1 現在)

1-7-7 非構造部材の耐震性能の状況

東日本大震災において、非構造部材(天井材等)に大きな被害が生じたことから、老朽施設の改善と併せて、非構造部材の耐震対策強化についても早急に取り組む必要がある。本学では、2014年度に(上浜)講堂非構造部材耐震改修工事及び(観音寺)附属学校非構造部材耐震改修により対策を完了している。

1-7-8 公共下水道整備計画

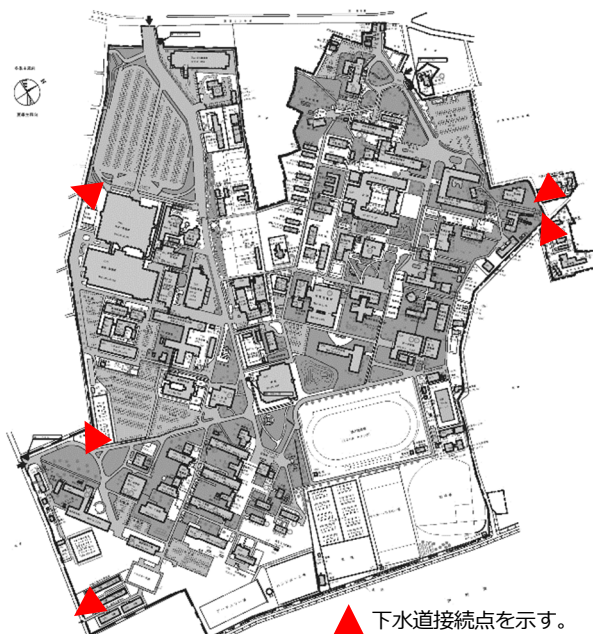
本学の公共下水道接続計画は、三重県及び津市が進めている下水道整備事業に基づくものである。

<上浜キャンパスの下水道整備事業計画> (図表_1-7⑭)

- ・病院接続点：2023年完成予定
- ・大学接続点：2024年完成予定
- ・留学生寄宿舍接続点：2024年～2026年完成予定
- ・女子学生寄宿舍や外国人教師等宿泊施設など：2027年以降の完成予定

<その他の下水道整備事業計画>

- ・観音寺(附小)：2021年完成予定
- ・観音寺(幼・中・特支)：2023年～2026年完成予定
- ・鳥居宿舎：2022年完成予定
- ・江戸橋1丁目宿舎：2023年～2026年完成予定
- ・栗真中山(男子寮)：2027年以降の完成予定



図表_1-7⑭ 上浜キャンパス下水道接続点

1-8 スペースマネジメント

学生・教職員によるスペースの必要以上の専有や既得権意識を排除して全学的にスペースを管理し、目的・用途に応じた施設の需給度合い、利用度等を踏まえながら、既存スペースを適切に再配分し、施設の有効活用に取り組むために「スペースマネジメント」を推進する。

教育分野、研究分野、産学官連携・地域連携分野、国際化分野、診療分野の進展により生じる新たな施設需要についても、既存施設の活用を最優先で検討する必要がある。

所有面積の増加は、コスト（定期的な改修費や毎年の維持管理費、光熱水費等）の増大につながることを認識し、所有施設の総量の最適化を図ることが重要であり、改修等の際には教育・研究・産学官連携・地域連携・国際化・診療に係る活動の変化に柔軟に対応できるような可変性を有した計画とする。

1-8-1 スペース管理

弾力的・流動的で最適なスペースの活用を図っていくためには、施設は全学の共有財産という意識改革が重要である。

本学はスペース管理に関して、毎年の「国立大学法人等施設実態調査」の調査時に全施設の調査・確認を行っている。さらに、既存施設の有効活用を目的とした施設利用状況調査（現地調査）について、担当理事を長とする施設整備委員会（2021年度から施設マネジメント会議に改組）委員が毎年度実施している。この利用状況調査は、使用責任者や使用状況等確認し、さらなる有効活用が可能である室については委員会より活用案を提示するとともに、利用状況の改善が求められる施設等は有効活用できるよう管理者と活用計画案を策定し、委員会に報告・理解を得るとともに計画に基づく取組を実施している。

1-8-2 全学共用スペース

「三重大学における施設の有効活用に関する規程」に基づく全学共用スペースは、競争的資金を導入して行う研究スペース、大学の戦略的な研究等に利用するスペース等に限定することとしており、使用申込の際は三重大学研究推進戦略室会議での選考を受けて施設整備委員会で審議し、学長が許可を行っている。

全学共用スペースとして、総合研究棟Ⅰ（1,684m²）、総合研究棟Ⅱ（3,132m²）、地域イノベーション施設A棟（472m²）の3棟に5,288m²を確保し、各種プロジェクトの推進や企業との共同研究及び若手研究者の研究スペースとして利用している。

2016年度には、既存の建物2棟を卓越型研究施設、オープンイノベーション施設へコンバージョンし、競争的スペースを506m²拡大した。また、若手研究者の研究スペースの確保等に関する要項に基づき、全学共用スペースの中に若手研究者が優先的に利用できるスペース211m²を確保している。

1-8-3 学長裁量スペース

2014年3月に全学共用スペースの一部（594m²）を学長裁量スペースとして確保し、学長のトップマネジメントとして機動的に使用できる様に規程改正を行い、産学連携研究スペースや優れた研究成果が見込める研究スペース等に配分している。

1-8-4 流動的・交流的なスペースの確保

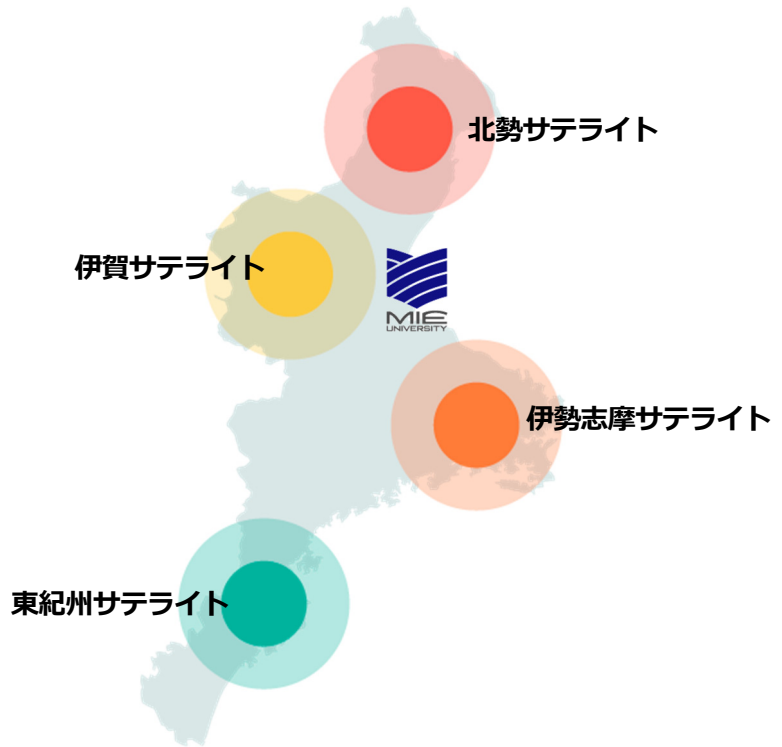
自己財源で建設した環境・情報科学館は、1階に情報発信スペース、2階にアクティブラーニングスペース、3階にPBL演習室等を設けており、学生・職員の異分野の交流スペースとして積極的に活用されている。

地域イノベーション研究開発拠点施設は、3階にラボスペースを設け、産学官連携の場として異分野交流を促進する拠点施設となっている。

2016 年度から順次開設している地域サテライト施設は、新たな施設を建設するのではなく自治体等の空き施設を有効活用しており、地方大学の役割の一つである「地域連携」「地方の活性化」に繋がるものである。

■地域サテライト

三重大学地域戦略拠点とは、三重県内の「伊賀」「東紀州」「伊勢志摩」「北勢」の 4 つのエリアに設置した地域サテライト（サテライトキャンパス）を通じて活動している。



1-8-5 スペースの再配分

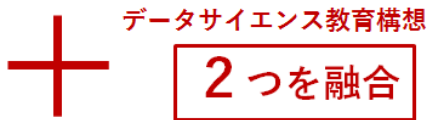
（上浜）総合研究棟改修（物理・化学系）工事では既設実験室を集約し、旧理科実験棟のスペースをデータサイエンス教育のための数理・データサイエンス館（579 m²）に再配分した。

共通政策課題（数理及びデータサイエンスに係る教育強化）取組
「実感できる」数理・データサイエンス教育の実現

データ収集力×分析力×発信力の育成

- ・データリテラシーⅠ：信頼できるデータの収集、機械可読性と人間可読性の区別、データの適切な可視化、**必携ノートPCを活用した統計分析入門、身近な実データを用いた分析・検定、分析結果のプレゼン・発信**など。
- ・データリテラシーⅡ：Iの発展的内容と専門教育課程への橋渡し

必携ノートPCをフル活用した
 数理データサイエンスの重要性や強さを「実感できる」PBL型実習



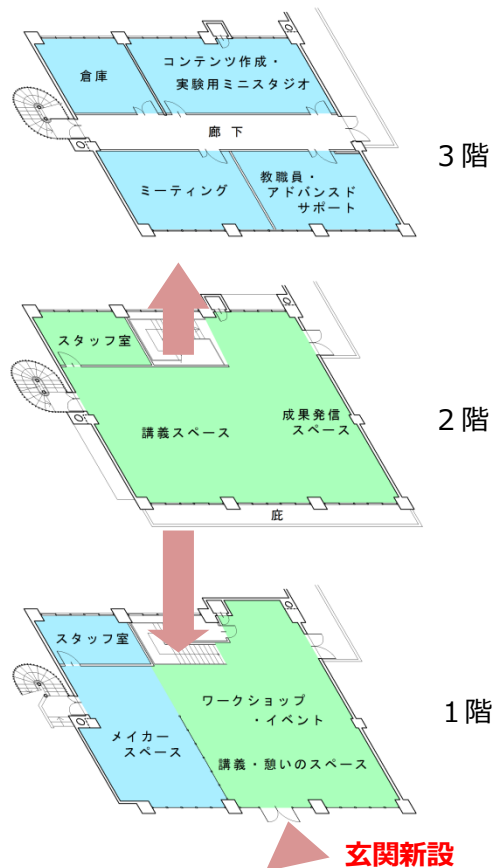
Society5.0の実現に向け三重大学はStep 1としてAI人材の育成をはかる
アクティブラーニングスペースとICTサポートデスク

アクティブラーニングスペース

必携ノートPCではできない「体感型・体験型」機能を授業・学習に提供し、新しいカリキュラムに対応する。スペースはオープンな雰囲気になるようにデザインし、教職員や学生の交流を促すとともに、ワークショップの開催や地域データの活用などによる地域貢献を行う。

ICTサポートデスク

新しい教材の作成が求められているため、教職員のICTスキルをサポートするためのICTサポートデスクを新たに設置し、ICT活用や教材作成を活性化させる。



令和元年度に新水産実験所の建設計画を決定し、令和3年2月に完成した。

自己財源2億円にて新水産実験所を整備

【水産実験所移転構想】

〔背景〕

三重大学水産実験所が抱える問題点



- 低標高の離島・東南海地震の震源域に所在、離島特有の防災対策の困難
- 学生・職員の安全確保が必要
- 老朽化(1978開所)
- 教育研究環境の改善・整備が必要

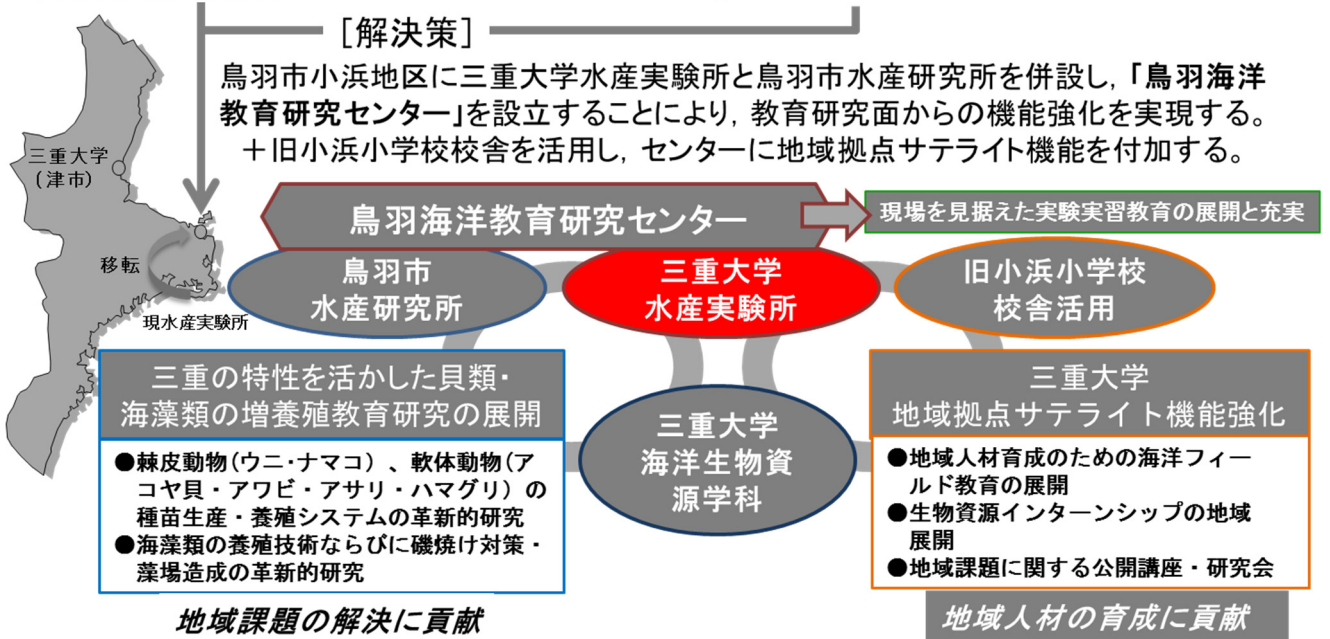
鳥羽市水産研究所が抱える問題点



- 離島に所在、離島特有の防災対策の困難
- 老朽化
- 小浜地区への移転計画

〔解決策〕

鳥羽市小浜地区に三重大学水産実験所と鳥羽市水産研究所を併設し、「鳥羽海洋教育研究センター」を設立することにより、教育研究面からの機能強化を実現する。
 +旧小浜小学校校舎を活用し、センターに地域拠点サテライト機能を付加する。

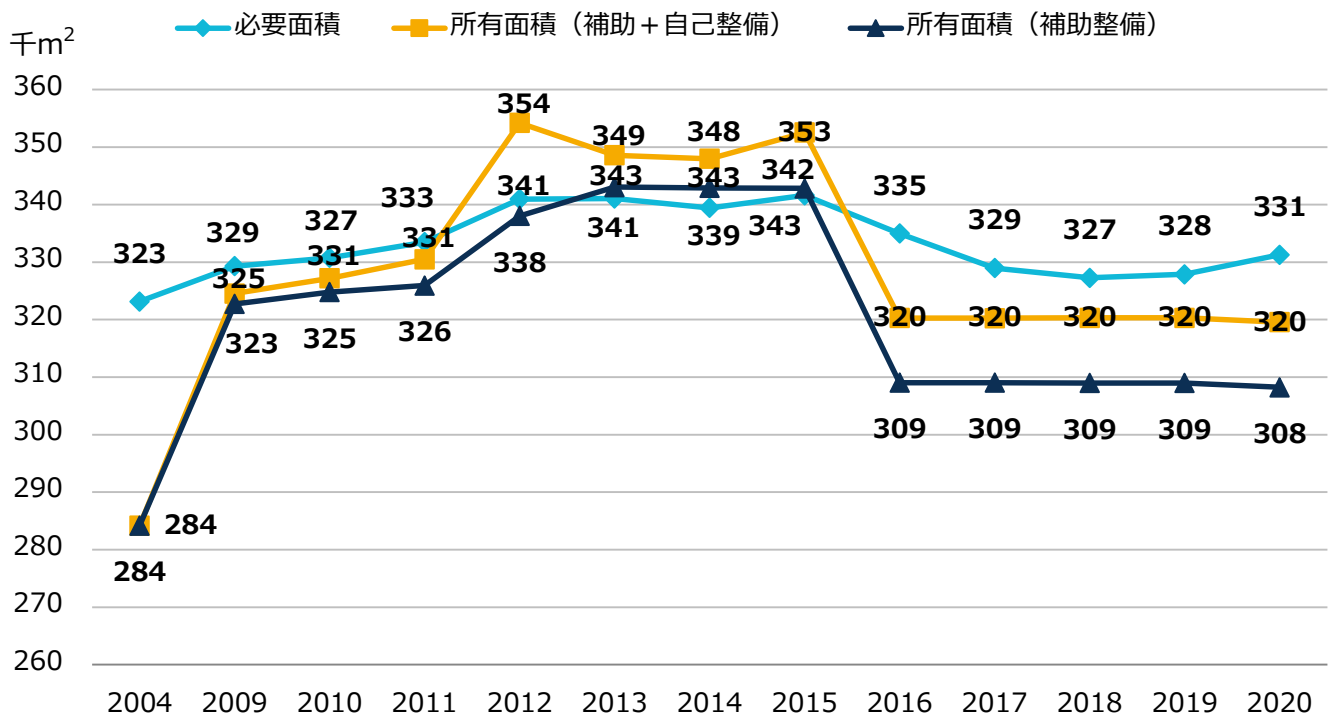


1-8-7 必要面積・所有面積・整備率の状況

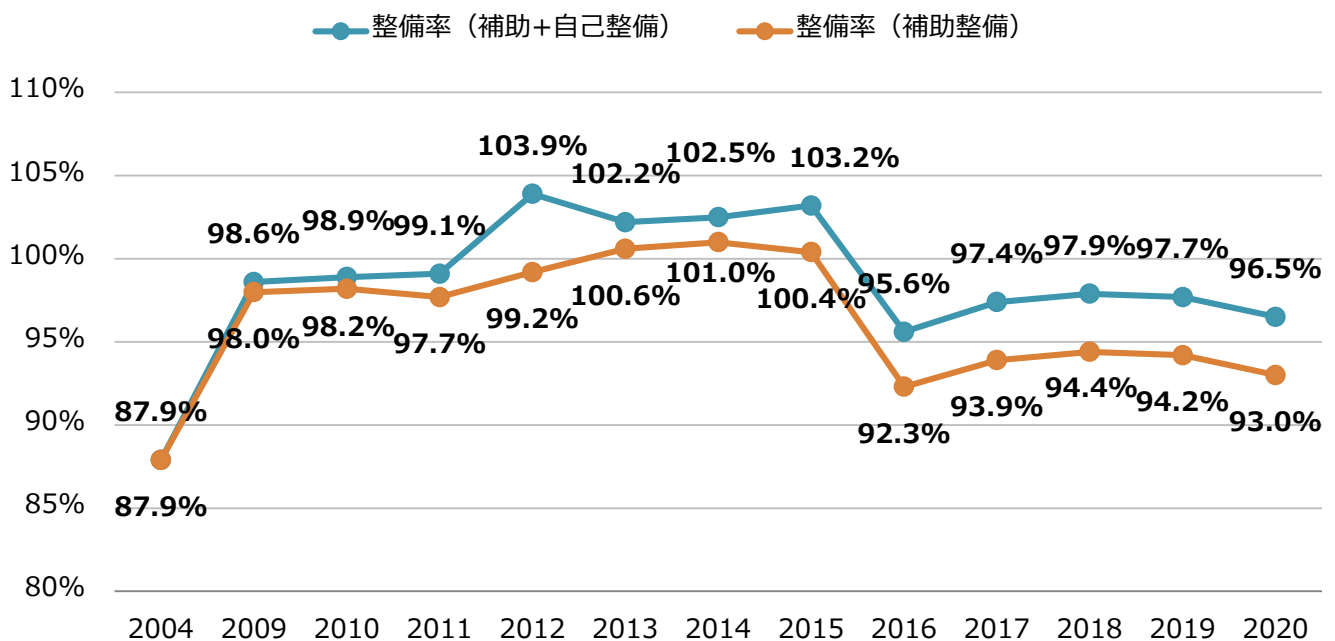
■必要面積・所有面積・整備率の推移（2020.5.1 現在）

本学が所有している施設は約 32.0 万 m^2 （東京ドーム 7 個分）であり、約 1 万 m^2 を自己財源，寄付金にて整備していることから，整備率（所有面積／必要面積）は 96.5%となっており，補助整備対象の整備率は 93.0%となっている。（図表_1-8①，②）

文部科学省が施設整備補助の根拠とする必要面積は，本学で約 33.1 万 m^2 であり，補助対象所有面積約 30.8 万 m^2 との差は約 2.3 万 m^2 となっている。



図表_1-8① 必要面積・所有面積の推移

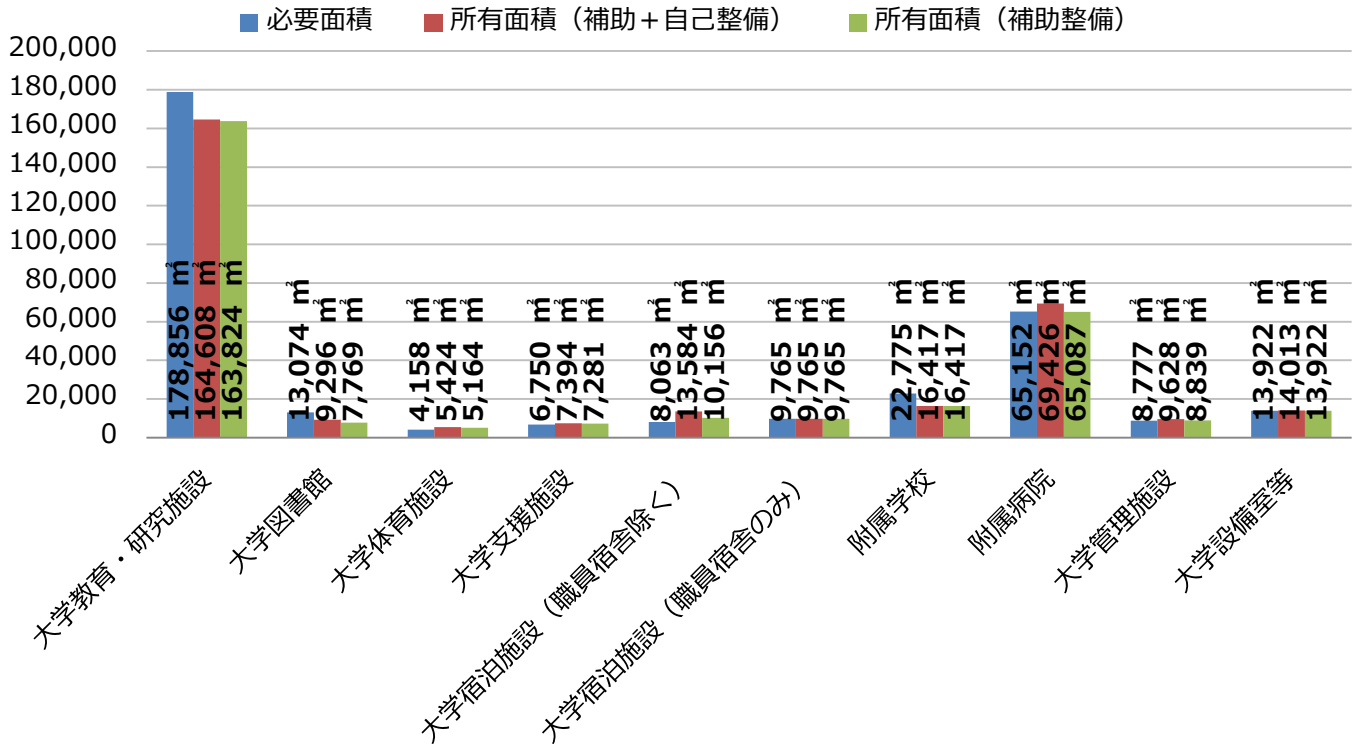


図表_1-8② 整備率の推移

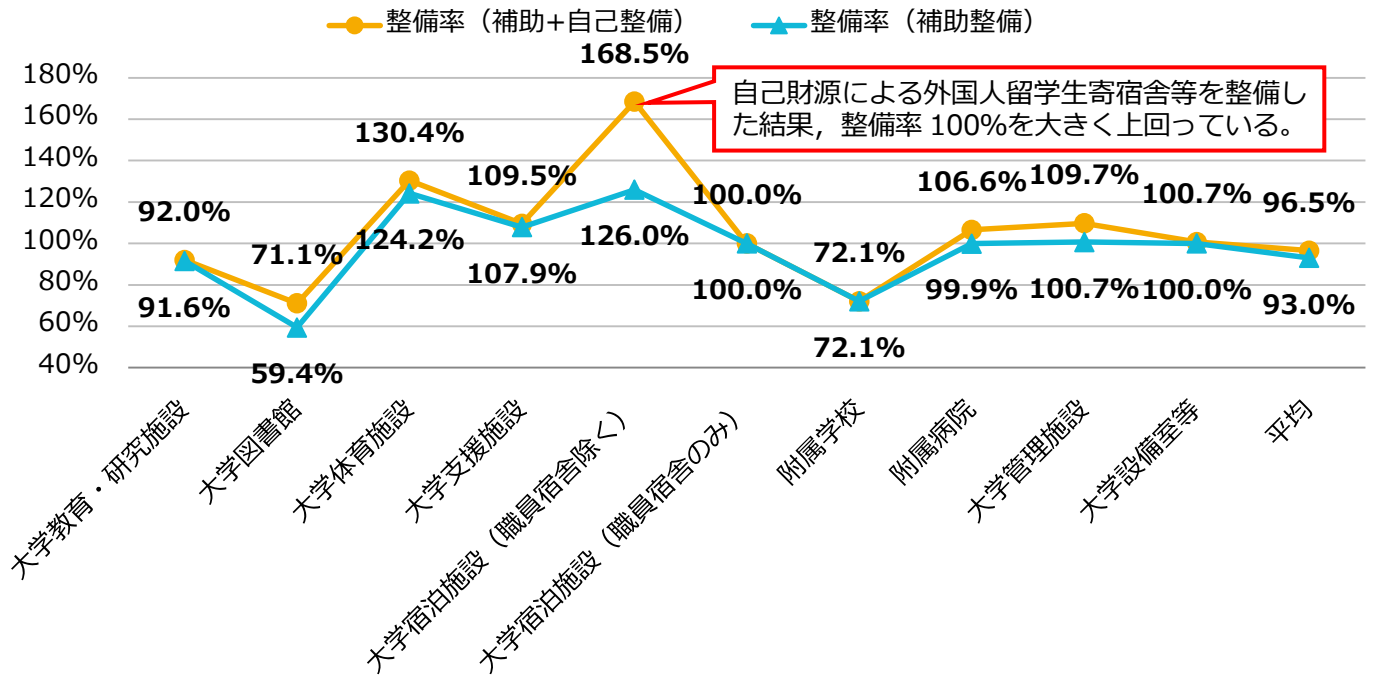
■施設用途別の必要面積・所有面積・整備率（2020.5.1 現在）

本学の施設別所有面積は、大半が大学教育・研究施設で占められていることから、大学教育・研究施設のスペース管理が重要と位置付けられる。また、施設用途別の整備率では、大学図書館と附属学校が低い整備率となっている。また、大学宿泊施設（職員宿舍除く）は、自己財源による整備を進めた結果、整備率100%を大きく上回っている。

整備率が平均と比較して大幅に下回っている大学図書館及び附属学校については、既存施設の有効活用を図った上で、狭隘解消を検討する必要がある。（図表_1-8③, ④）



図表_1-8③ 施設用途別必要面積・所有面積



自己財源による外国人留学生寄宿舍等を整備した結果、整備率100%を大きく上回っている。

図表_1-8④ 施設用途別整備率

1-9 コストマネジメント

本学の施設に係る支出（新增改築費、改修費、維持管理費及び光熱水費）は、継続的に必要となることから、大学経営に与える影響が大きい。

施設のクオリティ確保やスペースの利用に係るコストについては、大学経営の視点から、費用対効果の向上や所有施設全体のライフサイクルコストの効率化を踏まえて必要額を検討し、戦略的に財源を確保・管理するために「コストマネジメント」を推進する。

施設のライフサイクルコストについては、施設の初期建設コスト（イニシャルコスト）のほかに、定期的な改修費や毎年の修繕費、保全費、光熱水費等のランニングコストが将来にわたり継続的に必要となり、ライフサイクルコスト全体の約7割を占めるが、単なるコストの縮減は安全性の確保や教育・研究・産学官連携・地域連携・国際化・診療活動の質に影響を及ぼし、活力低下や資産価値低下を招くため。適切なコストマネジメントによる合理的な対応が必要である。

特に、施設の新増改築等を計画する際には、費用対効果やランニングコストを考慮した施設の規模、グレード等の検討とともに、施設の機能改善・維持に必要な財源の負担方法等について十分な検討を行うことが求められる。

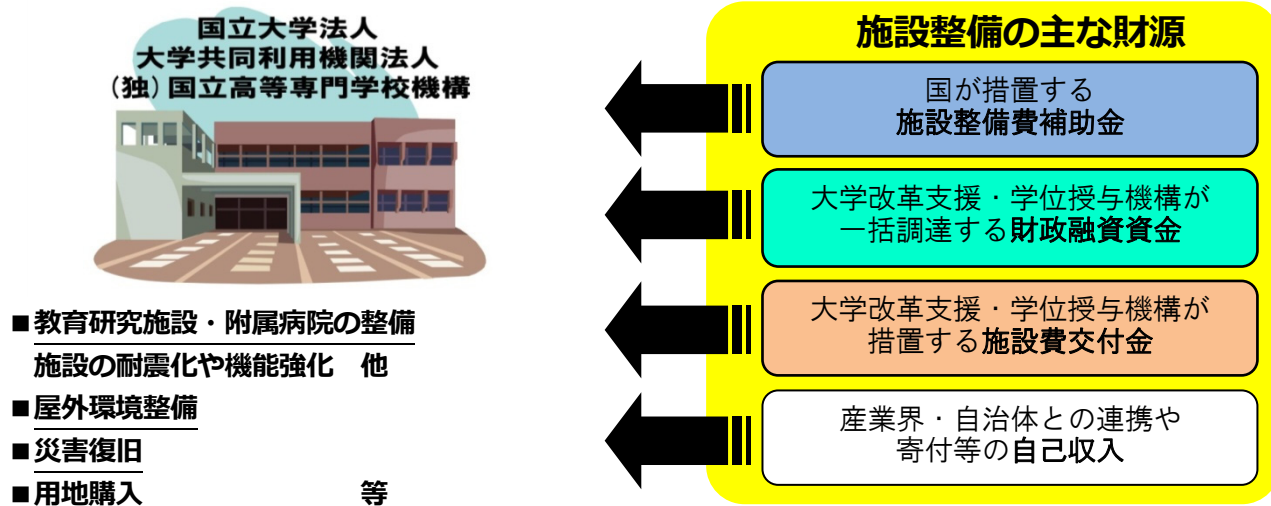
1-9-1 施設整備・運営に係る施設の状況

本学が所有する施設約32.0万m²のうち、第3期中期目標期間中に文部科学省が定めるRC造建築の法定耐用年数である建設後50年を迎える施設は約8.1万m²であり、第4期中期目標期間中には約15.3万m²に膨れ上がり、全施設の約48%が耐用年数を迎える。また、経年25年を超えた機能改修未実施の施設が全体の約3割であり、その内の経年30年を超えた機能改修未実施の施設が約7.2万m²存在し、第4期中期目標期間中に約7.8万m²に達する。

また、本学は耐震化率100%を達成しているが、今後老朽化が進む施設を更新していくためには膨大な費用が必要となる。また、施設の維持管理運用にも大きな費用がかかっており、施設の整備・運営に関するライフサイクルコストを把握した上で、今後この費用をどのように抑制し、財源を捻出するかという問題は、大学経営にとって重要な課題のひとつである。

1-9-2 施設整備予算

- 国立大学法人等の施設整備は、国が措置する**施設整備費補助金**を基本的な財源として実施している。
- 補助金による整備の他にも、**財政融資資金**からの借入れや**施設費交付金**、**各法人の自己収入**による整備等が可能になっている。

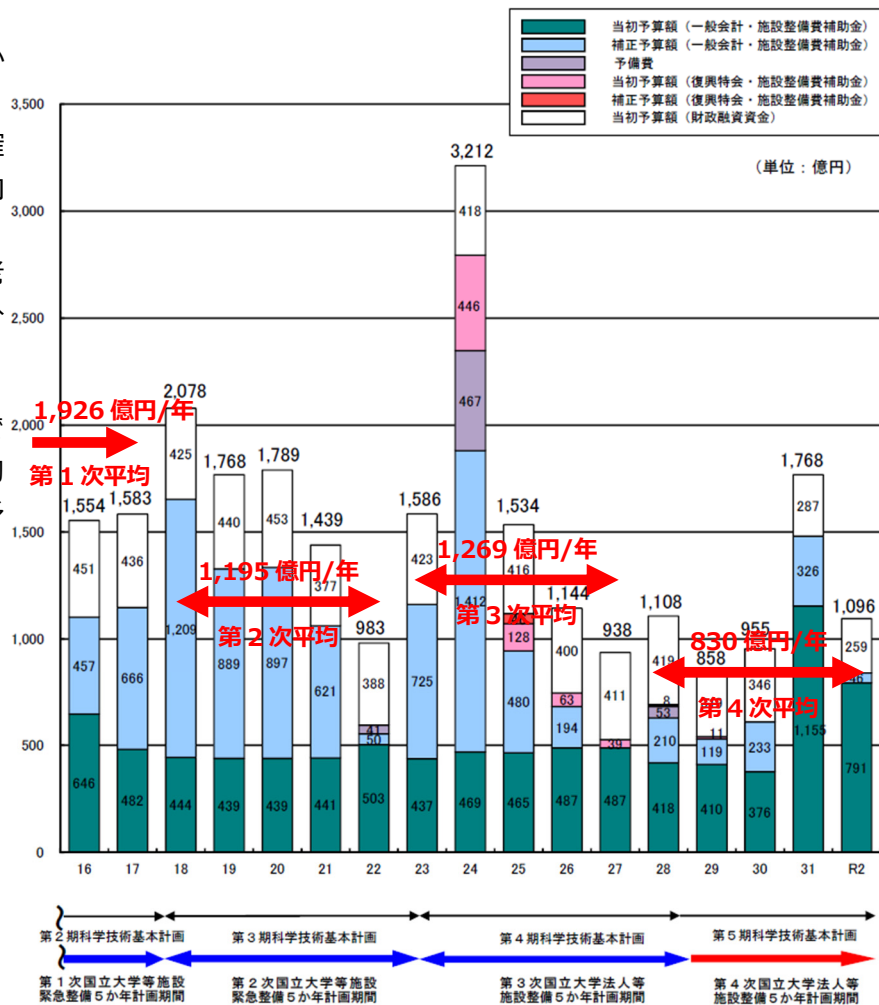


■ 国立大学法人等施設整備費補助金予算の推移（財政投融资資金を除く）

施設整備費補助金予算については、「第4次国立大学法人等施設整備5か年計画（以下「第4次5か年計画」）」を踏まえ、防災機能強化等安全性の確保、地方創生や Society5.0 の実現に向けた機能強化等への対応等、計画的・重点的な施設整備を推進するため、老朽施設の改善整備を中心に予算が配分されている。

施設整備に関する予算は減少傾向であり、第4次5か年計画期間は年平均830億円の予算配分となり、厳しい予算状況になっている。

特に、2018年度から当初予算が400億円を下回る状況になっている。ただし、2018年度から2020年度は、「防災・減災、国土強靭化関連予算（補正予算）」が措置された。



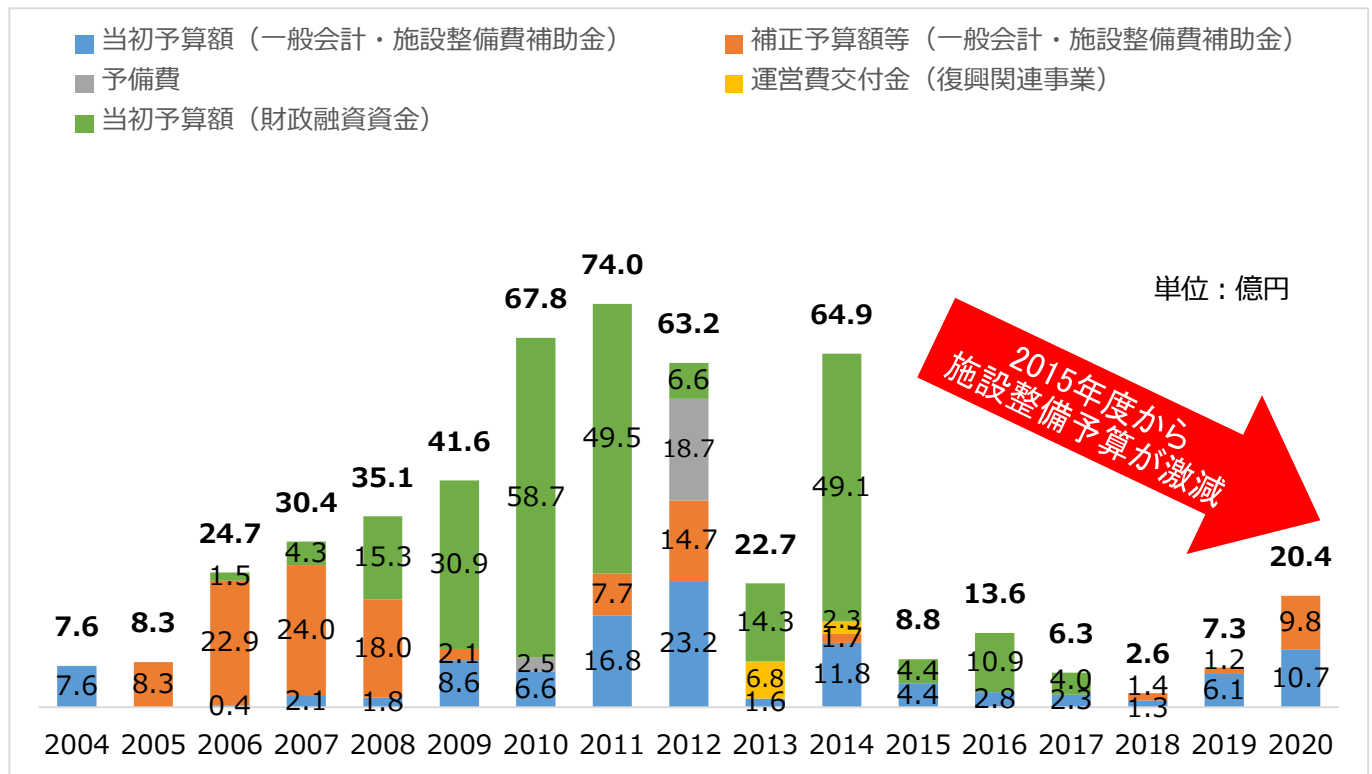
■ 第4次国立大学法人等施設整備5か年計画（平成28年3月29日 文部科学大臣決定）

第4次国立大学法人等施設整備5か年計画		
重点整備	推進方策	整備目標
<p>安全・安心な教育研究環境の基盤の整備</p> <p>老朽化により劣化している教育研究基盤を、安全で国際的にも信頼性の高い施設に再生 今後10年間で、おおむね耐用年数の2倍を超える基幹設備（ライフライン）の解消を目指す</p>	<p>戦略的な施設マネジメントの推進</p> <p>大学等は、教育研究活動に要する財源を確保しつつ、良好な教育研究環境を維持・確保するため、経営的な視点による戦略的なマネジメントをより一層推進</p>	<p>老朽改善整備（約475万㎡）</p> <p>・防災機能強化に配慮した長寿命化改修の実施、教育研究環境の確保</p>
<p>国立大学等の機能強化等変化への対応</p> <p>グローバル化や、イノベーション創出、人材養成機能の強化等の機能強化を活性化させる役割を果たせるような新たな施設を整備 先端医療・地域医療に対応した大学附属病院の計画的な整備の推進</p>	<p>多様な財源を活用した施設整備の推進</p> <p>現下の厳しい財政状況の中、大学等は、国が施設整備費の確保に努める一方、多様な財源を活用した施設整備を一層推進</p>	<p>狭隘解消整備（約40万㎡）</p> <p>・大学等の機能強化等に伴い、教育研究活動上、真に必要な空間の確保</p>
<p>サステイナブル・キャンパスの形成</p> <p>省エネや環境負荷の低減に貢献できる施設整備等の取組を通して、サステイナブル・キャンパスの形成を図り、次世代の社会モデルとなる施設の整備を推進</p>		<p>大学附属病院の再生（約70万㎡）</p> <p>・再開発整備の着実な実施、適切な診療機能の確保と機能向上への対応</p>

重点整備の整備実績（2019年度現在）			
	施設整備費補助金による整備	多様な財源を活用した整備	合計
老朽改善整備（進捗率）	71.5万㎡	10.7万㎡	82.2万㎡（17%）
狭隘解消整備（進捗率）	10.4万㎡	17.1万㎡	27.6万㎡（69%）
大学附属病院の再生（進捗率）	36.4万㎡	2.5万㎡	39.0万㎡（56%）

■三重大大学の施設整備費補助金等の推移

本学の施設整備予算獲得額は、2015年度から激減しており、教育研究の成果、施設マネジメントや環境への取り組みをより一層加速させて、予算化につなげていかなければならない。(図表_1-9①)

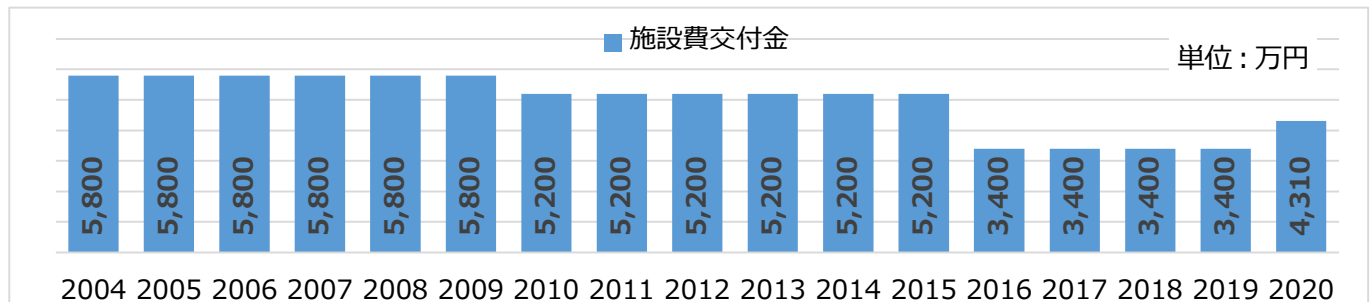


図表_1-9① 三重大大学の施設整備費補助金等の推移

■施設費交付金 (営繕)

大学改革支援・学位授与機構より大学規模に応じて配分される予算であり、本学には43,100千円(2021年度は24,900千円)が配分されている。(図表_1-9②)

アメニティ環境整備(省エネルギー化・環境対策及び学生支援を考慮した整備等)、防災設備の更新、小規模施設の改修・改築等を中心とした老朽化改善整備を行う。



図表_1-9② 三重大大学の施設費交付金の推移

■財政融資資金事業

財政融資資金は、附属病院整備事業として予算措置されており、予算規模は400億円~450億円程度で推移している。借入にあたっては、文部科学省の認可が必要である。

本学附属病院は再開発整備が完了しており、今後は医療の変化や社会的ニーズに応じた長期的な事業計画検討が必要である。

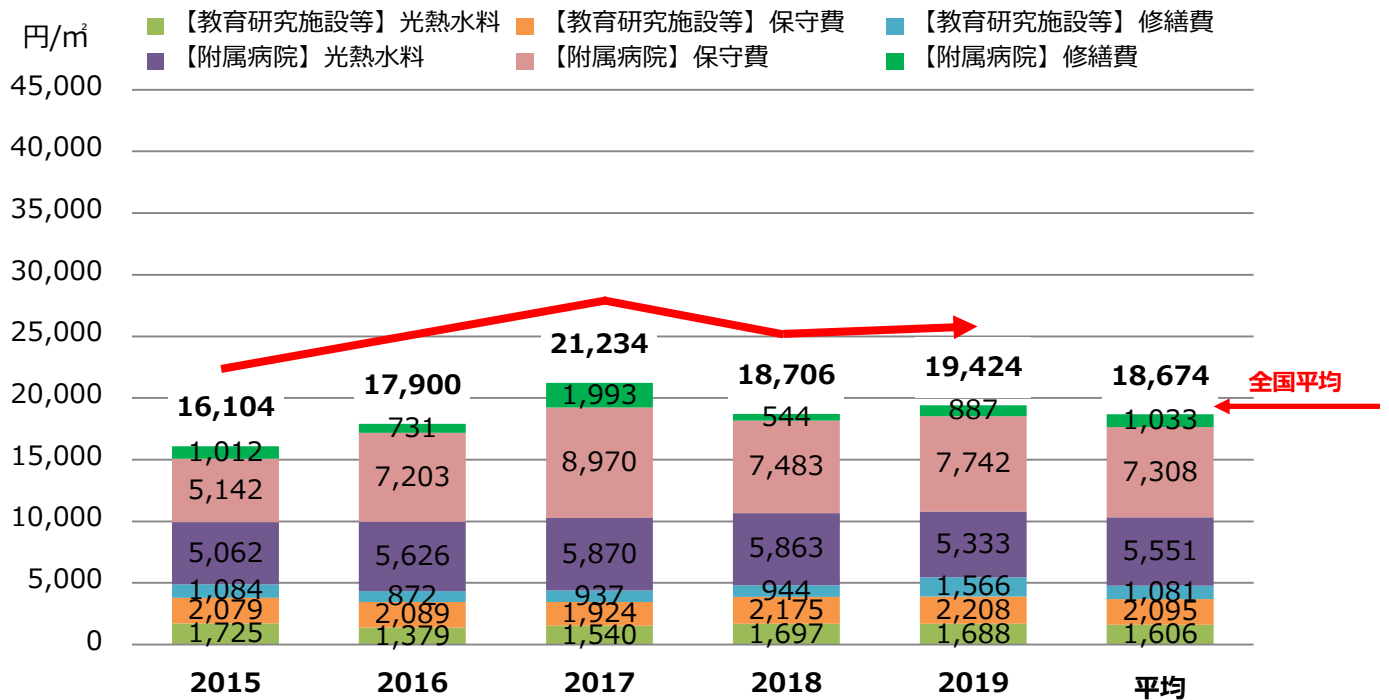
1-9-3 施設運営費のコスト

■施設運営費の状況

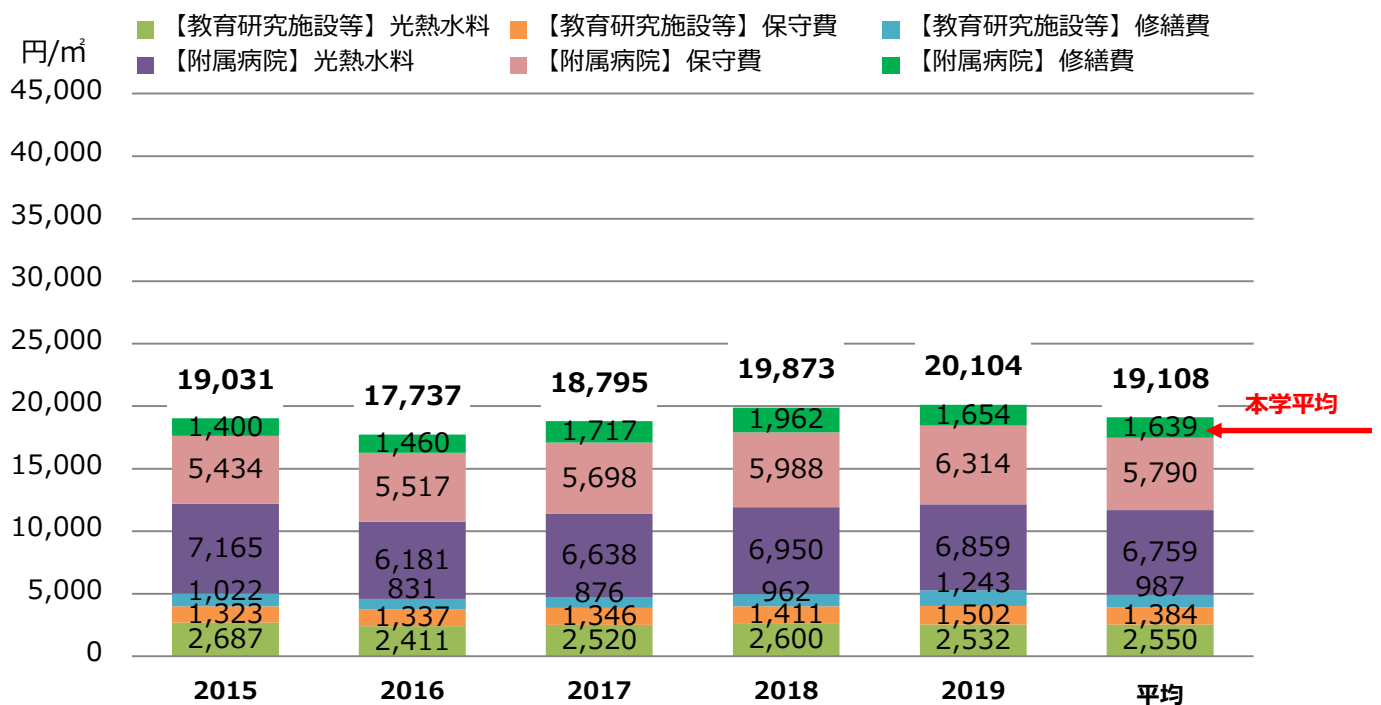
本学の施設に関する維持管理業務の主な内容は、修繕、点検保守、運転監視、廃棄物処理、緑地管理、校地維持、清掃、警備及び電話交換業務である。

本学の施設運営費（施設維持管理費+光熱水費）は、2019年度実績で約24.0億円であり、このうち光熱水費は約8.2億円となっている。単位面積あたりは、19,424円/m²となっている。（図表_1-9③）

全国平均と本学平均を比較すると、430円/m²程度低い状況になっている。これは、省エネルギーによる光熱水費削減額効果が保守費等の高騰額を上回った結果である。（図表_1-9③、④）



図表_1-9③ 三重大学に関する施設運営費の推移

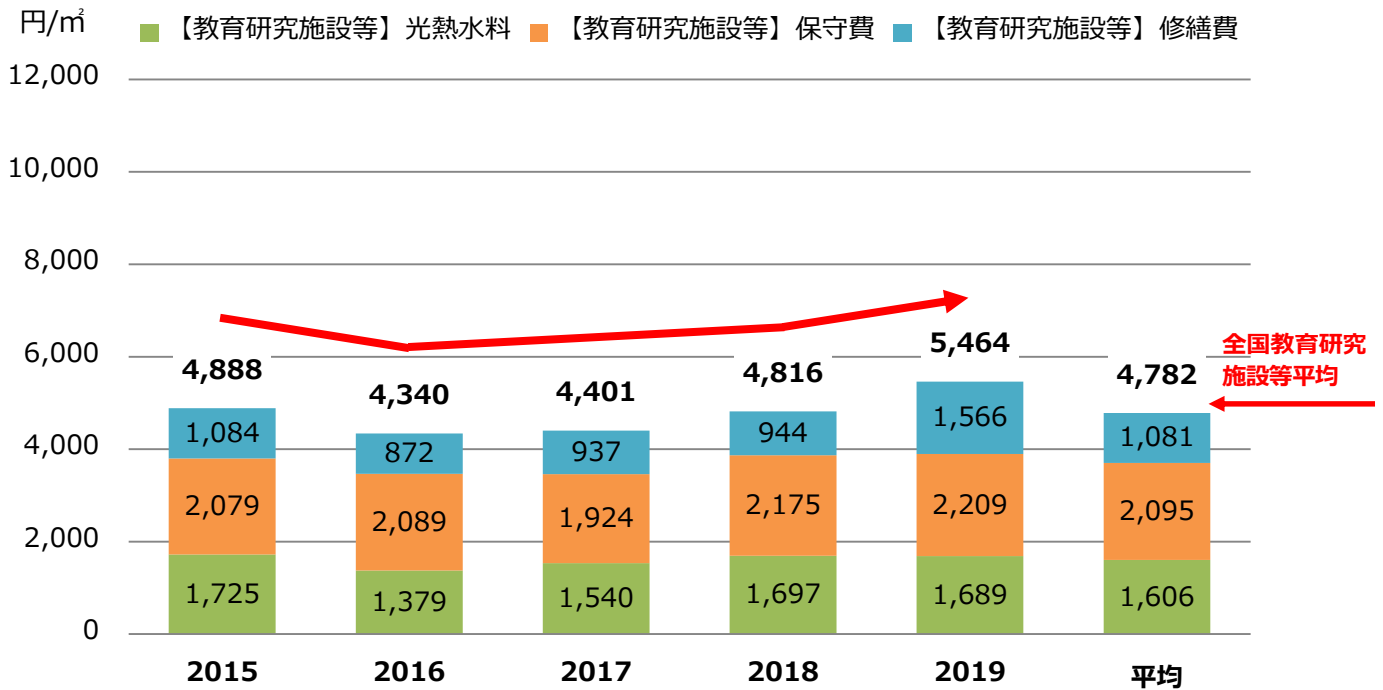


図表_1-9④ 全国平均に関する施設運営費の推移

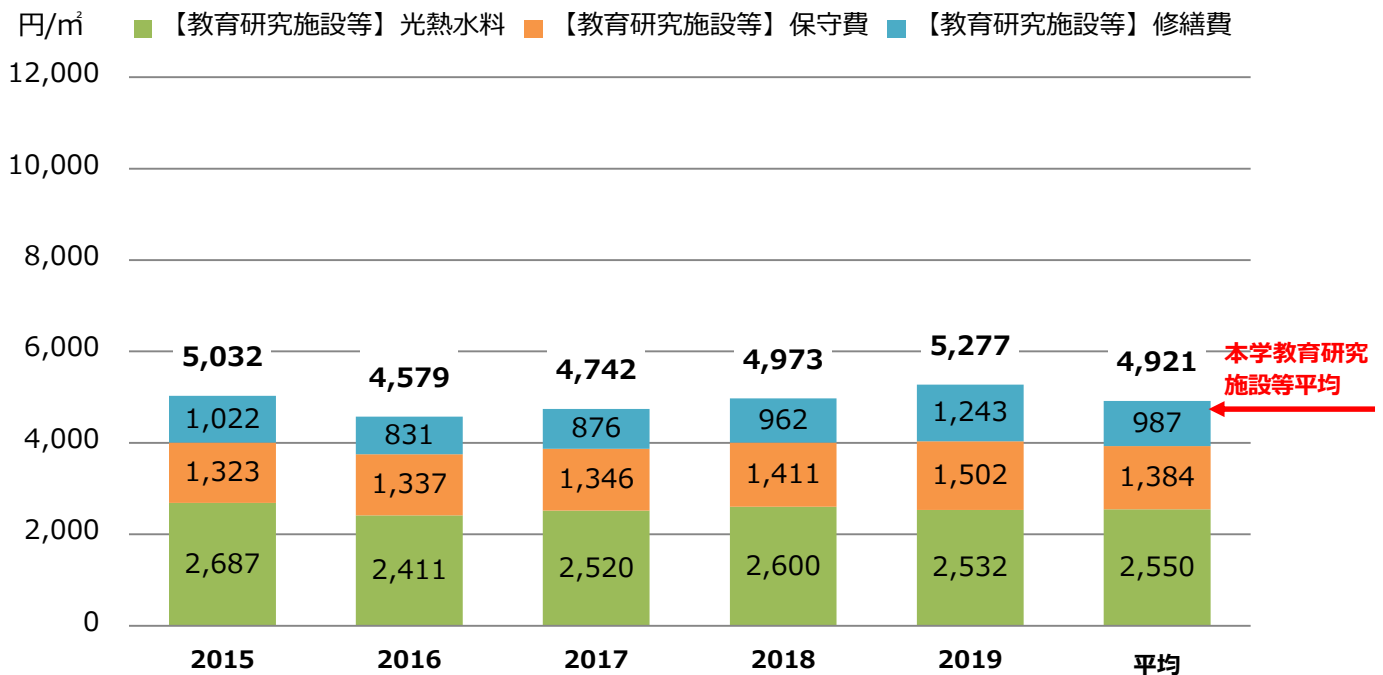
■教育研究施設等に係る施設運営費の状況

本学教育研究施設等に関する施設運営費（施設維持管理費＋光熱水費）は、2019年度実績で約13.26億円であり、このうち光熱水費は約4.1億円となっている。単位面積あたりは、4,782円/m²となっている。（図表_1-9⑤）

全国平均と三重大学平均を比較すると、140円/m²程度低い状況になっている。これは、省エネルギーによる光熱水費の削減効果が、保守費と修繕費の高騰額を上回った結果である。また、保守費＋修繕費が800円/m²程度高いのは、教育研究施設等の老朽化が進んでいることを示している。（図表_1-9⑤、⑥）



図表_1-9⑤ 三重大学教育研究施設等に関する施設運営費の推移

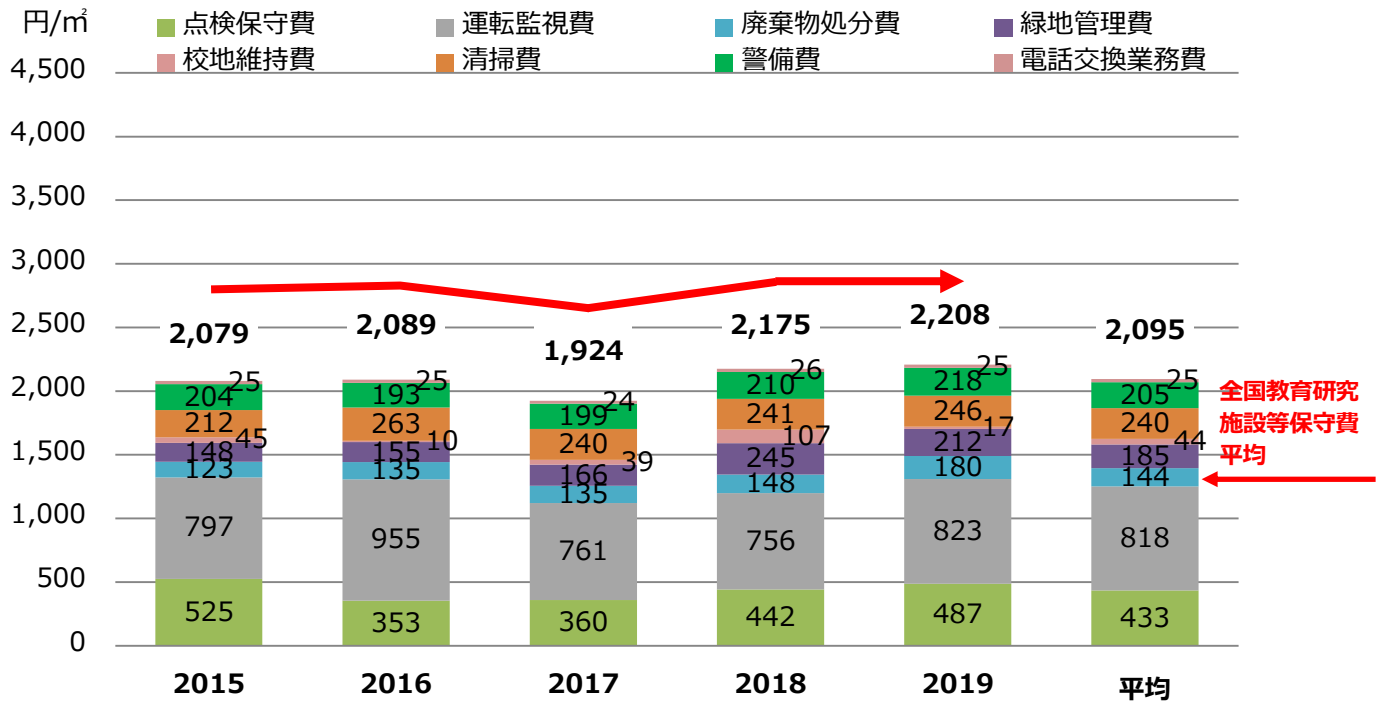


図表_1-9⑥ 教育研究施設等全国平均に関する施設運営費の推移

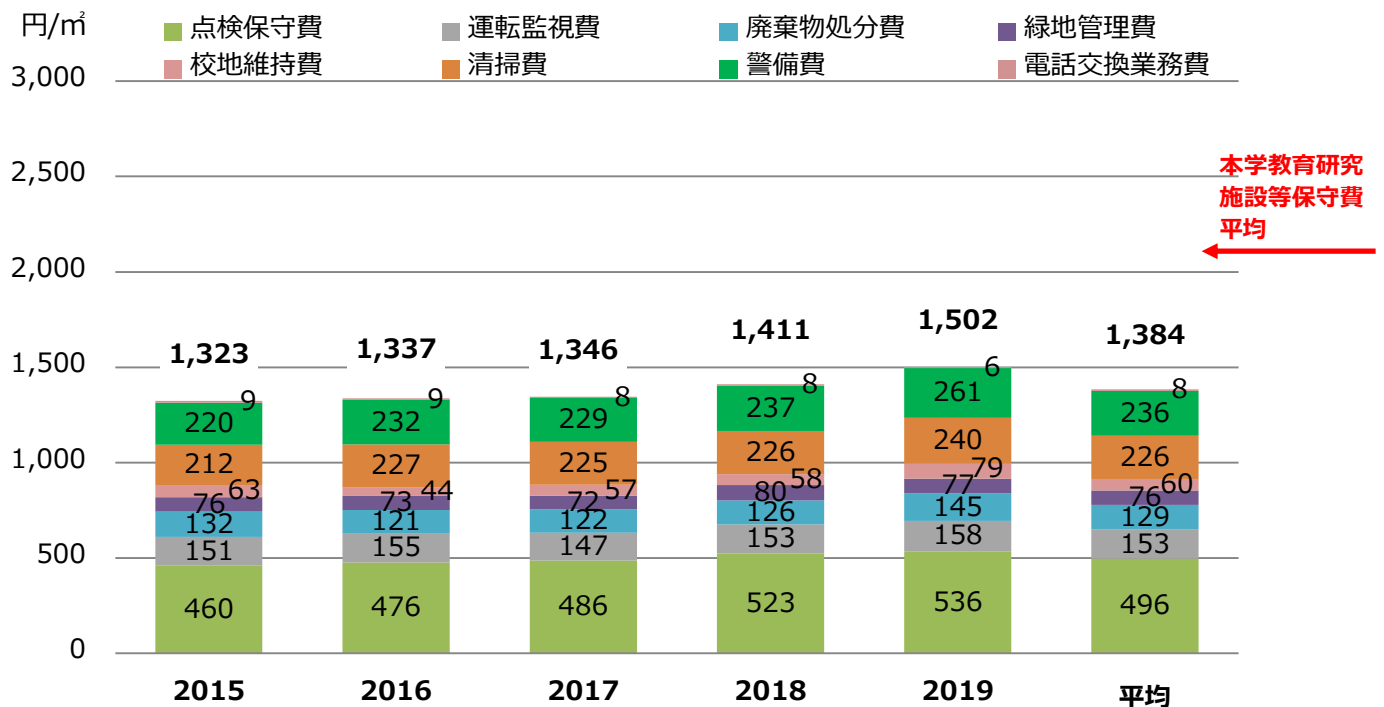
■教育研究施設等に関する保守費の内訳

本学教育研究施設等に関する保守費は、2019年度実績で約5.4億円である。単位面積あたりは、2,208円/m²となっている。(図表_1-9⑦)

全国平均と三重大学平均を比較すると、710円/m²程度高い状況になっている。これは、本学独自の省エネ設備であるスマートキャンパス設備及び井水設備の運転監視費、環境先進大学としての手厚い緑地管理費によると考えられる。(図表_1-9⑦, ⑧)



図表_1-9⑦ 三重大学教育研究施設等に関する保守費の推移

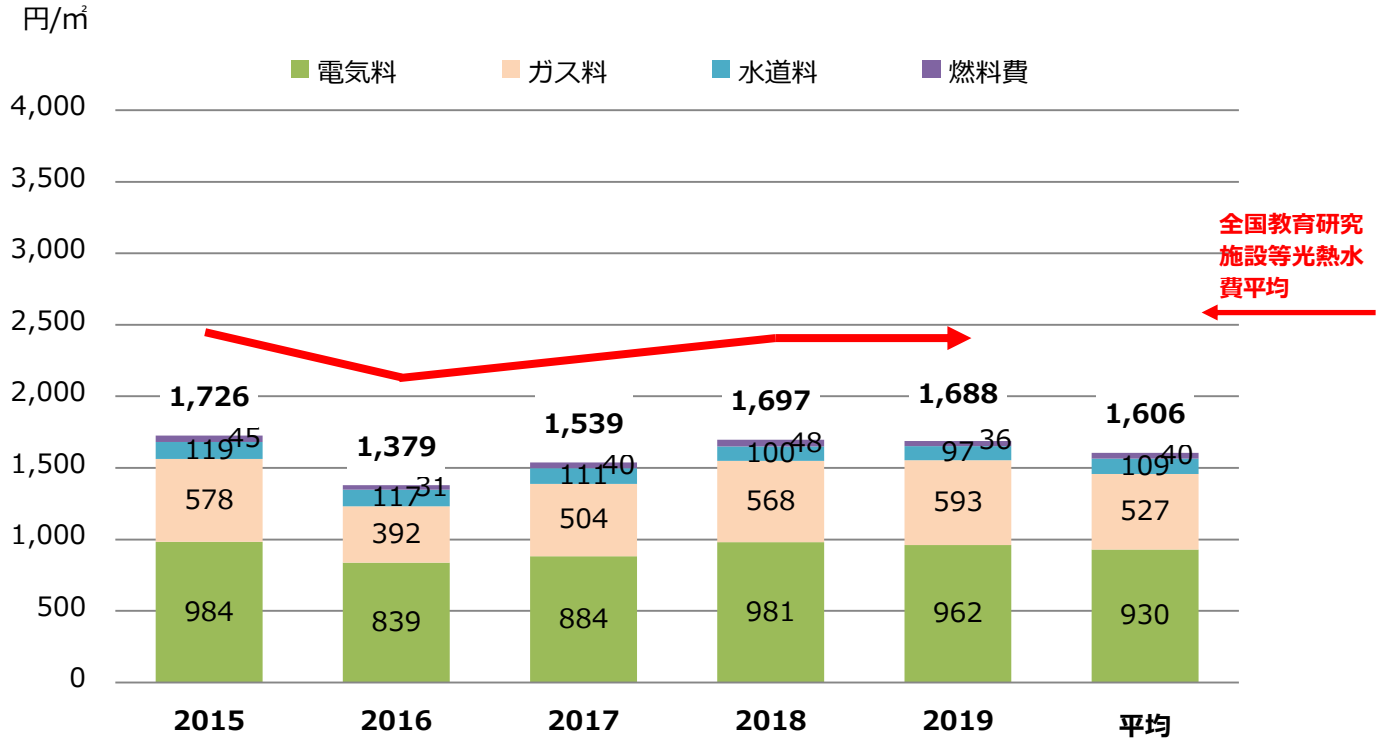


図表_1-9⑧ 教育研究施設等全国平均に関する保守費の推移

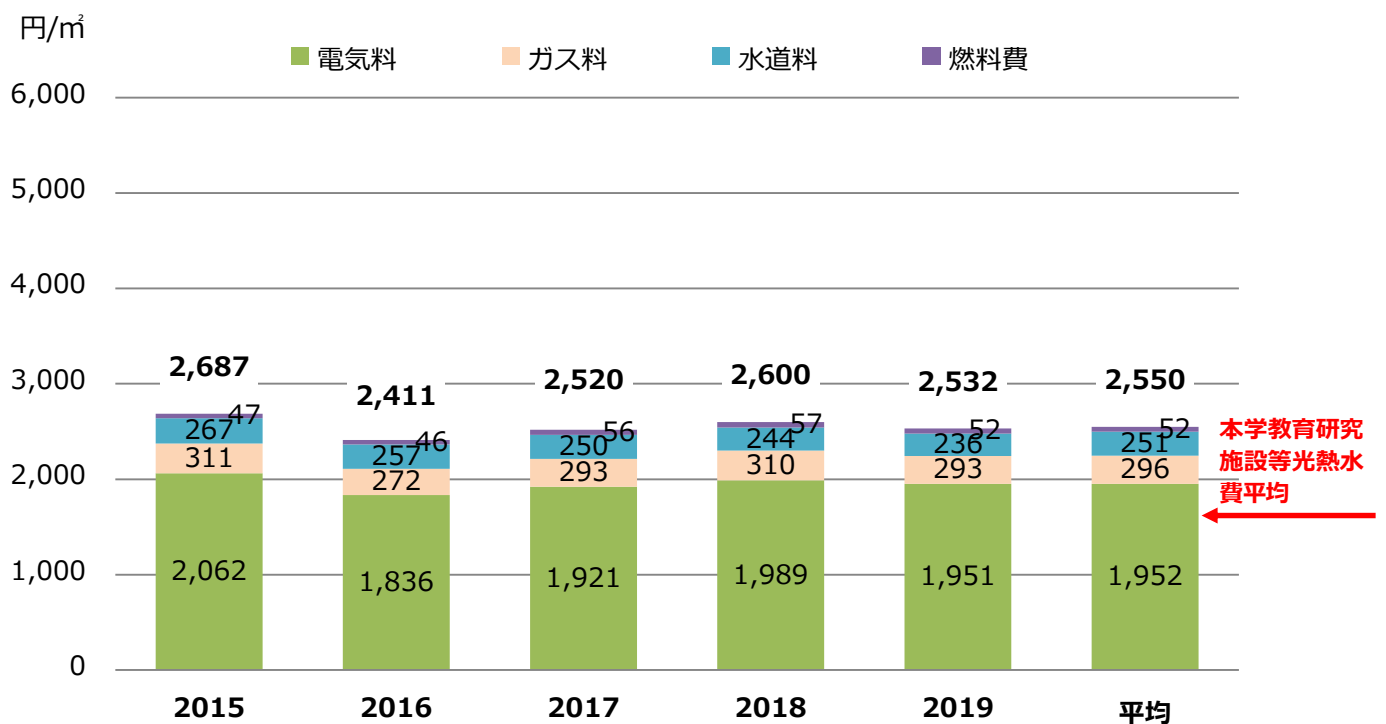
■教育研究施設等に関する光熱水費の内訳

本学教育研究施設等に関する光熱水費は、2019年度実績で約4.1億円である。単位面積あたりは、1,688円/m²となっている。(図表_1-9⑨)

全国平均と三重大学平均を比較すると、940円/m²程度低い状況になっている。これは、省エネルギーにより電気料が削減された結果である。(図表_1-9⑨, ⑩)



図表_1-9⑨ 三重大学教育研究施設等に関する施設運営費の推移

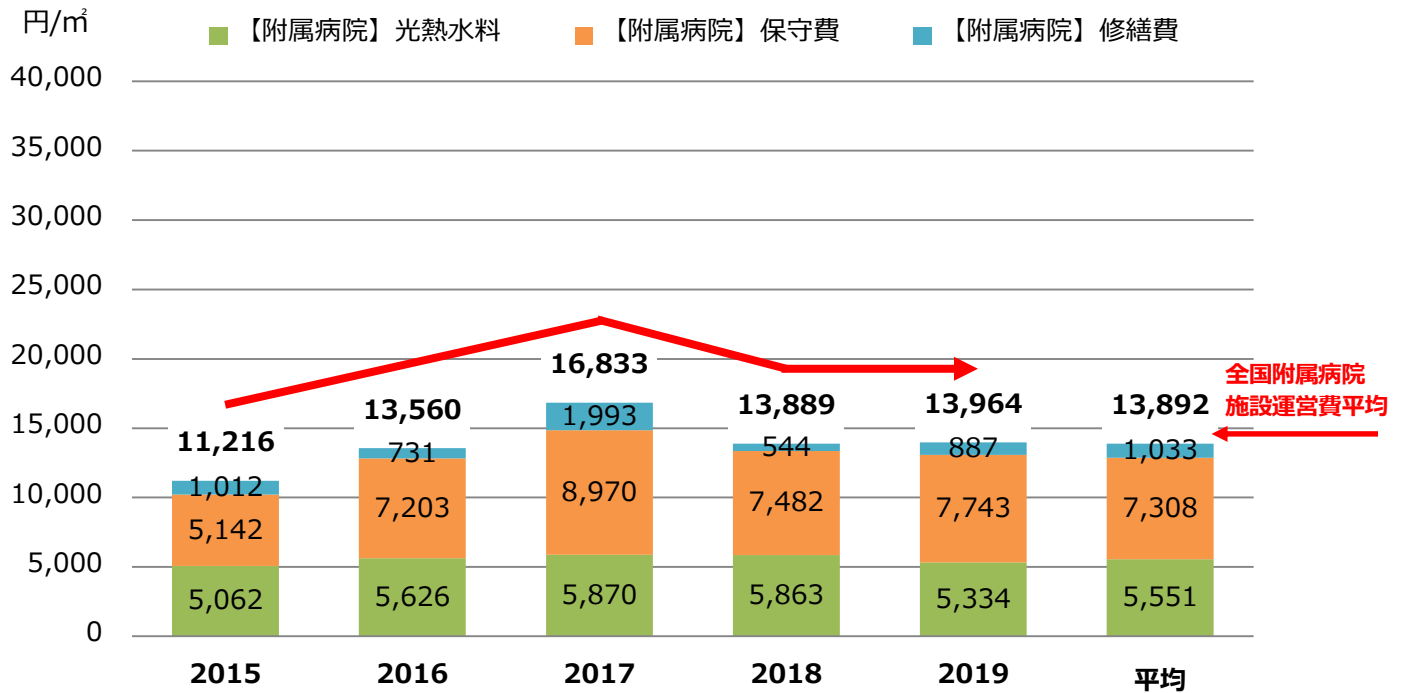


図表_1-9⑩ 教育研究施設等全国平均に関する施設運営費の推移

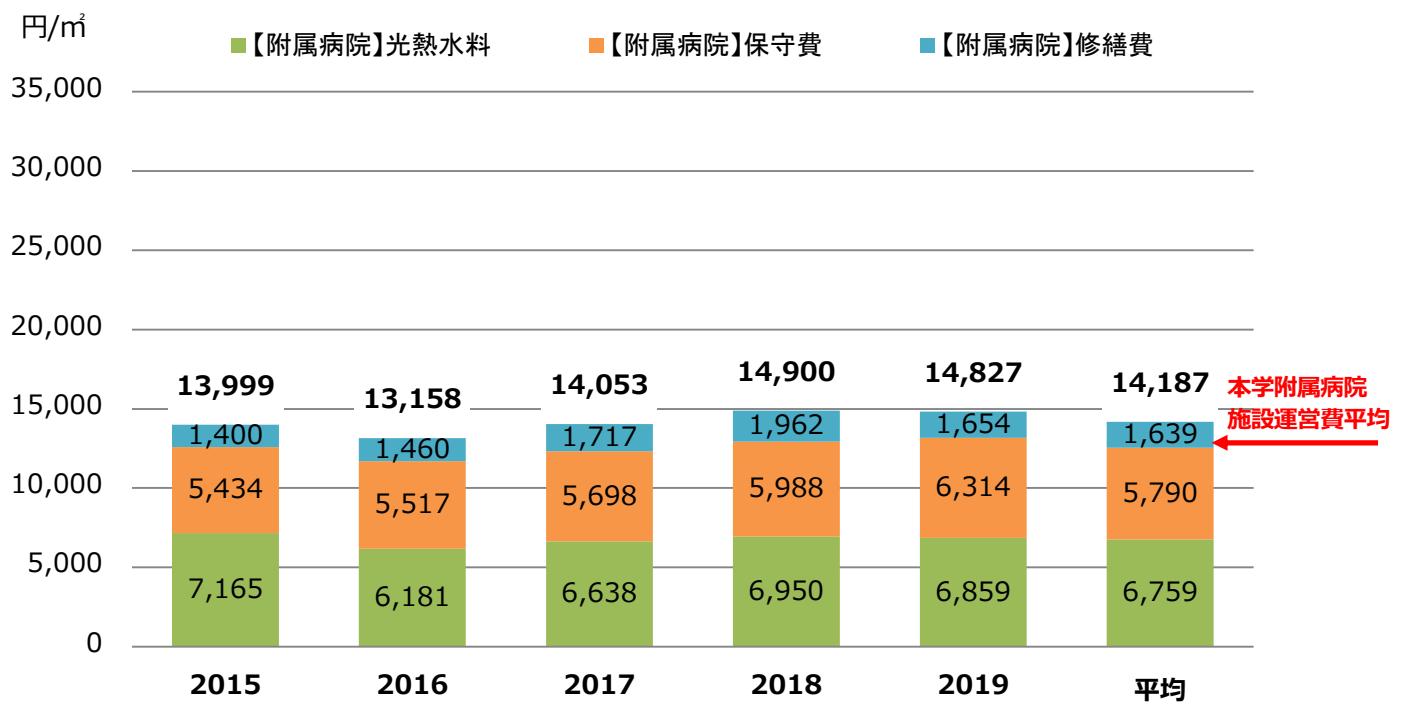
■ 附属病院に関する施設運営費の状況

本学附属病院に関する施設運営費（施設維持管理費+光熱水費）は、2019年度実績で約10.7億円であり、このうち光熱水費は約4.1億円となっている。単位面積あたりは、13,964円/m²となっている。（図表_1-9①）

全国平均と三重大学平均を比較すると、300円/m²程度低い状況になっている。これは、再開発により修繕費が削減されたことと、省エネルギーにより光熱水費が削減された結果である。（図表_1-9①、②）



図表_1-9① 三重大学附属病院に関する施設運営費の推移

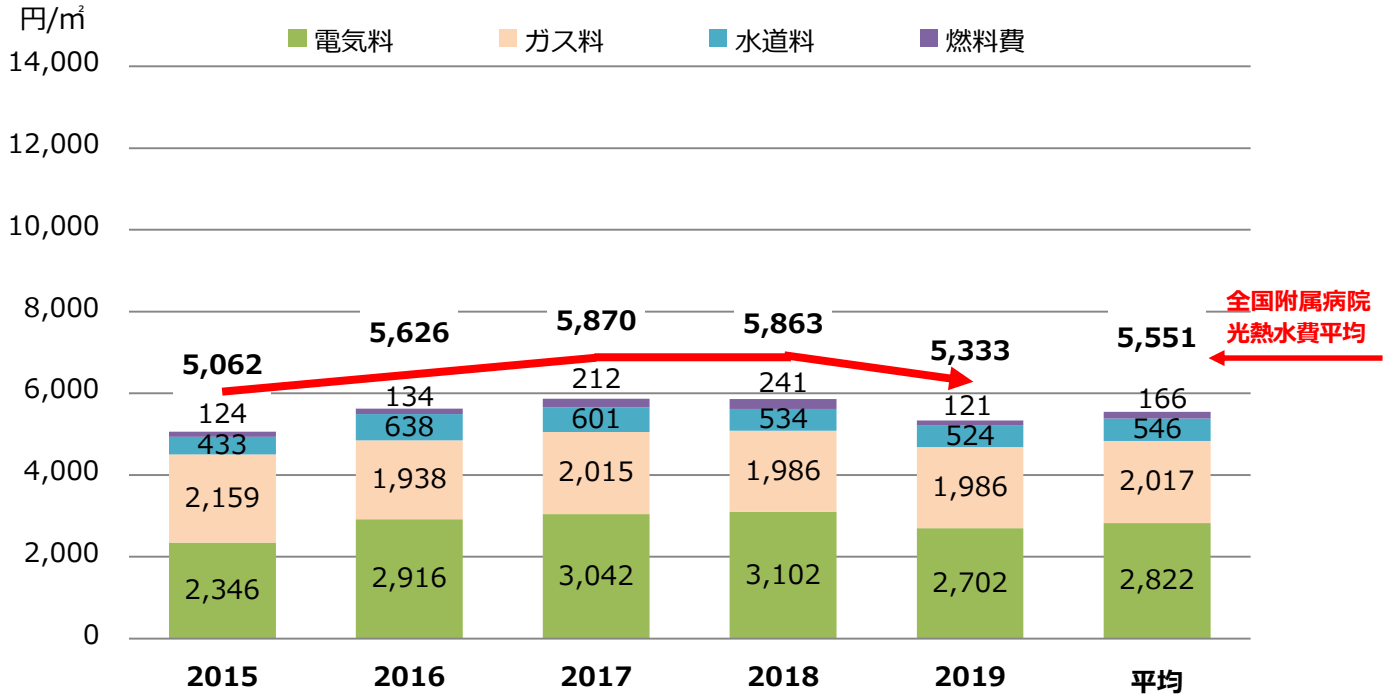


図表_1-9② 附属病院全国平均に関する施設運営費の推移

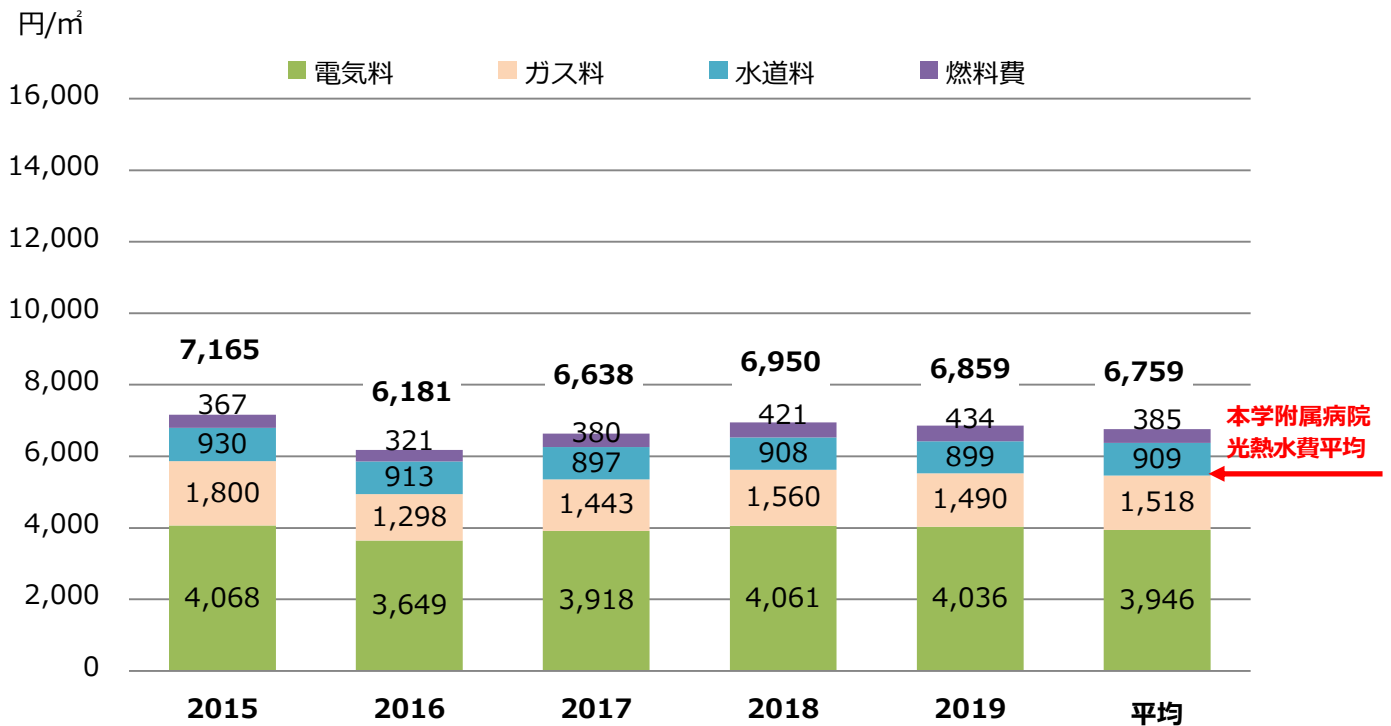
■ 附属病院に関する光熱水費の内訳

本学附属病院に関する光熱水費は、2019年度実績で約4.1億円であり、単位面積あたりは5,333円/m²となっている。(図表_1-9⑮)

全国平均と三重大学平均を比較すると、1,210円/m²程度低い状況になっている。これは、省エネルギーにより電気料が削減された結果である。(図表_1-9⑮, ⑯)



図表_1-9⑮ 三重大学附属病院に関する光熱水費の推移



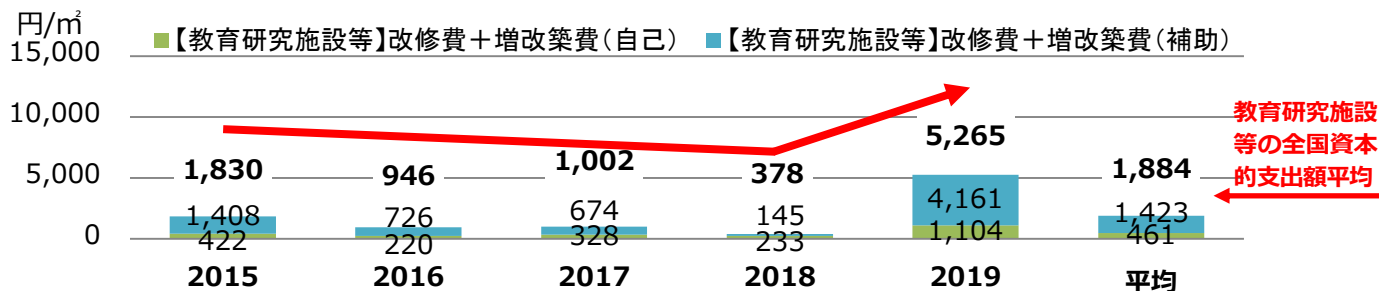
図表_1-9⑯ 附属病院全国平均に関する光熱水費の推移

1-9-4 資本的支出額

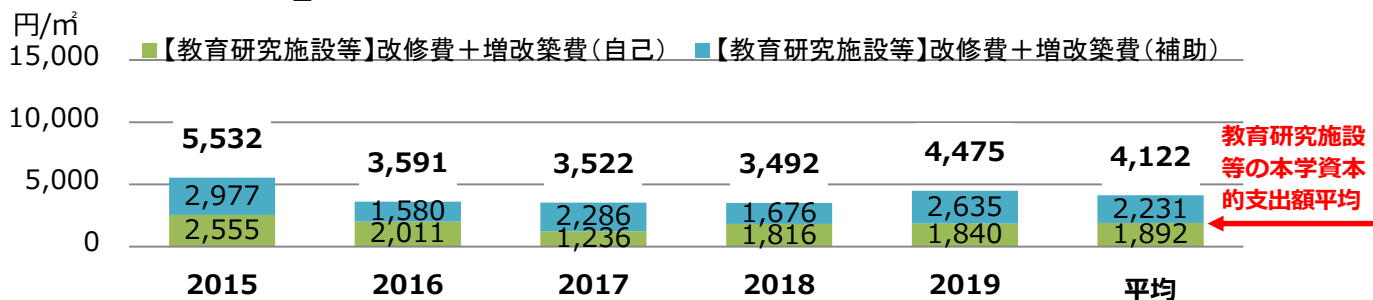
■資本的支出額の状況

本学全体の資本的支出額（自己+補助）は、2019年度実績で約12.8億円であり、単位面積あたりは5,265円/m²となっている。（図表_1-9⑰）

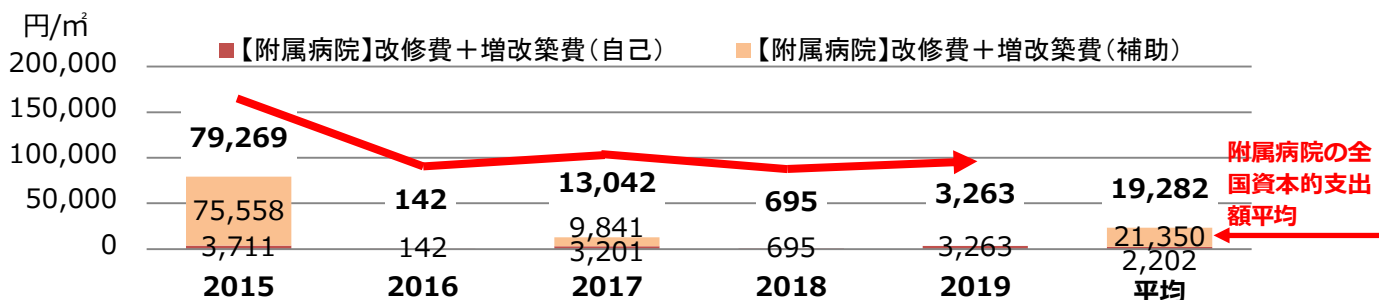
全国平均と三重大学平均を比較すると、教育研究施設等では2,240円/m²程度低い状況であり、附属病院では5,400円/m²程度高い状況になっている。これは、附属病院再開発整備が進んだ結果である。ただし、本学の自己財源整備費を見ると、教育研究施設等では461円/m²に対して全国平均は1,892円/m²であり、附属病院では2,202円/m²に対して全国平均は3,676円/m²であることから、約1/4程度しか資本的支出ができていない状況である。（図表_1-9⑰, ⑱, ⑲, ⑳）



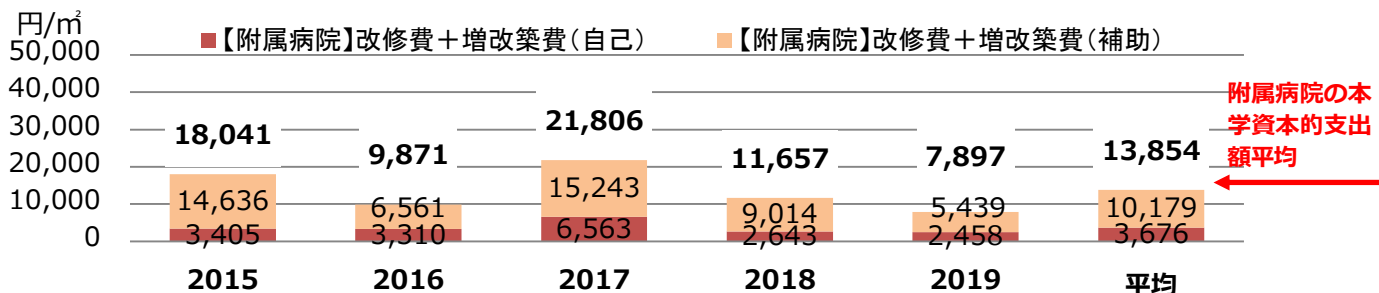
図表_1-9⑰ 教育研究施設等（三重大学）に関する資本的支出額の推移



図表_1-9⑱ 教育研究施設等（全国平均）に関する資本的支出額の推移



図表 1-9⑲ 附属病院（三重大学）に関する資本的支出額の推移



図表 1-9⑳ 附属病院（全国平均）に関する資本的支出額の推移

1-9-5 コスト縮減への取り組み

■保全業務の一元化, 複数年契約

～2008年度	業務毎に専門業者等 14 社へ保全業務の外部委託を行っており、時間外保守や業務管理の煩雑さ等が問題となっていた。
2009年度	複数の保全業務（10 業務）を一元化し、複数年契約（3 年：H21～H23）とすることにより、経費の削減及びサービスの向上を図った。 ・経費削減 ▲31,400 千円/年
2012年度	建物・設備の増加に伴い仕様の見直しを図り、緑化保全業務、給水設備保守管理業務を保全業務一元化に含め、複数年契約（3 年：H24～H26）とした。 ・経費節減 ▲11,083 千円/年（建物・設備の増加分を考慮）
2013年度	病棟・診療棟の開院に伴い増加・煩雑化した設備（ナースコール設備、入退室管理設備、R I 施設点検等）を保全業務に包括する変更契約を行い、サービス向上を図った。
2014年度	新たに設置したヘリポート給油設備、発電機設備等の保守管理業務を保全業務に包括する変更契約を行った。
2015年度	フロン排出抑制法への対応及び ISO14001 による環境保全活動への対応を盛り込んだ。
2018年度	毎年スポットで実施していた講堂・舞台機構装置を包括し、日常的な不具合にも対応できるようサービスの向上を図った。
2021年度	契約年数を 3 年から 5 年とし、事務手続きの省力化及び長期契約による経費の削減を図った。また、附属病院を除く各学部の搬送設備保守管理業務を個別契約とし、価格競争によるコスト低減を図った。 ・経費節減 ▲12,100 千円/年

一元化保全業務（5 年：2021 年度～2025 年度）	
上 浜 地 区 等 設 備 他 保 全 業 務	A. 建築物 定期点検業務及び保守業務
	B. 受変電設備等 定期点検業務及び保守業務
	C. 通信・情報設備等 定期点検業務及び保守業務
	D. 熱源設備 定期点検業務及び保守業務
	E. 空気調和設備 定期点検業務及び保守業務
	F. 給排水設備 定期点検業務及び保守業務
	G. 地下水浄化設備 定期点検業務及び保守業務
	H. 防災設備 定期点検業務及び保守業務
	I. 搬送設備 定期点検業務及び保守業務
	J. 医療ガス設備 定期点検業務及び保守業務
	K. 病院用搬送設備 定期点検業務及び保守業務
L. 病院その他設備 定期点検業務及び保守業務	
M. 緑地管理業務	
N. 執務環境測定等業務	
O. 電気設備等 運転・監視及び日常点検・保守業務	
P. 機械設備 運転・監視及び日常点検・保守業務	
Q. その他業務	

専門業者保全業務（5 年：2021 年度～2025 年度）	
専門業者との直接契約が必要	
1	上浜地区生活廃水処理施設他保守管理業務
2	上浜団地他浄化槽清掃業務
水道法施行規則により直接契約が必要	
3	飲料水水質測定業務
専門業者保全業務（単年度契約）	
専門業者に委託可能な業務の分離による競争	
4	上浜団地等搬送設備運転・監視及び保守業務
専門業者保全業務（随時契約）	
状況により随時契約を行う	
5	GHP 屋外機定期点検業務
6	実験廃液収集・運搬及び処分業務

<経費削減効果>

$$\begin{aligned} & \text{▲}31,400 \text{ 千円/年} + \text{▲}11,083 \text{ 千円/年} + \text{▲}12,100 \text{ 千円/年} \\ & = \text{▲}54,583 \text{ 千円/年} \text{ (建物・設備の増加分を考慮)} \end{aligned}$$

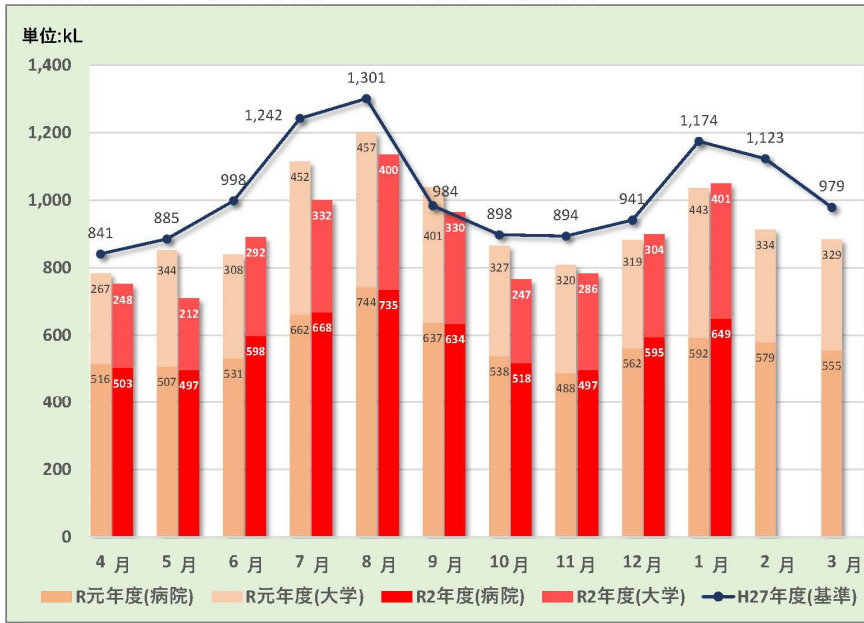
■省エネルギーへの取組

三重大学第3期中期計画【平成28年4月～平成34年3月（6年間）】の省エネ目標として、環境に配慮したキャンパスを目指すために、平成24年度より実施している学生・教職員による環境活動にインセンティブを付与するMIEUポイントと平成23年度より実施している施設の運用改善であるスマートキャンパス事業等の省エネ活動を継続し、第3期中期目標期間中においてエネルギー使用量を6%削減する。

（平成27年度比（基準年）、原単位）

令和2年度(R3.1月まで)エネルギー報告

上浜団地 エネルギー使用量【電気・ガス・A重油】（原油換算量）



2021年1月までの削減率は▲11.93%であり、順調に推移している

1月までの累計エネルギー使用量

上浜団地	基準との値	基準との%
R2年度	8,946 ▲1212	-11.93%
R元年度	9,415 ▲743	-7.31%
H27年度(基準)	10,158	

第3期中期計画の数値目標

環境に配慮したキャンパスを目指し、平成24年度より実施している学生・教職員による環境活動にインセンティブを付与するMIEUポイントと、平成23年度より実施している施設の運用改善であるスマートキャンパス事業などの省エネ活動を継続し、第3期中期目標期間中においてエネルギー使用量を6%削減する。（平成27年度比、原単位）

■ESCO事業

附属病院において、2019年度からESCO事業を実施し光熱水費と点検保守費の低減を図っている。

■民間事業者による整備・運営手法の導入

三重大学PPP/PFI手法導入優先的検討規程に基づき、民間資金等の活用による整備を検討する。

職員宿舎等の宿舎再整備について、PPP事業の導入に向けた検討を行う。

■省エネ積立金制度の導入

設備等の省エネ改修を進めていく仕組みとして「省エネ積立金制度」を29年度より導入し、30年度より実施している。

「省エネ積立金制度」はエネルギー使用者からエネルギー使用料に応じて出資金を集め、本部出資金と他省庁の省エネ補助金も合わせ、省エネ改修を行う仕組みである。この制度は中期目標達成、大学評価の向上、経費削減、法令順守、教育・研究環境の向上、地球温暖化防止、予防保全、省エネによる資金の好循環等多方面に効果が期待されている。



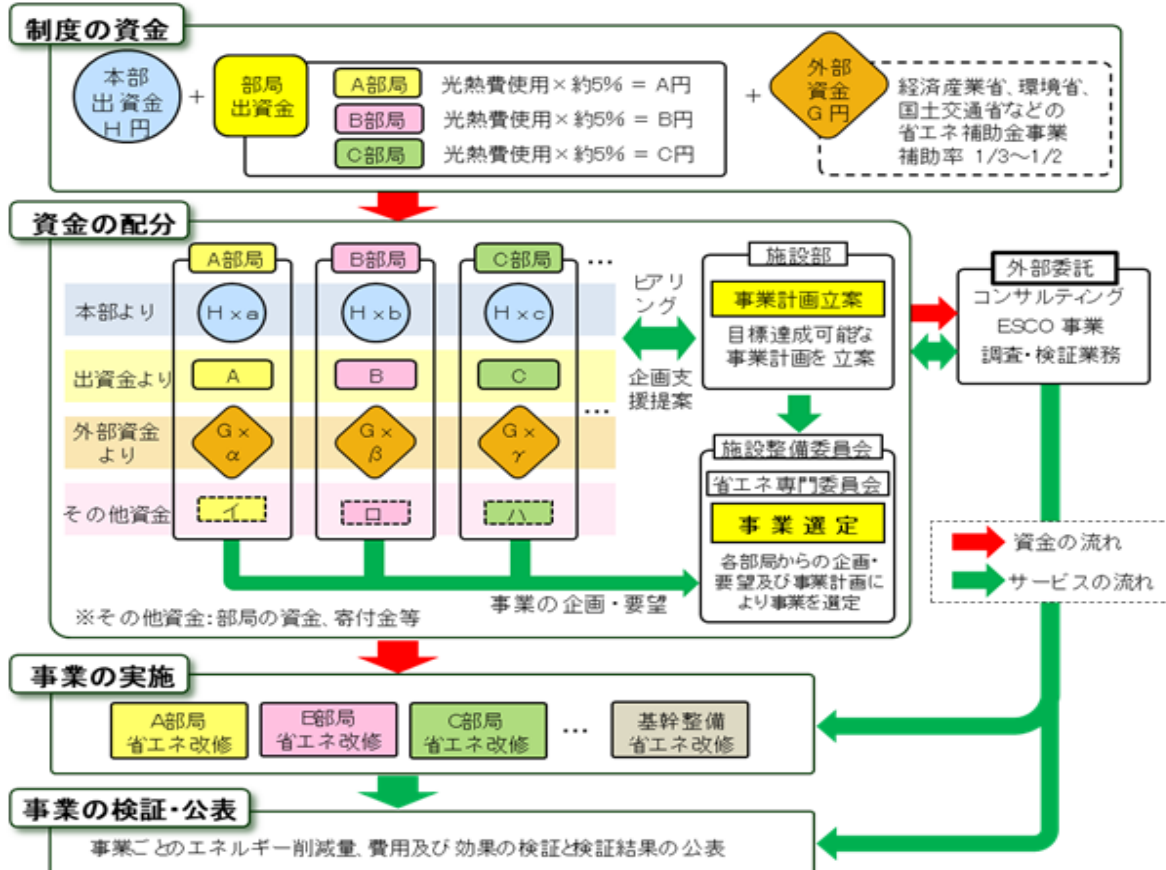
<制度の枠組み>

- 制度資金は、エネルギー使用者と本部からの資金とし、出資割合は約1:1とする。
- エネルギー使用者は、前年度等の光熱費より一律の割合（約5%）で出資（積立）し、使用者のソフト面からの省エネ活動を促す。
- エネルギー使用者（部局等）に、出資（積立）額以上の省エネ改修を中期目標・中期計画期間中に実施する。
- 省エネ工事の選定は、公平性を担保するため施設整備委員会で行う。
- 第3期中期目標・中期計画期間に、エネルギー使用量を6%（ハード面で5~6%、ソフト面で1~2%）削減（平成27年度比（基準年）、原単位）を目指す。

<他省庁の補助金>

- ・ 環境省の平成30年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金として、85,884千円が確定した。
- ・ 環境省の2019年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金として、25,452千円が確定した。

<省エネ積立金制度のフロー>



■スマートキャンパス実証事業

本学では平成 23 年度より、大学全体の CO₂排出量削減のために「三重大学スマートキャンパス (MIESC) 実証事業」をスタートさせた。

災害時には自立で電力を安定供給する機能や本学での成果を他大学や自治体に適用する場合の指針を得ることも本事業の目的である。

スマートキャンパスでは、キャンパス全体にエネルギーを作る「創エネ」、エネルギーを貯める「蓄エネ」、エネルギーを少なく使う「省エネ」を導入し、総合制御する エネルギーマネジメントシステム (EMS) により、エネルギーの効率的な運用を図った事業である。

また、EMS では天気予報データを取り入れて、大学全体のエネルギー使用量や再生可能エネルギーの発電量予測を行い、各設備の運転と蓄電池の充放電を自動化している。

<スマートキャンパス配置図>



省エネ・再生可能エネルギー設備



三重県の脱炭素宣言 = ミッションゼロ 2050 みえ

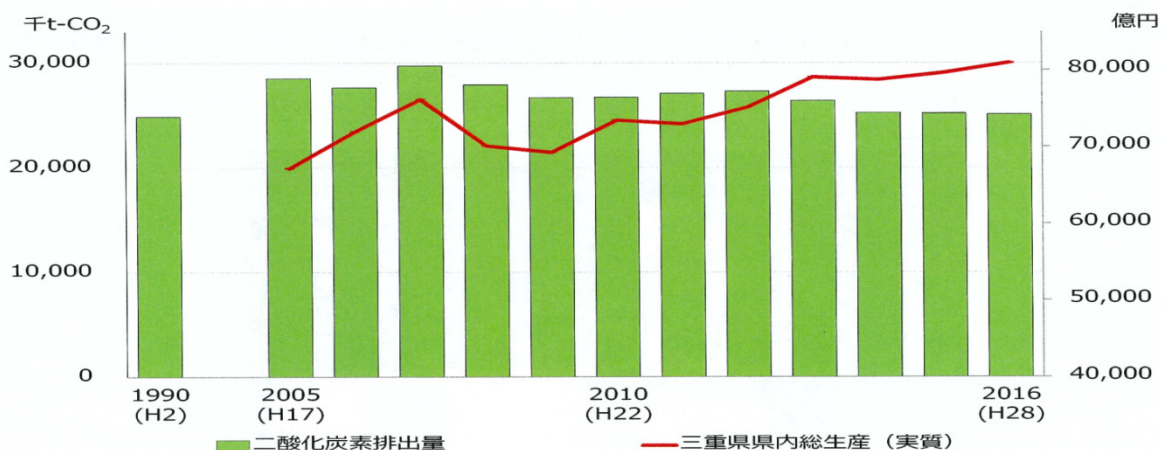
2019年12月4日、知事定例会見で「三重県は2050年までに温室効果ガスの排出量実質ゼロを目指す」ことを表明した。

12月15日メッセウイングみえで開催した「みえ環境フェア2019」のイベント内で県民の皆様の前で知事が宣言した。

<脱炭素宣言の趣旨>

- 近年、地球温暖化に伴う気候変動の影響と考えられる事象が増加し、県内においても、豪雨災害や熱中症患者の増加、農水産物への被害等、県民の生命、暮らし、命の源である食を脅かしてきており、温暖化防止は待ったなしの状況である。
- **世界でも**、2019年9月にニューヨークで開催された「国連気候行動サミット2019」や、12月にスペインマドリードで開催されたCOP25においても、気候変動対策が急務であるとの**危機感が高まっている**。
- 2016年の「G7伊勢志摩サミット」の首脳宣言に、その着実な実施等が盛り込まれた「**パリ協定**」の**取組が、間もなく2020年よりスタートする**。
- 伊勢志摩サミット開催地である三重県だからこそ、未来を生きる子供たちのためにも、率先して脱炭素に取り組む決意を内外に示し、**地域から世界の脱炭素化に貢献する**。

<三重県の温室効果ガス排出量の状況>

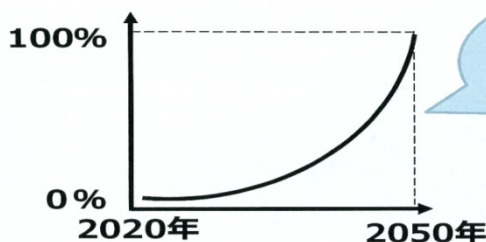


<脱炭素への今後の取組>



参加条件：「2050年までに調達電力を全て再生可能エネルギーにする」ことを宣言

※宣言をしてすぐに達成できなくてもOKです。



1-10 総合的な施設マネジメント

高度成長期に大量に建設された公共施設の老朽化，少子高齢化，環境問題等の問題を抱え，国の財政状況が厳しい中，公共施設の在りかたが問われており，資産の効用を最大化するためには，施設を適切に管理し，教育研究診療の活動を十分に発揮できる状態に保つ必要がある。

総合的な施設マネジメント（以下「TFM」）は，アセットマネジメント，クオリティマネジメント，スペースマネジメント，コストマネジメントの観点から，総合的に施設の整備や維持・管理を行うことにより寿命を延伸するとともに，利活用や統廃合等によりムダをなくすことにより所有施設総量及び施設運営の最適化を図るものである。

本学が所有する施設のうち経年 25 年を経過した機能改修未実施の施設が約 8.4 万 m^2 であり，所有面積全体の約 3 割になっている。特に，第 4 期中期目標期間が終了する 2028 年 5 月 1 日現在では約 9.2 万 m^2 に増加する等，今後の改築を含めた老朽対策には膨大な費用が必要となるが，これまでと同様に「古くなったら取り壊して新しい建物を建設する」といった手法は社会に通用しない時代になってきており，土地・施設の弾力的な活用を推進するため，本学の総合的な施設マネジメントの基本的な考え方を次のとおり示す。

＜既存ストックの有効活用の促進と所有面積の最適化＞

- インフラ長寿命化の推進
- 整備費及び維持管理予算の平準化と中長期にわたる維持管理費の確保
- 老朽化して機能的に問題がある施設の除去
- スペース再配分の推進

＜社会的要請への対応＞

- 安全・安心なキャンパス環境の確保
- 地球環境への配慮の推進
- ユニバーサルデザインを推進し，誰もが使いやすく親しみやすいキャンパス環境の提供

TFM は，以下の 5 つの視点により現状把握・分析から実行計画に至るまでを取りまとめ，「インフラ長寿命化計画」により施設のライフサイクルを延伸するとともに，経費の縮減及び平準化を図り，「個別施設計画」の実施によって，施設を中長期にわたって良好な状態で維持管理し，継続させることを目指した施設マネジメントである。

- **アセットマネジメント**：計画的かつ効率的に，施設の整備及び維持管理を行うことにより，施設の長寿命化，利活用及び統廃合を進めることで，所有資産の最適化を図ること。
- **クオリティマネジメント**：施設利用者の要望に配慮しつつ，安全及び教育研究等の諸活動を支援する機能等を確保し，施設の質の向上を図ること。
- **スペースマネジメント**：全学的にスペースを管理し，目的・用途に応じた施設のニーズ，利用度等を踏まえて，適切に再配分するとともに，不足する場合には新增築等施設の確保を行い，施設を有効に活用すること。
- **コストマネジメント**：施設のライフサイクル（企画・計画，設計，施工，運用及び改修をいう。）を通じて，経費の縮減・抑制と平準化を図っていくこと。
- **総合的な施設マネジメント**：キャンパス全体について総合的かつ長期的視点から，施設を確保し，活用するために行う一連の取り組みを図っていくこと。



1-10-1 施設整備の基本的な方針

本学の施設が質の高い安心安全な教育研究環境を確保していくためには、施設の現状や課題を十分に踏まえた上で、以下の考え方にに基づき、計画的かつ重点的な施設整備を推進する。

- 1) 施設の老朽化対策については、今後、通常の維持管理では対応できない老朽化した基幹設備（ライフライン）に起因する事故や施設の劣化による教育研究診療活動への影響が危惧されることから、引き続き、耐震対策や防災機能の強化に配慮しつつ、インフラ長寿命化計画（行動計画）等を踏まえ、計画的かつ重点的に老朽改善整備を推進する。
- 2) 国立大学法人等の施設に求められる「大学教育の質的転換」、「大学の強み・特色の重点化」等重要課題への対応については、CMP2018を踏まえつつ、的確に進めることが重要である。その際、学生等の学修活動や研究者等の研究活動を活性化させていく観点から、様々な交流空間やフレキシブルな教育研究空間を確保する。
- 3) 施設整備に当たっては、所有スペースの利用状況の点検等により既存施設について最大限有効活用を図りつつ、計画的な改修等を進める中で、機能強化や教育の質的転換の推進のための施設面でのニーズに対して、リノベーション（教育研究の活性化を引き起こすため、施設計画・設計上の工夫を行って、新たな施設機能の創出を図る創造的な改修）の実施等により対応する。
- 4) 改修や改築の際は、施設の集約化により敷地を有効活用することや、所有する建物の総面積を抑制することで維持管理費等を縮減し、その縮減した費用を教育研究水準の向上に資する環境整備に投資する等、大学経営の視点を踏まえ、施設の管理運営を行う。

以上の点を踏まえ、以下の三つの課題に取り組む必要がある。

- 安全・安心な教育研究環境の基盤の整備
- 国立大学等の機能強化等変化への対応
- サステイナブル・キャンパスの形成

本学は、第4次国立大学等施設整備5か年計画の趣旨を踏まえ、長期的な視点に立って、より効果的かつ効率的に施設整備を実施するため、基本理念やアカデミックプラン、経営戦略等を踏まえたキャンパス全体の整備計画（キャンパスマスタープラン）を策定・充実するとともに、当該プランに基づいた計画的な施設整備に努める。

また、経営者層のリーダーシップによる全学的体制により戦略的な施設マネジメント及び多様な財源を活用した施設整備をより一層推進する。

1-10-2 施設総量適正化に向けての方針

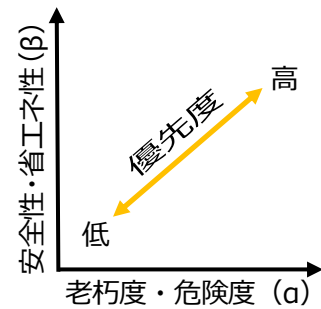
これまでのように必要な施設を増築し、施設の増加を図っていくことは、施設の整備や運用にかかる経費が厳しい財務状況をさらに圧迫する大きな負担となる。

今後は、新たな機能を強化する施設設備を除き施設の増加を抑制することを前提とする。新たに施設を建設する際には、増加分を既存施設の減築により補い、持続可能な規模を維持していくことを目指す。そのためには、スペースマネジメントによる既存施設の有効活用とセットで考えることが必要であり、新規施設の新築時には施設規模の検討とともに、全学的なスペース活用の方策を検討することが重要である。

上浜キャンパスにおける施設のトリアージとしては、施設の必要性を判断したうえで、500m²以下の小規模施設及び500m²～1,500m²程度の中規模施設について、施設用途を考慮して各エリア内で集約化を図り、共通スペースの共用化による所有面積の抑制を図っていくこととする。

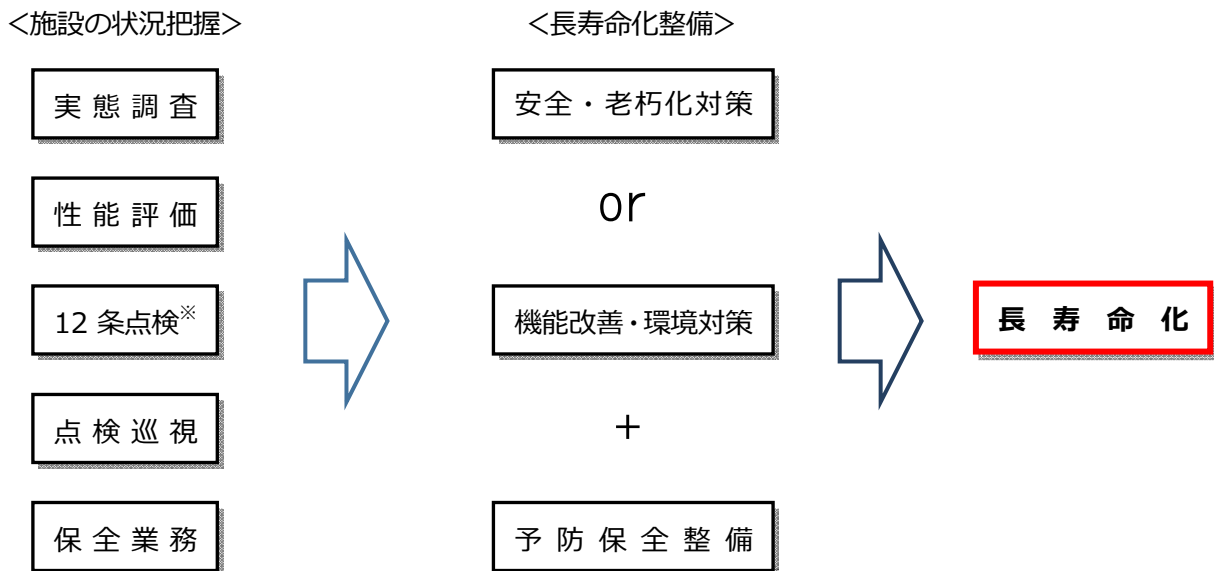
1-10-3 施設整備・更新の優先順位づけの方策

耐用年数に近づいた老朽化した建物と新築施設とでは、保守費用も維持管理費も異なる。また、劣化診断による劣化度によって改修投資金額が変わる。このため、限られた財源を「いつ」「どのような対策を」「どこに行う」「最適であるか」を判断し、優先順位を決める必要がある。そこで、老朽度・危険度 (a) と安全性・省エネ性 (β) の施設ポートフォリオによる優先順位付けという考え方をを用いることができる。



1-10-4 長寿命化・予防保全の方針

施設整備関連予算の確保が困難な中、大学施設の実態、大学の経営方針等を踏まえた施設の長寿命化を図る基本的な考え方を以下に示す。



※12条点検：建築基準法第12条の基づき実施する建物の点検

1-10-5 施設の状況把握、および日常的な維持管理の方針

- 本学が所有する施設・基幹設備（ライフライン）等の長寿命化を着実に進めていくために、大学施設を定期的に点検・診断し、老朽化の状況を把握する。
- 老朽化の状況把握だけでなく、経年による施設の機能陳腐化等により、教育研究活動の高度化・多様化、国際競争力の強化、産学官連携の推進等の教育研究上の取組に支障が生じていないか、また、バリアフリーや省エネ等社会的要請に対応できているか等を適時に確認し、機能向上を図っていくこととする。
- 老朽化が進行している基幹設備（ライフライン）については、未然に事故を防止し、教育研究機能等を停止させないため、整備実態の把握及び的確な点検を進め、計画的に対策を実施し、機能向上を図っていくこととする。

1-10-6 長寿命化および維持管理費の縮減に関する方針

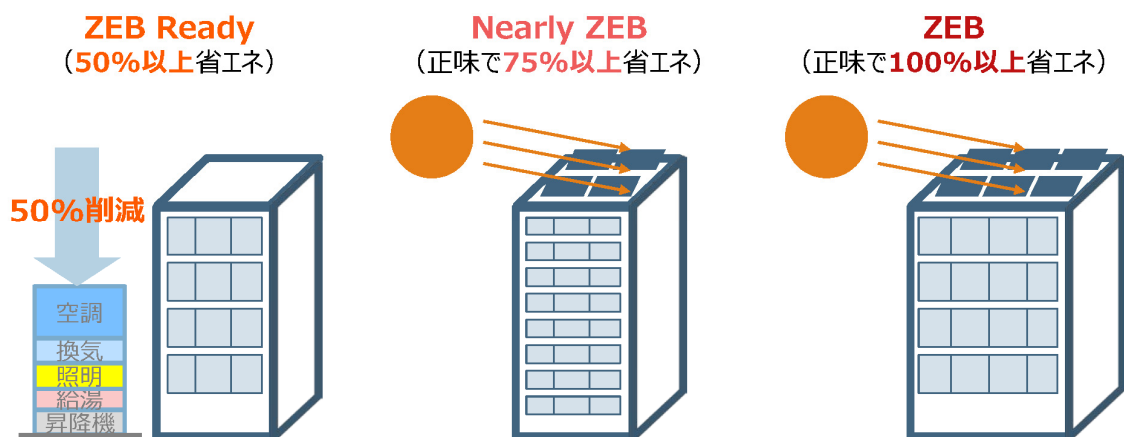
- 施設・基幹的設備に対する定期的な点検・診断の結果を踏まえ、日常的な修繕や大規模な改修等の対策をこれまでも実施しているが、今後はより計画的に行うことにより、施設・基幹設備の安全を確保するとともに、維持管理等に係る中長期的なトータルコストを抑制し、長寿命化を図っていくこととする。
- 建物の大規模改修や改築を検討する際には、室用途の似た室の共同利用化や稼働率の低い諸室の統廃合等の施設マネジメントを推進し、減築や建築規模の縮小を図ることにより、維持管理等に係るコストを抑制する。

1-10-7 省エネルギーの基本方針

政府が定めた、CO₂削減目標（2030年までに2013年比26%削減）に対して、本学は環境先進大学として、第3期中期目標・中期計画におけるCO₂排出量6%削減（2015年度比）を目標としており、省エネルギーや環境負荷の低減に資する施設整備を推進していくこととする。

建物の新增改築に際しては、建物のZEB化、大規模改修時にはZEB Ready以上を目指し、キャンパスの通風、日照、自然環境との共生や再生可能エネルギーの導入等を推進する。これらの省エネルギー対策は、学生に対する環境教育、エネルギー教育、生物多様性等の実践の場、最先端の知識を実践する場として大学キャンパスを活用していくこととする。

- **50%以上省エネ（ZEB Ready）**を満した上で、太陽光発電等によりエネルギーを創ることで、正味でゼロ・エネルギーを目指す
- ただし、高層の大規模建物等では屋上面積が限られ、エネルギーを創ることに限界があるため、評価に考慮することが必要
- 正味で**75%以上省エネ**を達成したものを **Nearly ZEB**
正味で**100%以上省エネ**を達成したものを **ZEB**



1-10-8 施設整備水準

本学における今後の施設整備は、建物の機能向上を図るとともに、省エネ化、バリアフリー化、防災対策、地域との連携機能等を向上させるために、施設整備計画の立案時には CMP2018 に定められている、ゾーニング、デザインコード等を確認し、利用者から求められている施設計画を立案する。

計画に際しては、次の施設整備水準を参考にし、少ないコストで最大の効果が得られる費用対効果の高い計画とする。

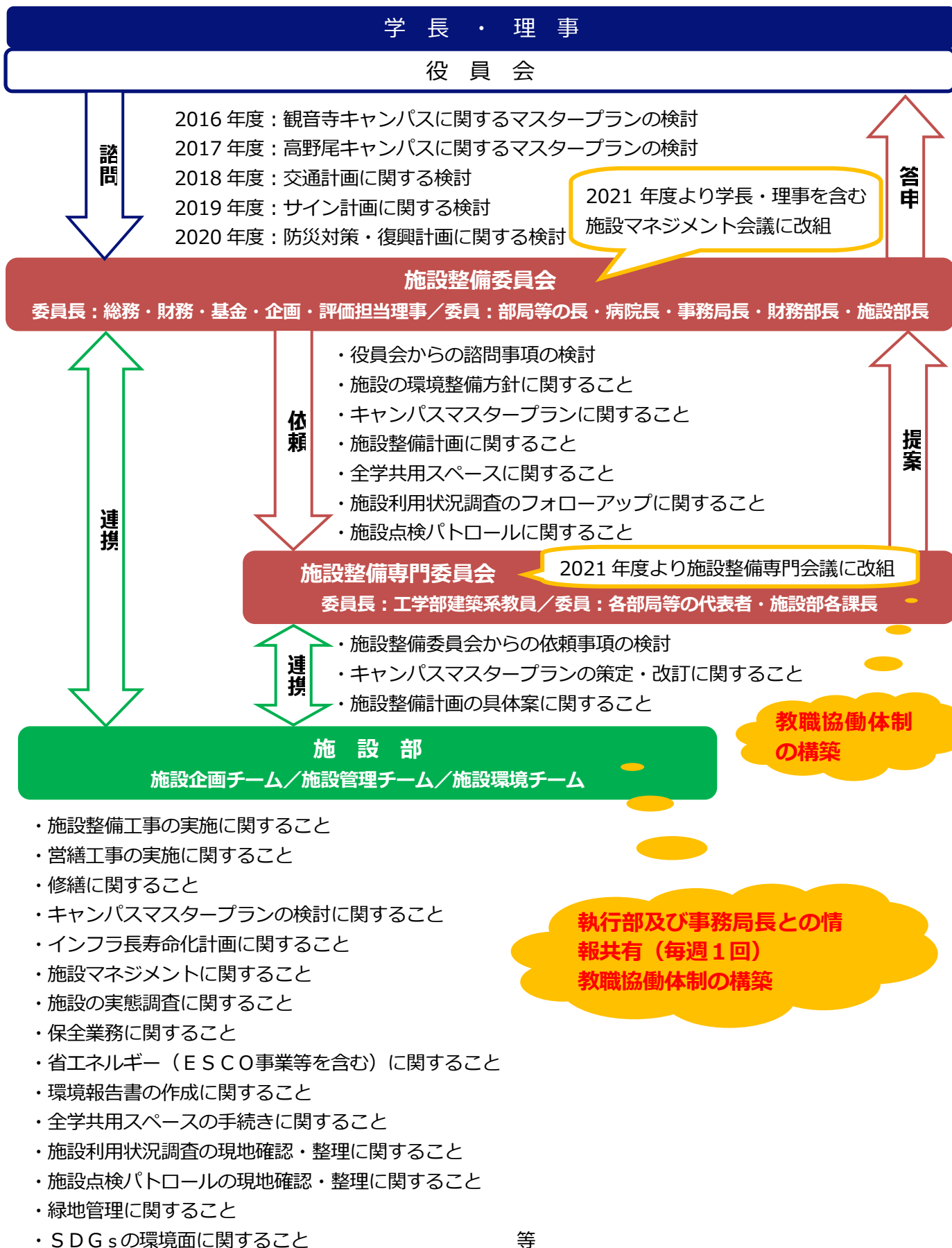
■施設整備水準（グレード）

部 位		A	B	C	D (標準)	E (改修)	
建物	屋根・屋上	屋上の断熱化			遮熱シート防水	既存防水方法 または D 同等以上	
		アスファルト防水：断熱工法	遮熱シート防水：断熱工法	シート防水：断熱工法			
	外壁	外断熱 [※] 仕上げ	打ち放し 光触媒塗装 タイル張り →断熱材 25mm	防水型複層塗材 E →断熱材 25mm	複層塗材 E →断熱材 25mm	既存仕上げ または D 同等以上	
		開口部の断熱強化		複層ガラス →Low-e	複層ガラス		
	外部建具	三層複層ガラス →Low-e +樹脂製サッシ	複層ガラス →Low-e +樹脂製サッシ				既存仕上げ または D 同等以上
		自然換気の導入					
		換気スリット付き 引き違い窓	換気スリット付き 引き違い窓	換気スリット付き引き 違い窓			
電気設備	受変電設備	自然エネルギー	非常用電源		屋外 [※] ・屋内 電気室 トランス機器	D 同等以上	
		太陽光発電 蓄電池					
	中央監視	BEMS	集中検針				
	照明設備	自然エネルギー	高効率照明			LED 照明 照明制御 →初期照度	既存器具 または D 同等以上
		自然光導入	LED 照明 タスク&アンビエント照明 制御	LED 照明 照明制御 →人感・照度			
(共用部)	自然エネルギー	LED 照明 照明制御 →人感・タイマー			既存器具 または D 同等以上		
	光ダクトによる自然光導入						
(屋外)	自然エネルギー	LED 照明 照明制御	照度・タイマー		既存器具 または D 同等以上		
		ハイブリッド照明 LED+風力+太陽光+蓄電池	ハイブリッド照明 LED+風力 or 太陽光				

部 位		A	B	C	D (標準)	E (改修)
給排水 衛生設備	給排水設備	井水利用 雨水・中水利用		直圧・加圧給水式 + 緊急遮断弁	受水槽 高置水槽式 直圧・加圧給水式	既存設備 または D 同等以上
	(トイレ)			乾式工法 節水型便器 自動水洗	節水型便器	既存設備 または D 同等以上
空調換気 設備	空調設備 (マルチ式)		高効率空調			既存設備 または D 同等以上
			ヒートポンプ式 →デシカ型	ヒートポンプ式 →EHP・GHP	ヒートポンプ式 →個別	
	(中央式)	高効率熱源+エアハンド				
		運転制御 →流量・FB・CO2・ 外気冷房・他導入	運転制御 →流量・FB・CO2	運転制御 →流量・FB		
換気設備	全熱交換型 運転制御 →流量+ナイトバージ	全熱交換型 運転制御 →流量		全熱交換型	既存設備 または D 同等以上	
(トイレ)		機械換気 運転制御 →人感・タイマー	機械換気 運転制御 →人感	機械換気	既存設備 または D 同等以上	
昇降機 設備				地震管制 P 波センサ付 火災管制 障害者用対応 (車 椅子 + 視覚障害者 対応) 停電時自動着床		
ピット ・共同溝	全面ピット +共同溝	全面ピット +トレンチ	全面ピット	一部ピット		
機能強化	フレキシビ リティ		スライディングウォール OA 707	パーテーション間仕切 り, OA 707	LGS 間仕切り	
オプシ ョン	ダブルスキン ^{※1} , エコボイド ^{※2} , 自然光導入, 外部ルーバー, 壁面緑化, 屋上緑化等					

※1 ダブルスキン: 建物の外壁の外部に壁やガラス等を設けることにより二重化し, 設備スペースや断熱層を設ける手法

※2 エコボイド: 建物内に縦の空間を設け, 空気の流れによる自然換気や屋上からの採光等自然の力を利用する手法



■2021 年度からの三重大学施設マネジメント体制の強化について

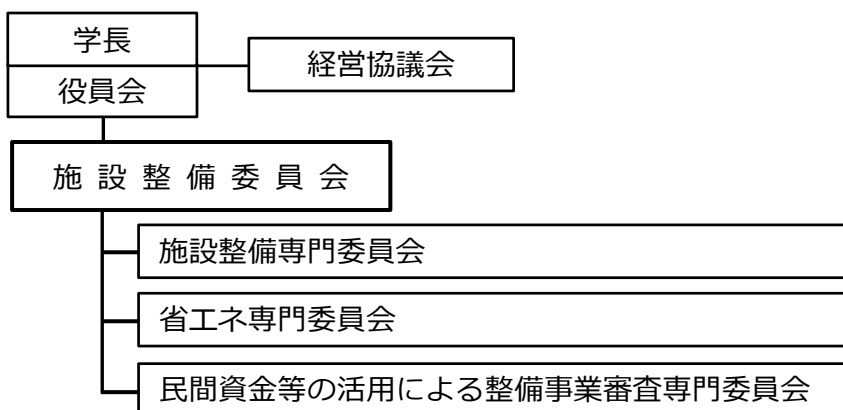
1) 目的

施設マネジメントを学長のトップマネジメントとしてガバナンス改革をさらに推進するため、「三重大学施設整備委員会」を廃止し、「三重大学施設マネジメント会議」を設置して、本学の施設マネジメントに関する企画・立案機能を強化することを目的に、役員及び部局長等で審議する体制を構築するものである。

特に、令和3年度から始まる次期施設整備5か年計画では、キャンパス全体をイノベーション・commons（共創拠点）へ変革していくことが盛り込まれる予定であり、学部の枠を超えた議論の場として機能させることが必要であると考えている。

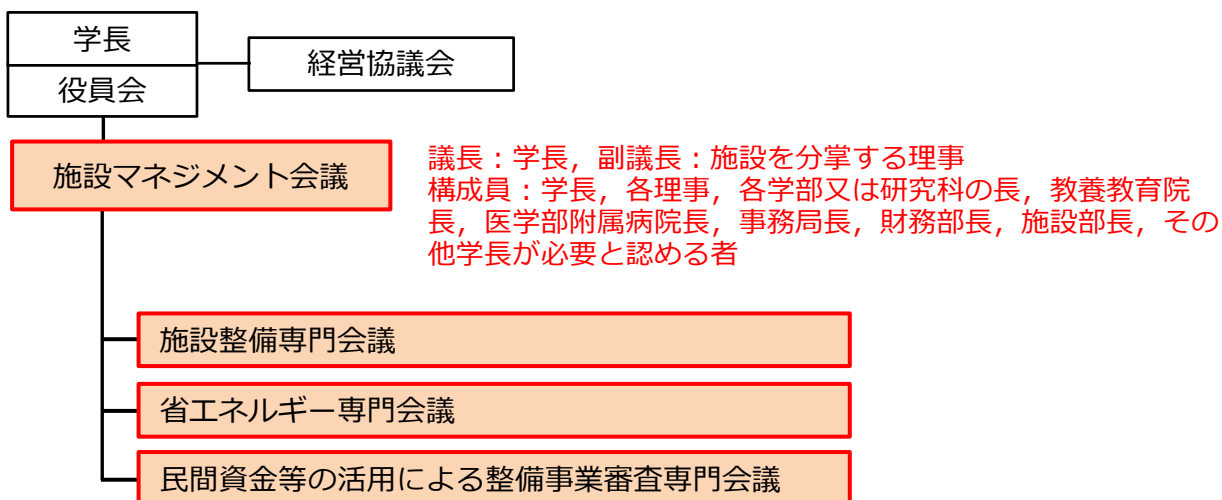
2) 施設マネジメント体制

◆現行の体制



見直し

◆見直し後の体制



1-10-10 点検・評価


施設マネジメントによる有効活用及び施設・基幹設備（ライフライン）等の長寿命化を着実に進めるためには、施設を定期的に点検・診断し、利用状況や老朽化状況を把握することが重要であり、以下の点検・評価を実施し、施設整備計画に反映させる。

■施設利用状況調査

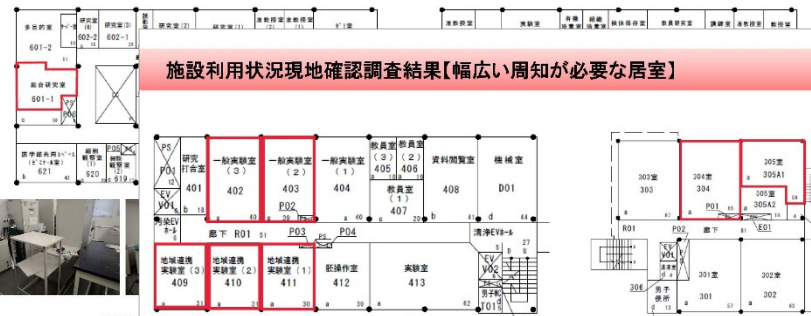
施設の有効活用を図るために、2006年度より建物の利用状況調査を行っており、未利用室・スペースの学部共用スペース・全学共用スペースへの転用や不足している用途への用途変更を行っている。この取り組みは、引き続き実施する。

施設部 Web サイト : <http://www.mie-u.ac.jp/shisetsu/homon-menu/gakunai-sub/management.html>

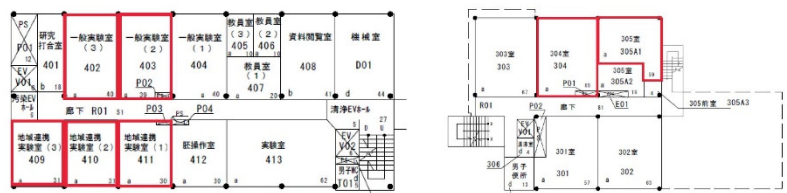
施設利用状況現地確認調査結果【取壊しが必要な施設】



施設利用状況現地確認調査結果【改善が必要な施設等】



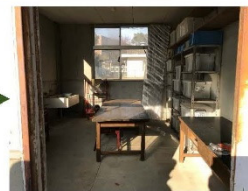
施設利用状況現地確認調査結果【幅広い周知が必要な居室】



病態

施設利用状況現地確認調査結果【調査により新たな利用方法が実現された事例】

調査により新たな利用方法が実現された事例



共同実験室D棟
昆虫室→倉庫に転換

使用していなかった昆虫室の使用方法を検討した結果、担当教員が中心となり清掃・整理整頓を行い、倉庫として活用している。



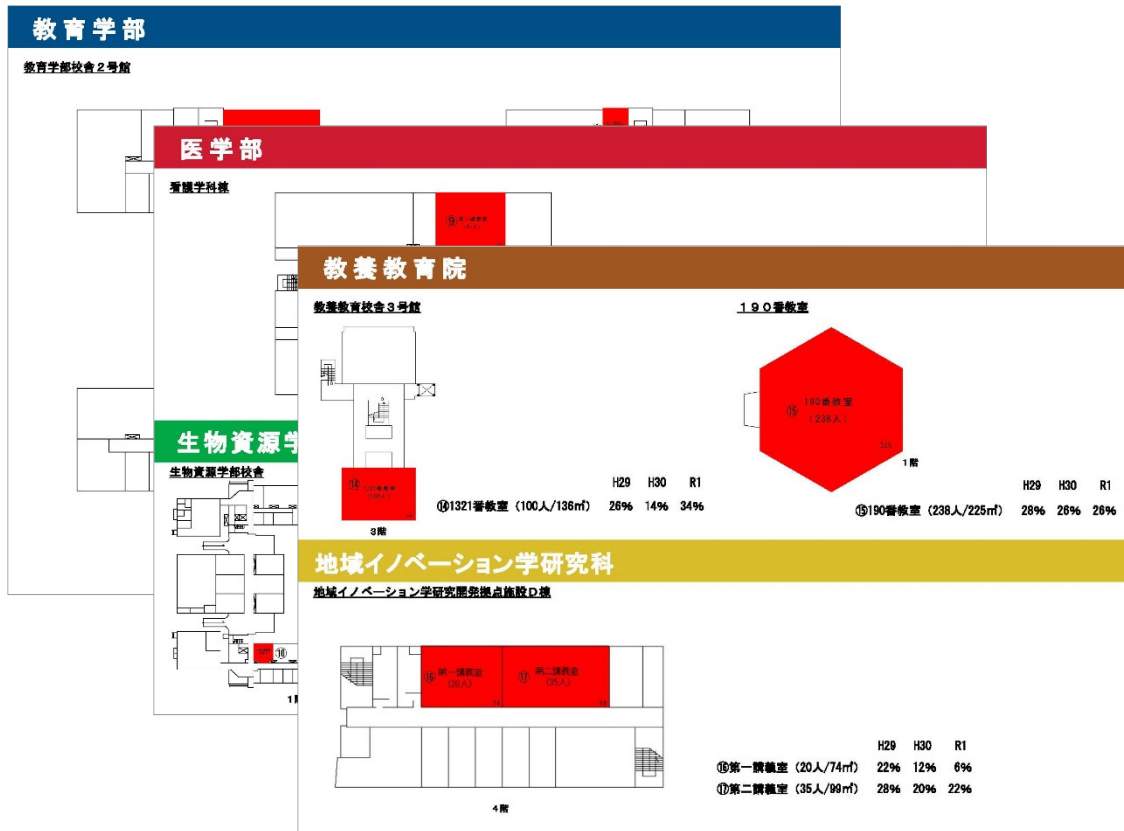
車庫→倉庫に転換

使用していない車庫の取壊しを検討していたところ、トラクター走路にある車庫の荷物の移転先を探していることが判明したため、清掃・点検を行った後に倉庫として活用することが決まった。

おらず利用され
等の見直しを検

■ 講義室稼働状況調査

講義室においては、カリキュラム等に基づき規模別の稼働率を調査することにより、稼働率の低い室の改修、統合や設備の追加等を行い、稼働率の向上について努めており、引き続き調査を実施する。



講義室等使用調査まとめ

今年度の調査に加え、過去3年間の稼働率により、改善が必要な講義室・PBL室等(以下、講義室と示す。)を以下に記載する。改善対象は「過去3年間で稼働率40%以下若しくは1回以上20%以下」となった講義室である。人文学部については、人文学部校舎の改修により、用途や使用方法の変更があるため、今回の調査からは除外している。また工学部に関しては、条件に該当する講義室は無かった。

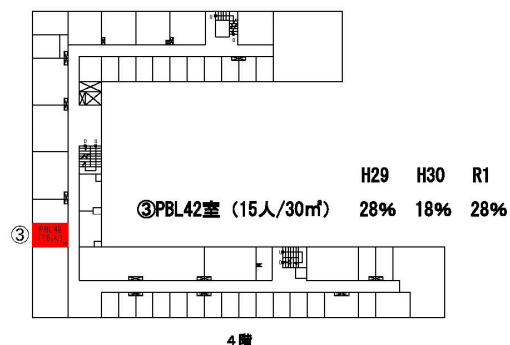
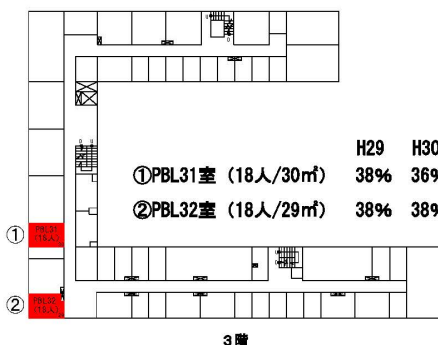
コロナ禍の現状で、講義室の稼働率を向上させるには、次の手法が考えられる。

- 稼働率の低い講義室で行っている授業について、他の講義室で行えるよう時間割等の調整を検討する。
 - その上で空室となった講義室をハイブリット授業の待機スペースや、学生の自習室として全学的に開放する。
- これにより、講義室の稼働率が向上するとともに、学生から要望のあるスペースを費用をかけずに確保することができる。

コロナ後の対応として、上記の手法で空室となった講義室を研究室や実験室に転用し、学内外に貸出すことを検討する。貸出しにあたっては使用料を徴収することで、当該施設の修繕にかかる自己財源が確保できる。

教育学部

教育学部校舎1号館



■上浜キャンパス施設点検巡視

2004 年度から施設の安全性・信頼性を確保するため、教育研究活動の支障となっている施設の不具合を解消するとともに、潜在するリスクに対する予防的な施設の点検・保守・修繕等（プリメンテナンス）を効果的に実施するために、点検・巡視を行っている。

この点検・巡視の結果による施設の問題点・不具合箇所を危険度に応じて3段階（A：至急対応要，B：可能であれば対応，C：様子見）にまとめ、今後の施設整備計画に反映させることとする。

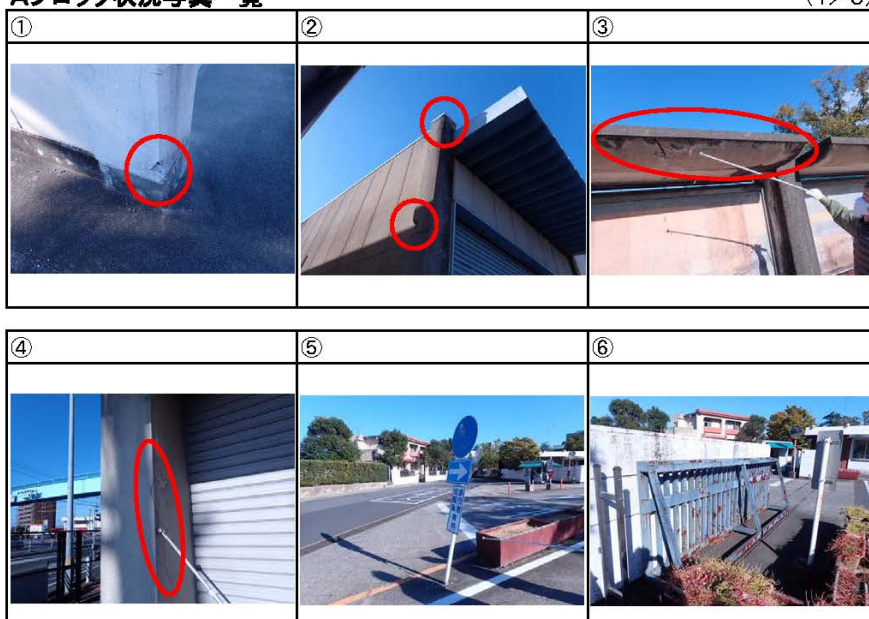
2020 年度の点検・巡視結果（サンプル）

< Aブロック >

写真番号	建物名	内容	危険・異常・景観ランク
①	車庫	柱が欠けている	B
②	車庫	爆裂	B
③	掲示板	爆裂	A
④	車庫	クラックが発生	C
⑤	標識	傾いている	C
⑥	正門	塗装剥がれ、動かない	C
⑦	インフォメーションセンター裏	フェンス傾いている	C
⑧	総合研究棟Ⅱ前	平板隆起（樹根影響）	C
⑨	総合研究棟Ⅱ	外壁汚れ	C
⑩	総合研究棟Ⅱ	錆発生	C
⑪	総合研究棟Ⅱ前	ウッドデッキめくれ	A
⑫	総合研究棟Ⅱ周辺歩道	インターロッキング陥没	B
⑬	総合研究棟Ⅱ周辺歩道	インターロッキング隆起（樹根影響）	B
⑭	三翠会館	フェンス傾いている	C
⑮	インターロッキング	縁石、ブロック崩れ	C

Aブロック状況写真一覧

(1/3)



2. インフラ長寿命化計画

2-1 インフラ長寿命化計画の目指すべき姿

2013年11月に政府全体の取り組みとして、国民生活や社会経済活動を支えるインフラに関する維持管理等の方向性を示す基本的な計画である「インフラ長寿命化基本計画（基本計画）」が策定された。

この基本計画を踏まえ、文部科学省が所管又は管理する施設の維持管理等を着実に推進するための中期的な取り組みの方向性を明らかにするため、「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」を策定し、これにより所管又は管理施設の長寿命化に向けた各設置者における取り組みを一層推進することとしている。

本行動計画においては、国立大学法人等が所有する施設も対象施設としており、各法人は行動計画を2016年度末までに、個別計画については2020年度までに策定するように依頼されている。

老朽化した施設の修繕、改修等の対策に係る需要が一時期に集中するおそれがあるため、施設の長寿命化を着実に実施して施設のトータルコストの縮減に努め、施設に係る予算の平準化を図るために「インフラ長寿命化計画」の行動計画及び個別計画を定めて、計画的に整備・改善を実施する。

2-1-1 安全で強靱なインフラシステムの構築

既存インフラについて、老朽化状況を把握し、維持管理のサイクル化を構築するとともに、長寿命化を推進し、老朽化に起因する重要インフラの重大事故ゼロを目指す。

インフラの調査及び更新にあたっては、費用対効果や実行性等について十分に検証する。

2-1-2 総合的・一体的なマネジメントの実現

施設の定期的な点検・診断を実施し、その結果を踏まえた計画を策定し、計画に基づいて対策を実施するメンテナンスサイクルを確実に推進して、総合的・一体的なマネジメント体制を推進する。

施設を適切に管理し、教育・研究・診療活動が十分に発揮できる状態を保つために、計画的・効率的な維持管理を実施するとともに、施設の長寿命化による経費の抑制と平準化を図り、施設の有効活用を一層推進するとともに、効果的・効率的なストック管理を行い、中長期にわたる費用負担を抑制する。

施設マネジメント体制については、「本学施設整備委員会」が中心となり、PDCAサイクルを推進する。

2-2 行動計画

2-2-1 インフラ長寿命化計画の行動計画

■対象施設

国立大学法人三重大学が所有管理する全ての建物及び基幹設備を対象とする。ただし、プレハブ倉庫、ボンベ庫等の小規模建物は除く。

- ・上浜キャンパス、観音寺キャンパス、高野尾キャンパス他
- ・教育研究施設、附属病院、課外活動施設、宿舎、保育所等

■計画期間

- 施設の計画期間は、建設から90年間をベースとし、2021年度～2033年度までの13年間とするが、本学の中期目標・中期計画期間である6年間を区切りとしてインフラ長寿命化計画の行動計画を見直すとともに、個別施設計画を毎年度見直すこととする。
- 基幹設備（ライフライン）は、2027年度までの8年間とする。
- 宿舎施設は、2027年度までに民間資金を活用したPPP手法による職員宿舎再整備計画を実施する。

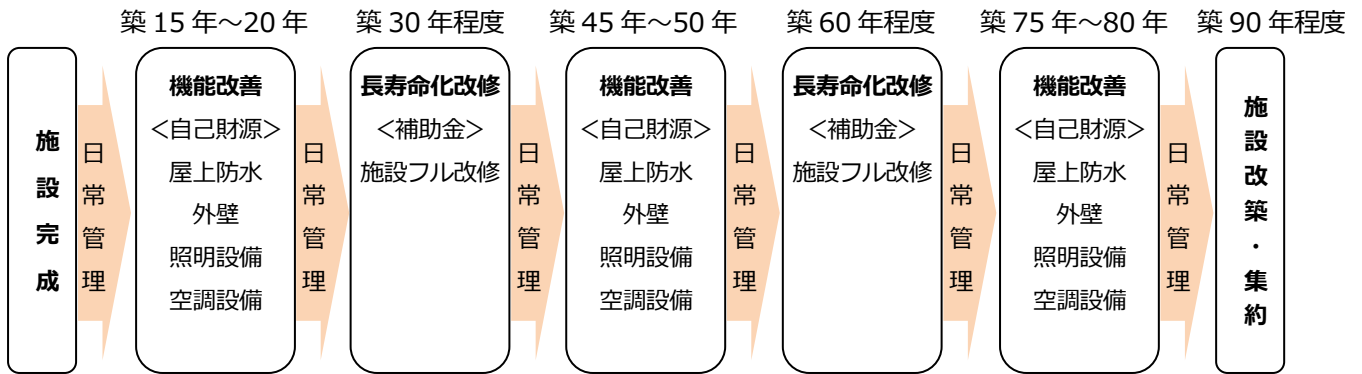
■計画スケジュール

期	第3期			第4期						第5期					
年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
施設点検の実施	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
行動計画の見直し	●								●						●
個別施設計画に基づく施設整備	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
個別施設計画の見直し	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

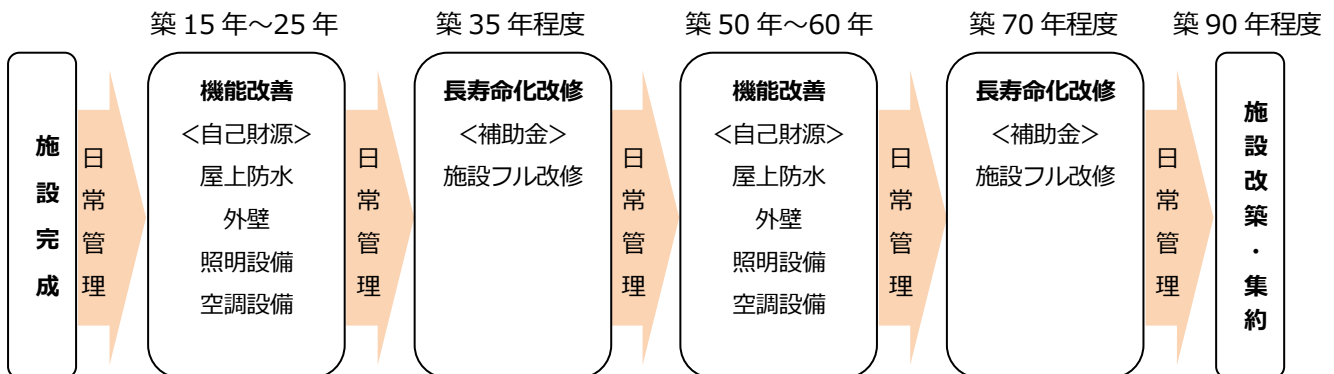
2-2-2 施設の長寿命化計画の基本方針

施設については、施設の用途及び規模に応じた整備年度計画にシフトするインフラ長寿命化を基本方針とする。ただし、建物整備費用が年度ごとにばらつきが生じるため、支出の平準化を図る。

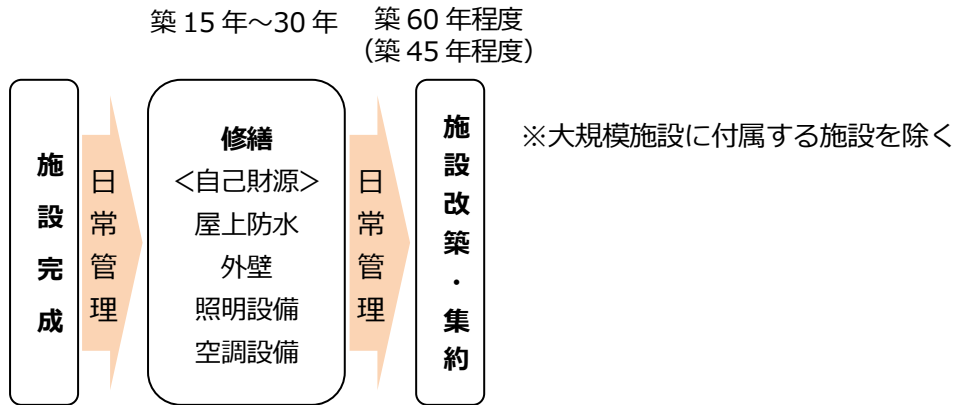
■教育研究施設等（理系）のインフラ長寿命化計画



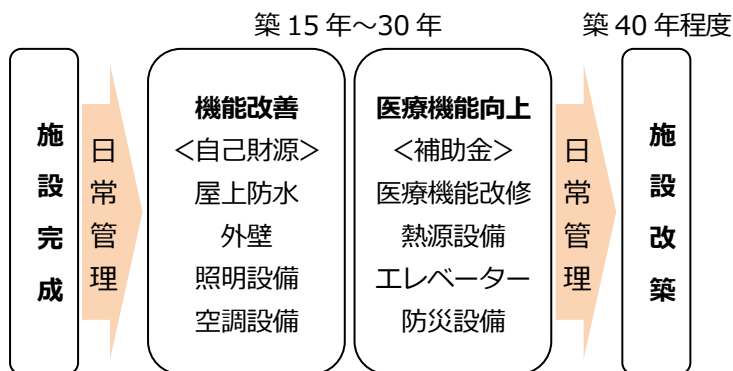
■教育研究施設等（文系）のインフラ長寿命化計画



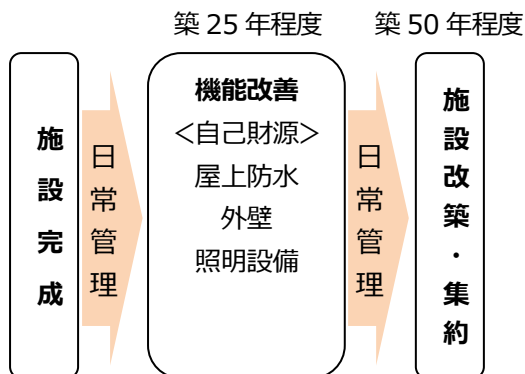
■ 500m²以下の施設に対するインフラ長寿命化計画



■ 附属病院のインフラ長寿命化計画



■ 職員宿舎のインフラ長寿命化計画



※職員宿舎については、PPP手法による整備を検討する。

■ インフラ長寿命化計画に関する施設の耐用年数

構造	耐用年数
鉄骨鉄筋コンクリート造 鉄筋コンクリート造	90 年まで
鉄骨造	60 年まで
ブロック造	45 年まで
木造	45 年まで

■長寿命化改修で実施すべき事項（機能改善 + 環境対策 + 安全・老朽化改修）

工事区分	工種・設備種別	
建築	屋上防水	屋根葺き替え
	外部仕上げ	外部建具
	内部間仕切り	内部仕上げ
	内部建具	
	屋外環境整備	
電気設備	照明設備（機器・配線）	電力設備（機器・配線）
	防災設備（機器・配線）	通信設備（機器・配線）
	電話交換設備（機器・配線）	
	受変電設備（継電器，遮断機，変圧器，配線類）	
	中央監視装置（機器・配線）	その他弱电設備（機器・配線）
	屋外配線	
機械設備	給排水設備（機器・配管）	衛生機器
	空調機器（機器・配管）	換気機器（機器・ダクト）
	計測装置	特殊ガス設備
	屋外配管	
搬送設備	エレベーター（制御機器・かご他）	

2-2-3 建物の部位別機能改善

建物の部位別機能改善は、屋上防水、外壁、照明設備、受変電設備、情報・通信設備、給排水衛生設備、空調設備、エレベーターの8項目を重点項目として設定し、計画的に改善を図る。

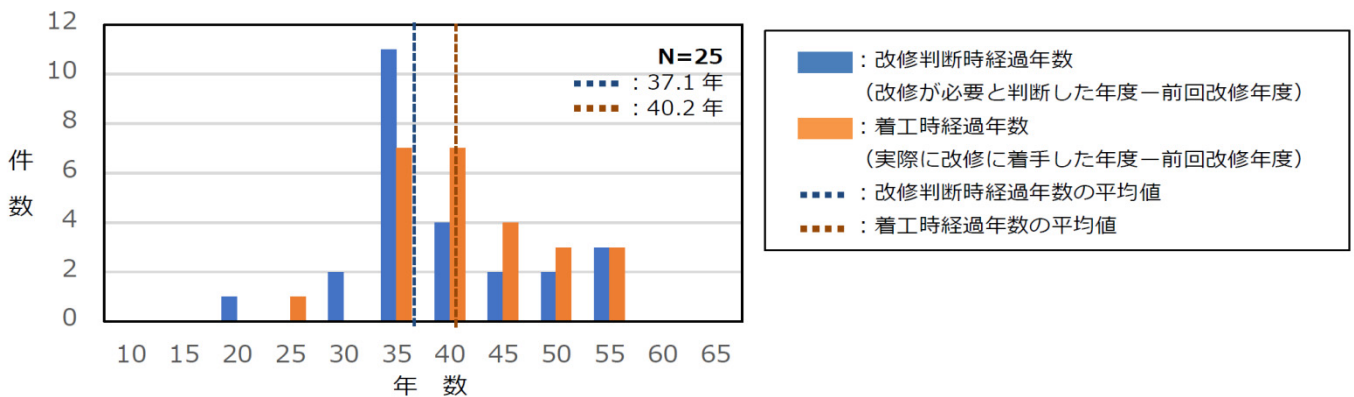
本学の上浜キャンパスは、伊勢湾に隣接しており塩害の影響を受けることから、改善周期が短くなる。

■部位別機能改善計画期間

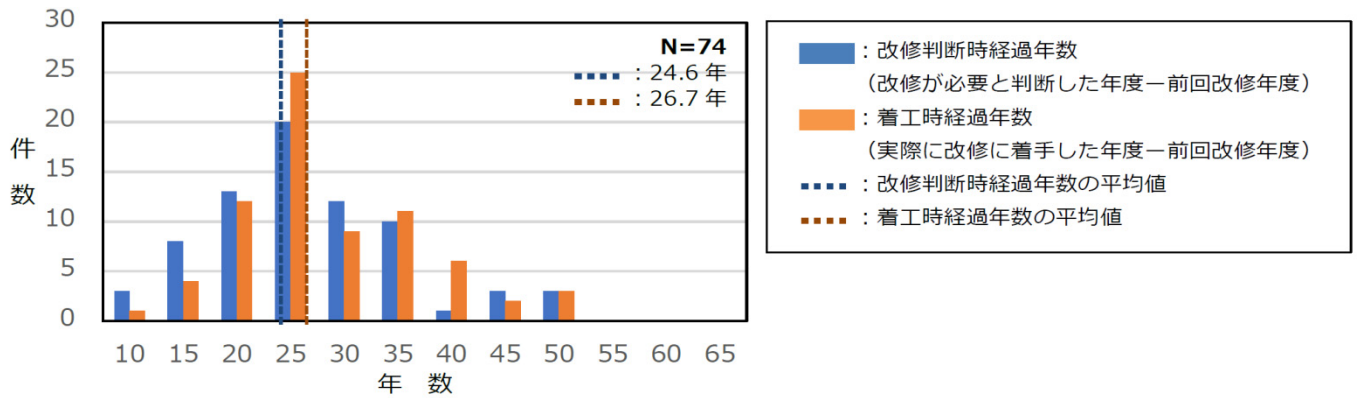
種 別		改善周期
建築	屋上防水	20年～25年程度
	外壁	20年～25年程度
電気設備	照明設備	15年～25年程度
	受変電設備	30年程度
	情報・通信設備	15年～25年程度
機械設備	給排水衛生設備	30年程度
	空調設備	15年～25年程度
搬送設備	エレベーター	30年程度

施設総合パトロールや保守点検結果を踏まえた予防保全を実施することにより、施設の良好な状態を維持していくこととする。

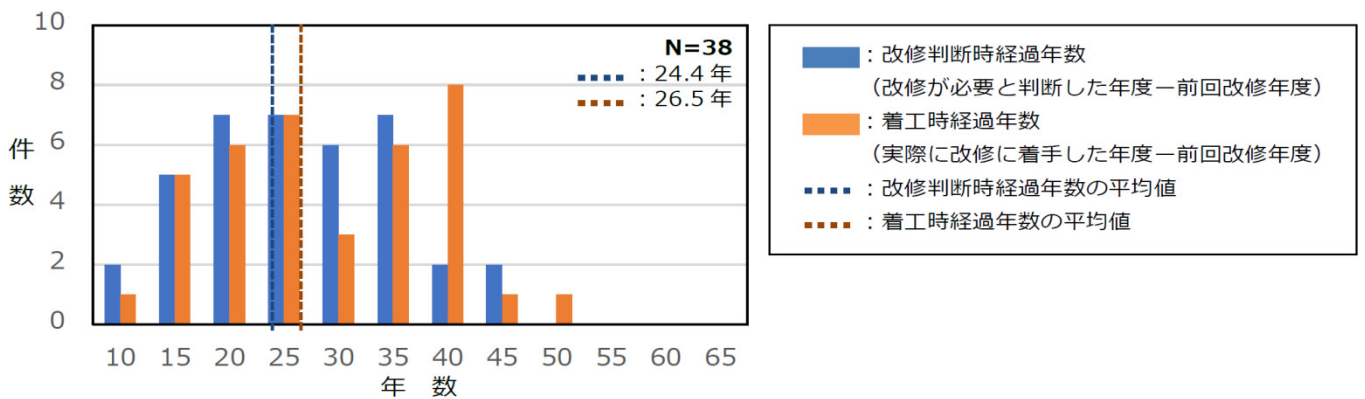
■部位別改善年数の全国平均



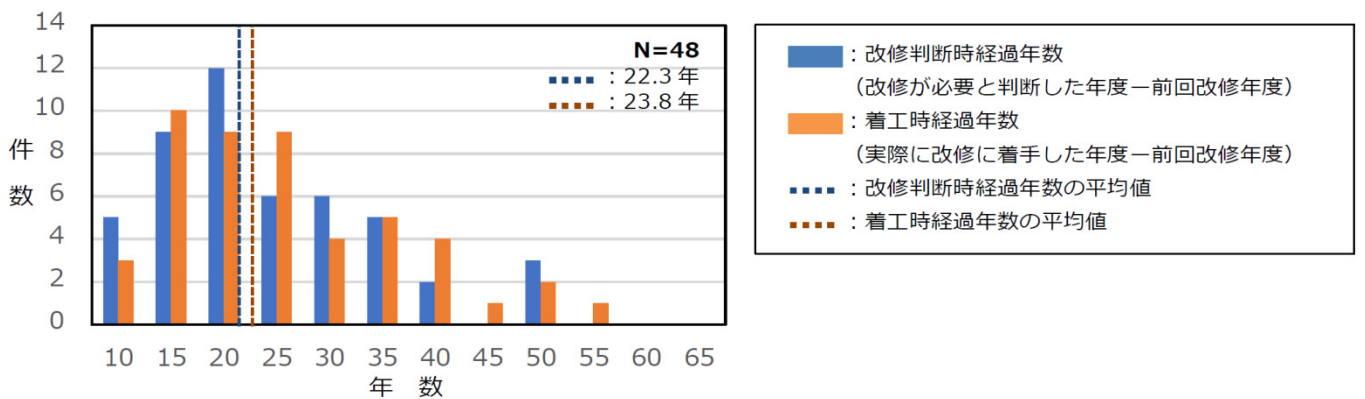
図表_2-2① 【屋上】コンクリート押え（アスファルト防水）の使用年数分布



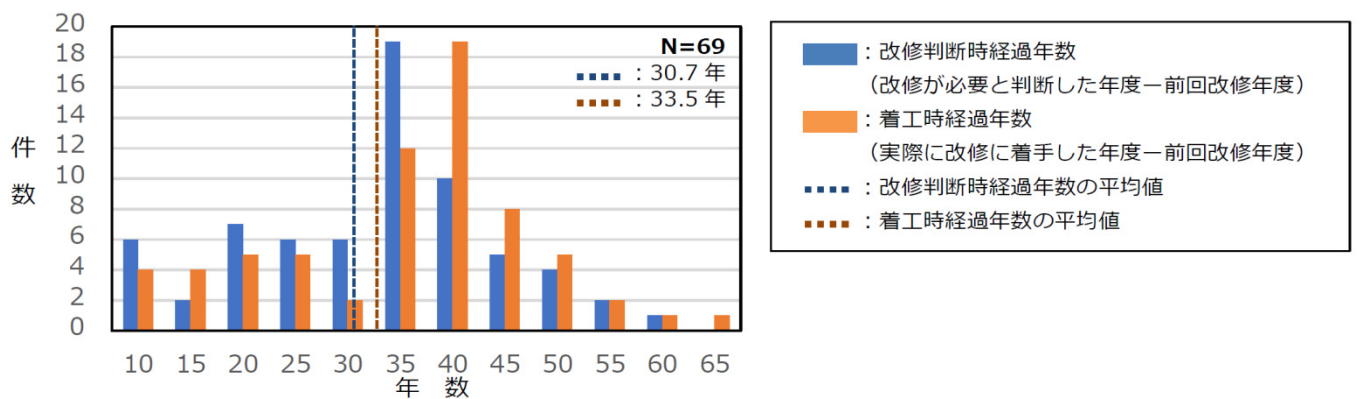
図表_2-2② 【屋上】露出シート防水（合成高分子）の使用年数分布



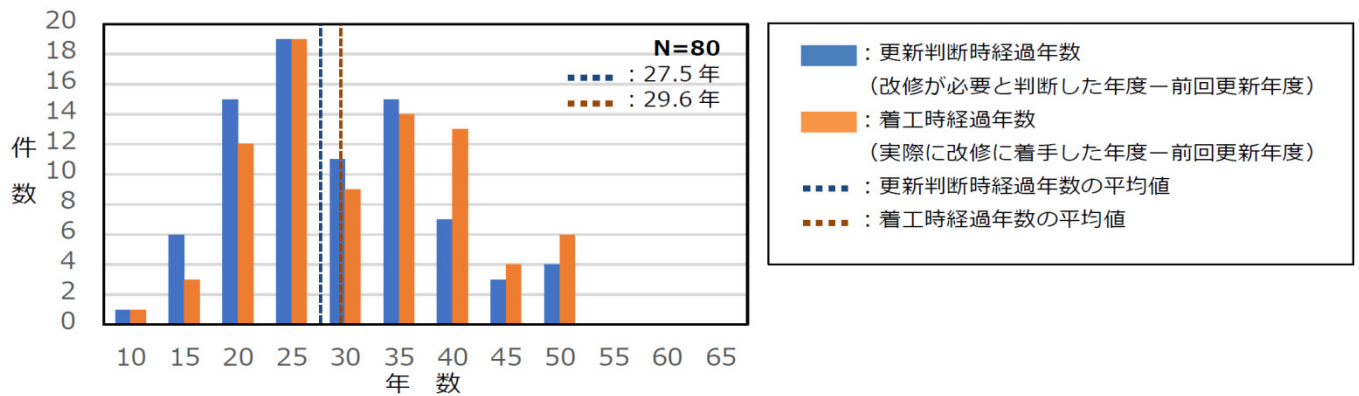
図表_2-2③ 【屋上】露出シート防水（アスファルト）の使用年数分布



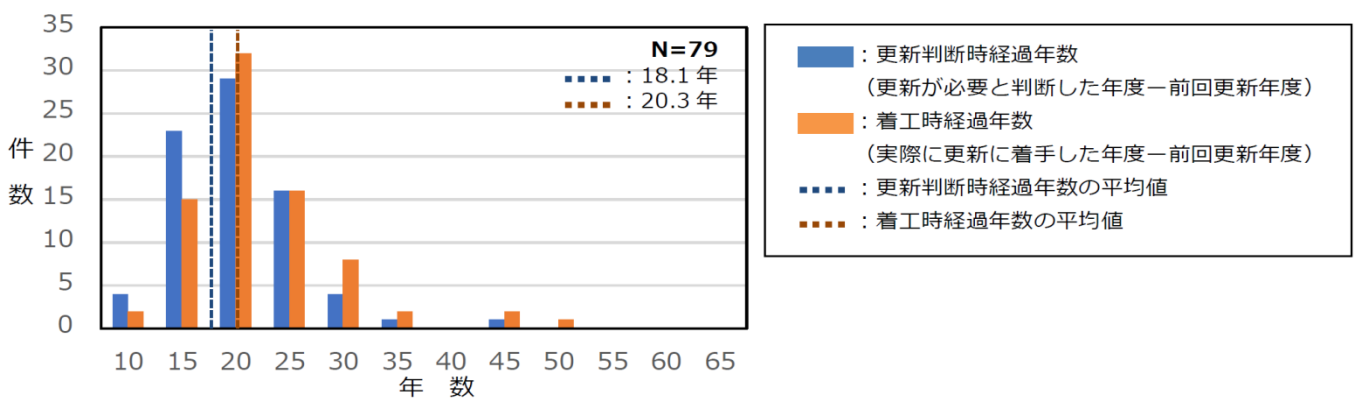
図表_2-2④ 【外壁】タイル張り（全面的な浮き補修 等）の使用年数分布



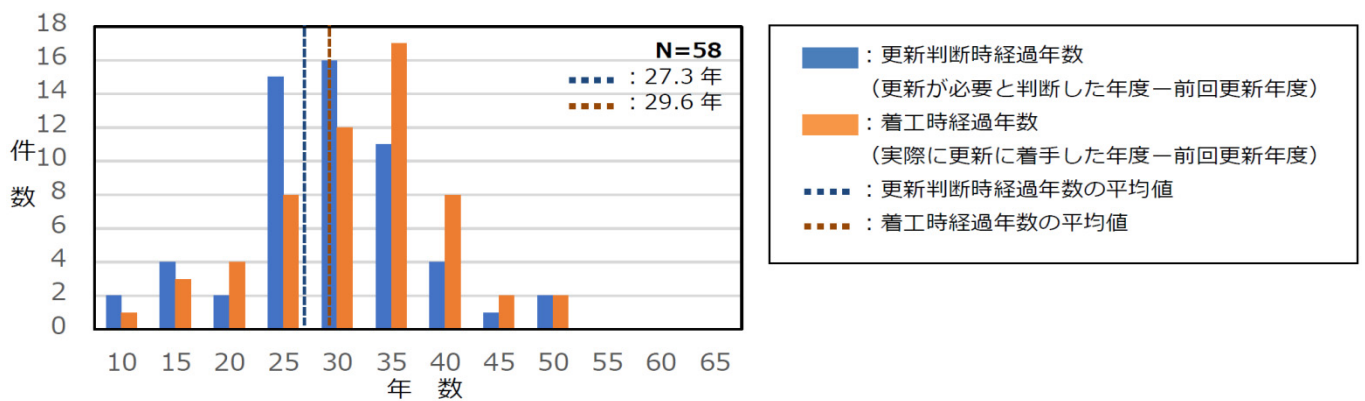
図表_2-2⑤ 【外壁】塗装・仕上塗材の使用年数分布



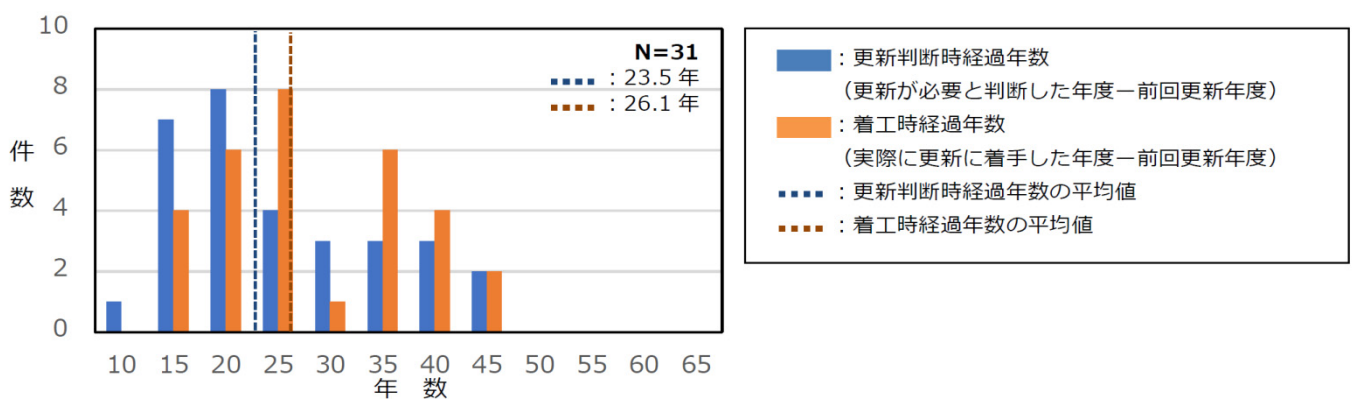
図表_2-2⑥ 【設備】照明設備の使用年数分布



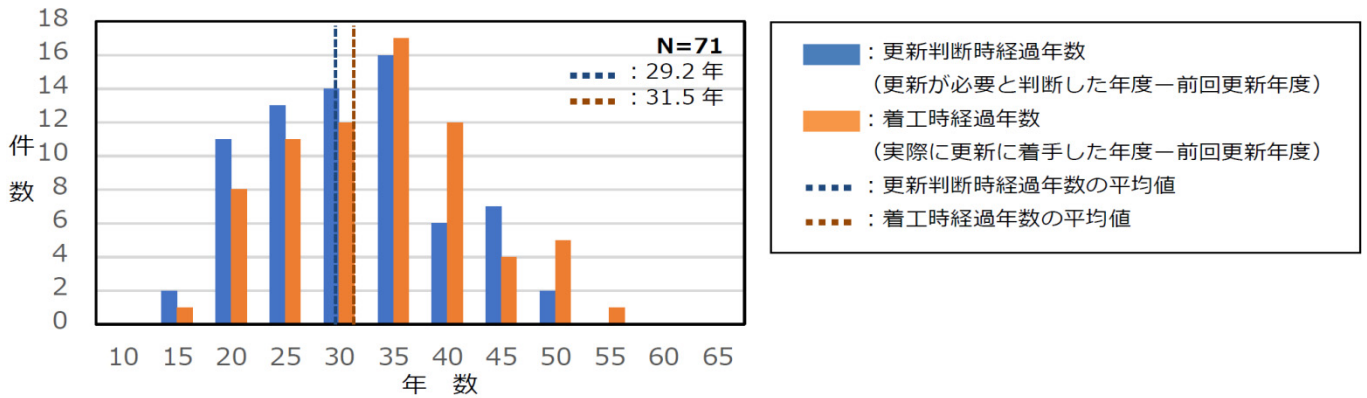
図表_2-2⑦ 【設備】個別式空調（EHP空調・GHP空調）の使用年数分布



図表_2-2⑧ 【設備】エレベーターの使用年数分布



図表_2-2⑨ 【設備】中央式空調（ボイラー設備等）の使用年数分布



図表_2-2⑩ 【設備】衛生設備（トイレ）の使用年数分布

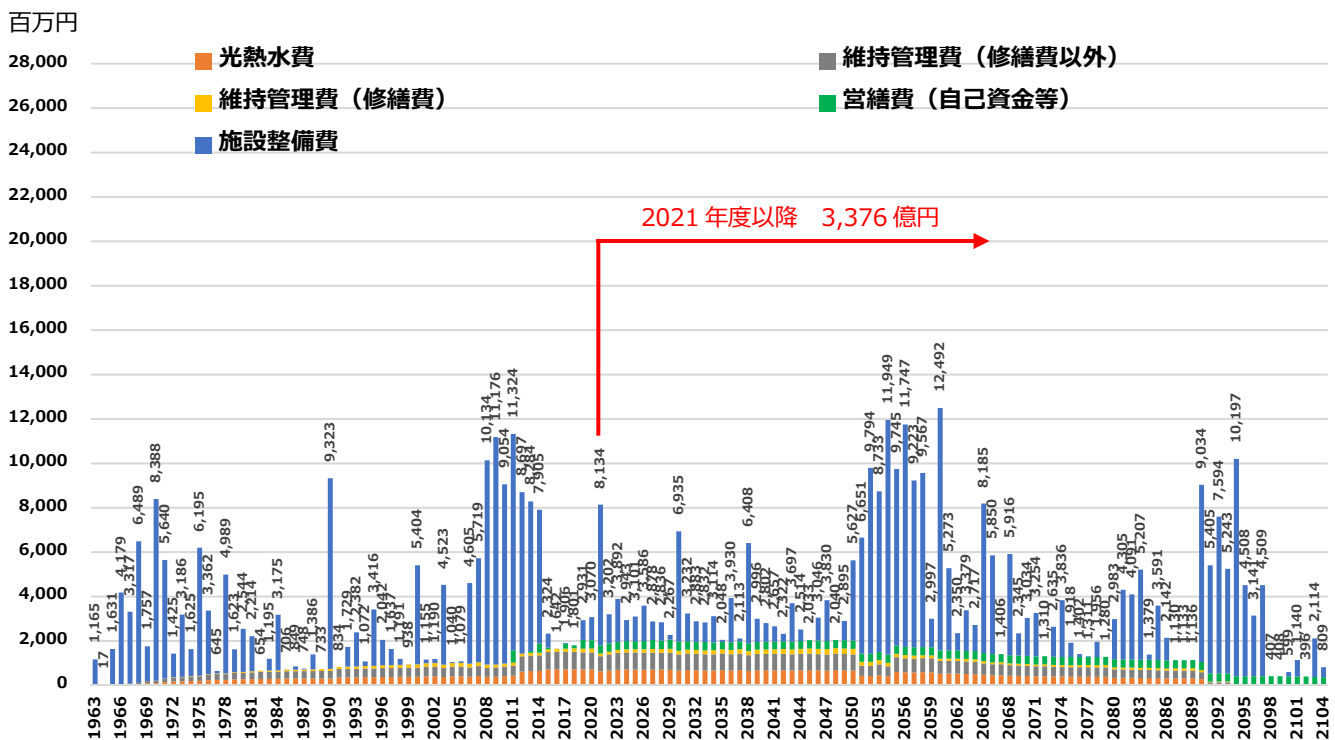
2-2-4 施設に関するライフサイクルコスト（LCC）の試算と支出の抑制

本学施設に対する従来の整備手法（建設後 50 年程度と 100 年程度に改築）で施設整備費を試算すると、トータルコスト 6,103 億円と試算され、年平均コスト 61 億円が必要になる。

長寿命化改修，改築整備については，施設整備費補助金による予算措置を受けると仮定しても，建物内設備，インフラ，防水等について，計画的な維持管理を実施し，インフラの長寿命化を図っていくことが必要になっている。

支出を抑制するためには，従来の整備手法からインフラ長寿命化にシフトすることが必要であり，施設整備費は 6,103 億円から 4,020 億円（▲2,083 億円）に縮減できると試算している。

インフラ長寿命化の LCC を試算すると，トータルコスト 5,370 億円（施設整備費 3,687 億円，営繕費 333 億円，施設運営費 1,350 億円）であり，2021 年度以降のトータルコストは 3,376 億円（施設整備費 2,178 億円，営繕費 310 億円，施設運営費 888 億円）と試算され，年平均コスト 40 億円（施設整備費 26 億円，営繕費 4 億円，施設運営費 10 億円）が必要になる。

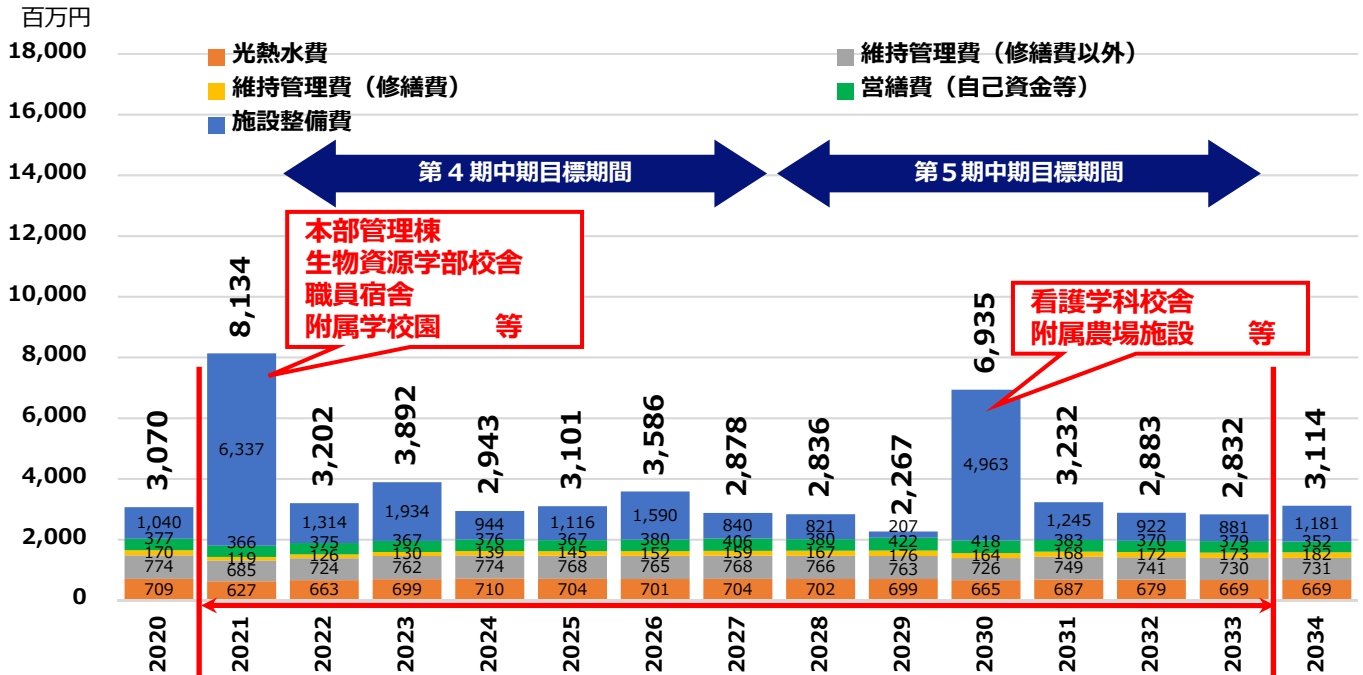


図表_2-2⑪ 本学施設の LCC 試算

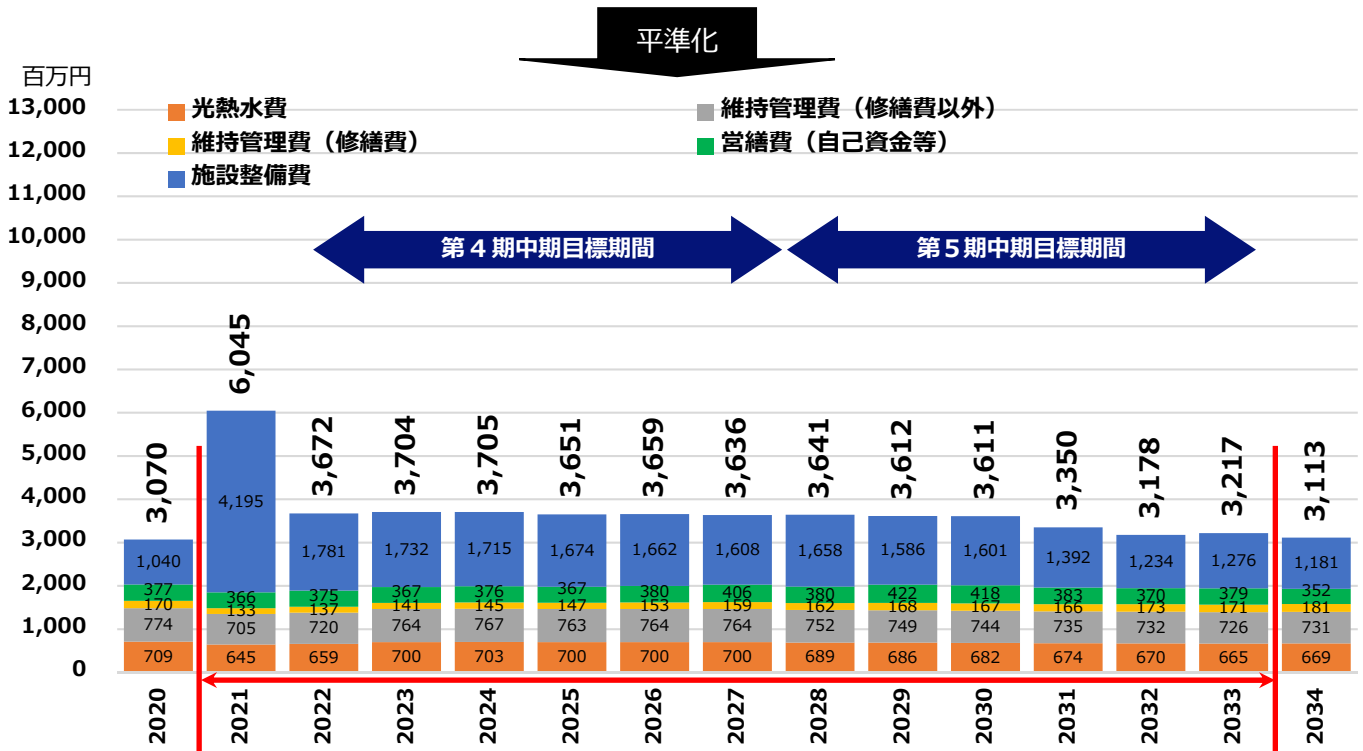
2-2-5 施設の集約化とライフサイクルコスト（LCC）の平準化

本学の長寿命化対策に合わせて、施設の集約化を同時に実施することで維持管理費の抑制と施設の良い環境を創造することにつながる。

第3期中期目標期間の最終年度である2021年度～第5期中期目標期間最終年度の2033年度までの13年間のLCCを見ると、年最大約81億円、年最小約22億円と年度ごとにばらつきが生じている。このことから、支出の平準化を図ると、年平均コスト38億円（施設整備費18億円、営繕費4億円、施設運営費16億円）が必要になる。（図表_2-2②、③）



図表_2-2② 2020年度～2034年度のLCC



図表_2-2③ 2020年度～2034年度のLCC

2-2-6 キャンパスアクションプラン（営繕）の試算（自己資金）

本学施設に関するアクションプランを試算すると、トータルコスト 93.6 億円であり、年々老朽化が進行することから 25 年程度で改善することを目標にすると年平均コスト約 4 億円が必要となる。

本学に交付される運営費交付金は、法人化された平成 16 年度以降減少傾向にあり、キャンパスアクションプラン（営繕）は自己資金で実施していかなければならないため、優先順位と支出の平準化により計画的な改善整備を図っていくことが必要となっている。

◆三重大学キャンパスアクションプラン 2021

安全衛生管理対策	第 1 優先事項
自動火災報知設備改修	
昇降機設備改修	
衛生設備改修	
防火シャッター改修	
その他	
省エネルギー対策	第 2 優先事項
空調設備改修	
照明設備等改修	
施設維持管理対策	第 3 優先事項
防水改修	
外壁改修	
各種施設維持管理	
課外活動施設	
その他	
キャンパス環境整備	第 4 優先事項
教育機能の発展	
キャンパス環境の充実	
構内駐輪場整備	
総合計	

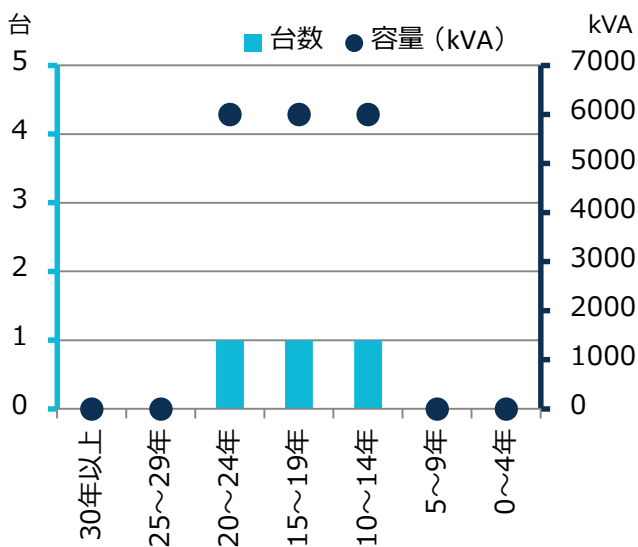
2-2-7 基幹設備の長寿命化計画

基幹設備については、15年を経過した機器類が2020年5月現在で全体の4割程度存在しており、教育研究診療機能の維持に多大なる影響を及ぼす恐れがあることから、2033年度までの13年以内で集中的に整備していくこととし、高効率化・高耐久性材質・工法の採用による長寿命化と事業継続計画（BCP）対策を図る。

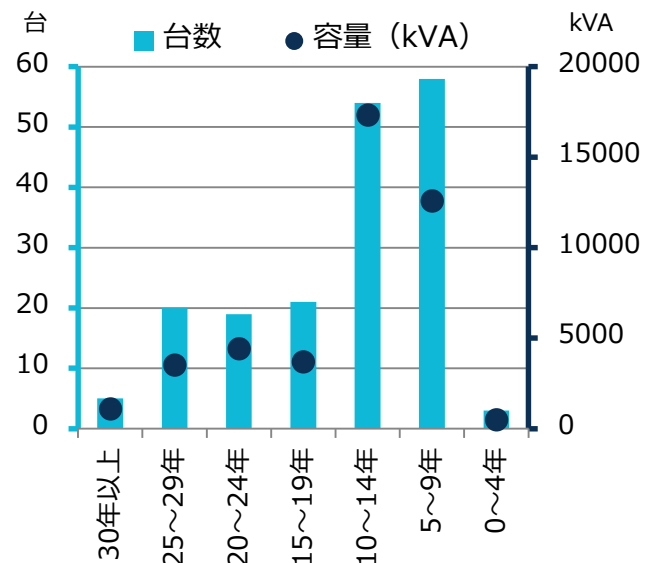
<基幹設備の長寿命化計画（2020年5月現在）>

設備種	老朽化台数 (15年以上経過)	老朽化率	概算整備費用	整備期間
特別高圧受変電設備	2台	66.6%		2021年度～2033年度
高圧受変電設備	65台	36.1%		2021年度～2033年度
自家発電設備	3台	27.3%		2021年度～2033年度
中央監視制御設備	3台	60.0%		2021年度～2033年度
受水槽設備	19台	32.8%		2021年度～2033年度
排水処理施設 ※	—	—		—
冷房熱源設備（冷凍機等）	6台	40.0%		2021年度～2033年度
暖房熱源設備（ボイラ等）	1台	9.1%		2021年度～2033年度
計	99台	38.8% (平均値)		

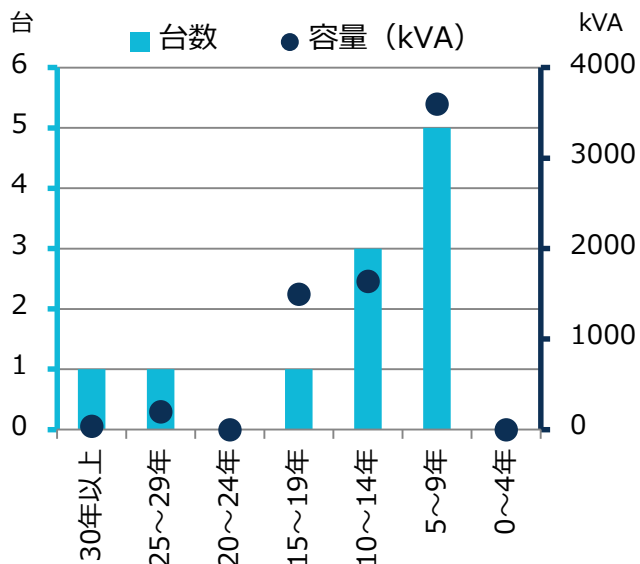
※ R3から順次 公共下水供用開始のため算出していない



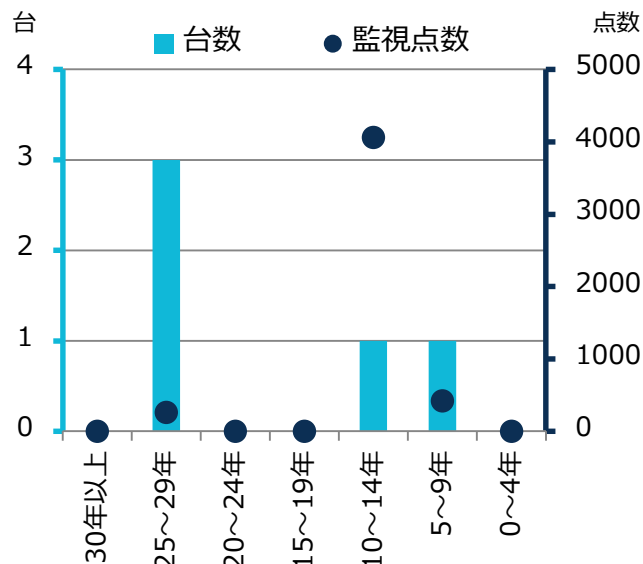
図表_2-2⑭ 特別高圧受変電設備



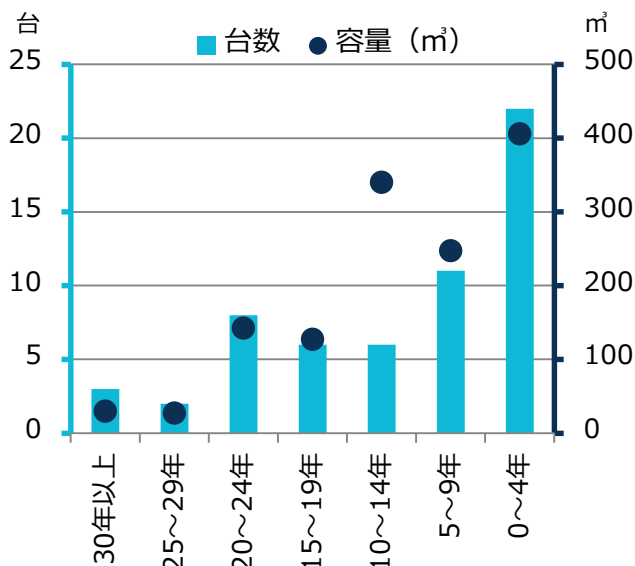
図表_2-2⑮ 高圧受変電設備



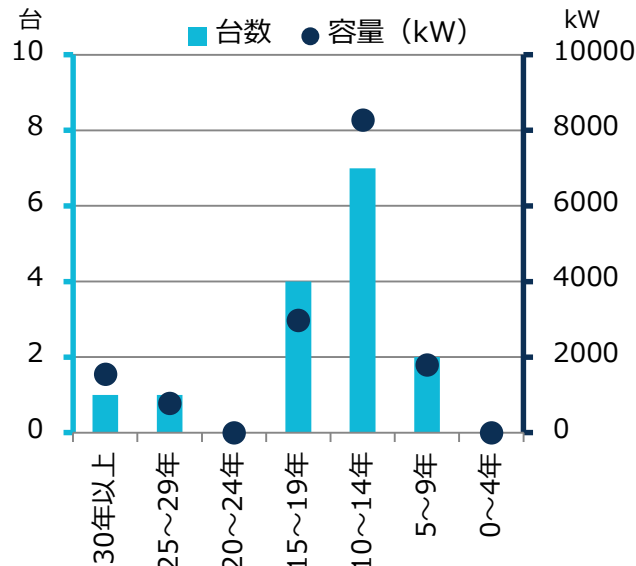
図表_2-2⑯ 自家発電設備



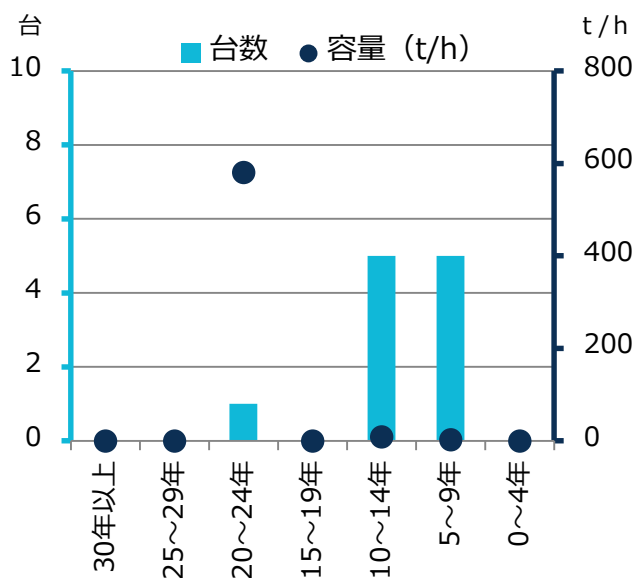
図表_2-2⑰ 中央監視制御設備



図表_2-2⑱ 受水槽設備



図表_2-2⑲ 冷房熱源設備 (冷凍機等)



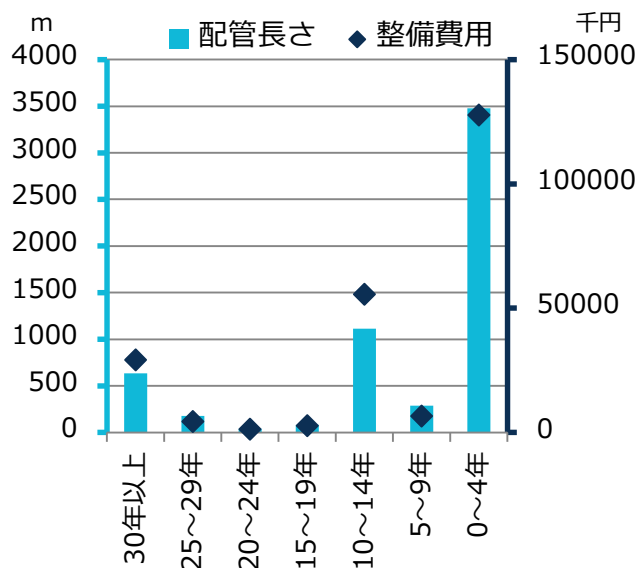
図表_2-2⑳ 冷房熱源設備 (ボイラ等)

2-2-8 ライフラインの長寿命化計画

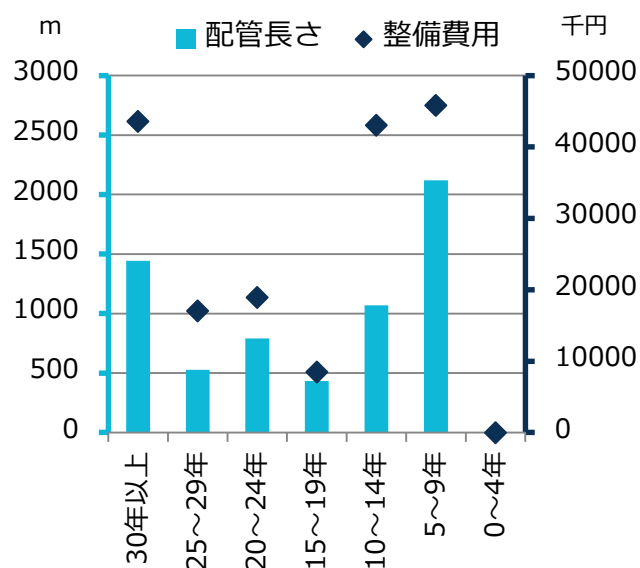
ライフラインについては、25年を経過した配管類が2020年5月現在で全体の3割程度存在しており、教育研究診療機能の維持に多大なる影響を及ぼす恐れがあることから、2027年度までの7年以内で集中的に整備していくこととし、高耐久性材質・工法を採用による長寿命化と事業継続計画（BCP）対策を図る。

<ライフラインの長寿命化計画（2020年5月現在）>

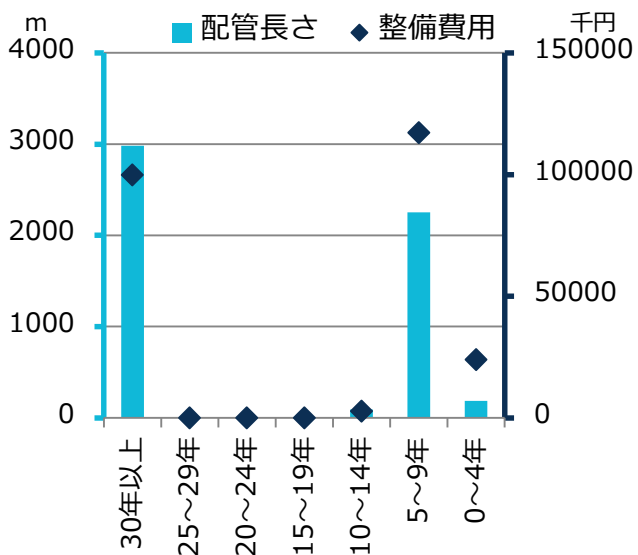
設備種	老朽配管・配線長さ (25年以上経過)	老朽化率	概算整備費用	整備期間
屋外給水管	812m	14.0%		2017年度～2019年度
屋外ガス管	1,971m	30.9%		2021年度～2027年度
屋外排水管	2,982m	54.1%		2021年度～2027年度
屋外冷温水管	—	—		—
屋外電力線	8,496m	23.0%		2021年度～2027年度
屋外通信線	8,290m	20.9%		2021年度～2027年度
計	22,551m	28.6% (平均値)		



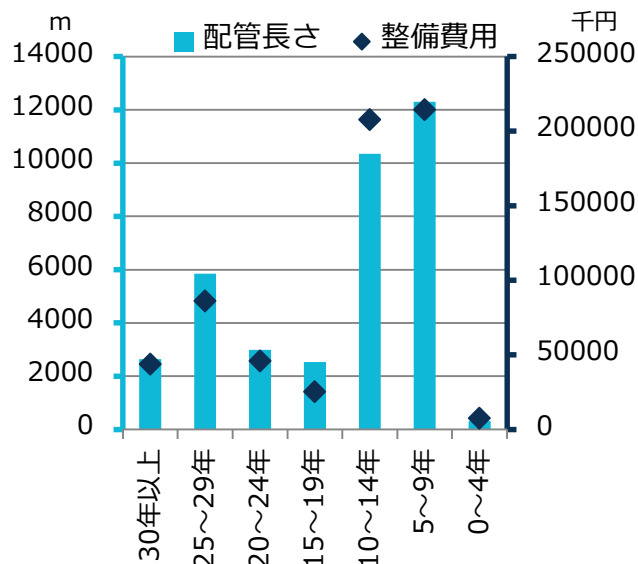
図表_2-2① 屋外給水管



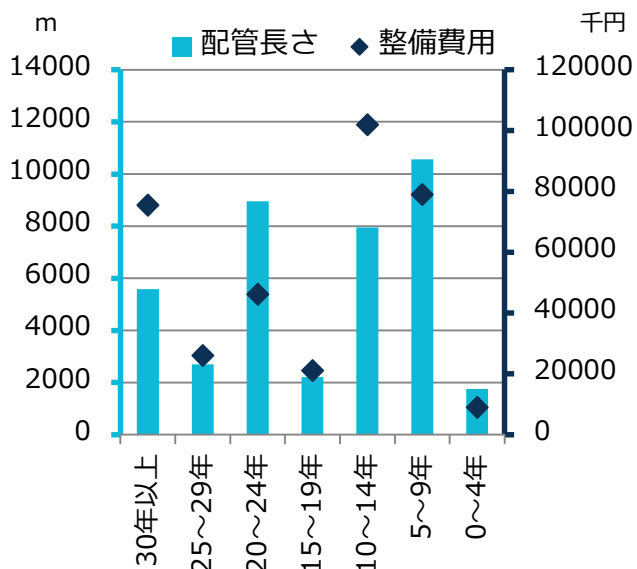
図表_2-2② 屋外ガス管



図表_2-2③ 屋外排水管



図表_2-2④ 屋外電力線



図表_2-2⑤ 屋外通信線

2-2-9 宿舍施設の長寿命化計画

宿舍施設については、職員宿舍9棟約1万m²を所有し、経年40年を超えている。今後8年間ですべての職員宿舍が耐用年数である47年を迎える。このことから、全棟にわたり老朽化が進み、入居率が年々低下しているため、長寿命化計画を策定し再整備を進める。

職員宿舍を再整備する財源は、学内予算の措置が困難であるため、大規模な事業を実施することができない状況にあり、民間資金等を活用したPPP手法による再整備を検討する。なお、洗見宿舍及び美杉宿舍は処分することとする。

◆ 宿舍施設長寿命化計画（2020.5.1現在）

宿 舎 名 称	構 造	階数	建築年	経年	建物延べ床面積	戸数	将来計画
観音寺宿舍B棟	鉄筋コンクリート造	5	1971	48	1,240m ²	20	処分
観音寺宿舍C棟	鉄筋コンクリート造	5	1971	48	1,055m ²	20	
江戸橋1丁目宿舍B棟・C棟	鉄筋コンクリート造	4	1975	44	892m ²	16	用途変更
美杉宿舍	木造	1	1961	59	43m ²	1	2020.6 売却
鳥居住宅1号棟	鉄筋コンクリート造	5	1972	47	1,238m ²	20	集約化
鳥居住宅2号棟	鉄筋コンクリート造	5	1973	46	1,238m ²	20	
鳥居住宅3号棟	鉄筋コンクリート造	5	1975	44	1,353m ²	20	
鳥居住宅4号棟	鉄筋コンクリート造	5	1976	43	1,353m ²	20	
鳥居住宅5号棟	鉄筋コンクリート造	5	1978	41	1,353m ²	20	
計					9,765m ²	157	

3. 個別施設計画（毎年度見直し）

3-1 施設の長寿命化・改築・修繕計画

〔 黄色は 500m²以上で経年 25 年以上の要改修施設／紫色は工事中・令和 3 年度工事予定の施設
 青色は 500m²以下で経年 25 年以上の要改修施設／薄青色は 500m²以下の小規模施設 〕

棟番号	棟名称	建築年	構造	地上階	施設区分名称	棟計	経年	次期計画
上浜-1	車庫	1973	S	1	大学管理施設	98 m ²	47	修繕→改築
上浜-2	倉庫	1969	R	1	大学管理施設	57 m ²	51	修繕→集約
上浜-3	本部管理棟	1973	R	5	大学管理施設	3093 m ²	47	改築
上浜-5	インフォメーションセンター	1974	R	1	大学管理施設	48 m ²	46	修繕→改築
上浜-15	教育学部校舎一号館	1968	R	4	大学教育・研究施設	9112 m ²	52	長寿命化→改築
上浜-16	校舎別棟	1955	R	2	大学教育・研究施設	228 m ²	65	長寿命化→集約 1/5 棟
上浜-17	薬品庫	1972	B	1	大学教育・研究施設	7 m ²	48	修繕→改築
上浜-18	薬品庫	1968	B	1	大学教育・研究施設	12 m ²	52	修繕→改築
上浜-19	技術棟	1968	R	2	大学教育・研究施設	1174 m ²	52	長寿命化→集約 21/2 棟
上浜-21	音楽棟	1968	R	2	大学教育・研究施設	1136 m ²	52	長寿命化→改築
上浜-22	窯場	1972	B	1	大学教育・研究施設	20 m ²	48	修繕→改築
上浜-23	美術棟	1972	R	3	大学教育・研究施設	761 m ²	48	長寿命化→集約 21/2 棟
上浜-27	教職支援センター	1967	R	2	大学教育・研究施設	1741 m ²	53	長寿命化→改築
上浜-29	情報教育棟	1974	S	2	大学教育・研究施設	196 m ²	46	集約 1/5 棟
上浜-31	教養教育 120 番教室	1967	R	1	大学教育・研究施設	245 m ²	53	長寿命化→集約 22/2 棟
上浜-32	教養教育校舎 1 号館	1967	R	4	大学教育・研究施設	4896 m ²	53	長寿命化→集約 22/2 棟
上浜-33	教養教育 190 番教室	1971	R	1	大学教育・研究施設	232 m ²	49	長寿命化→集約 20/3 棟
上浜-34	教養教育校舎 2 号館	1971	R	5	大学教育・研究施設	2489 m ²	49	長寿命化→集約 20/3 棟
上浜-35	第一体育館	1967	RS	2	大学体育施設	1853 m ²	53	長寿命化→改築
上浜-36	教養教育校舎 3 号館	1973	R	3	大学教育・研究施設	1893 m ²	47	長寿命化→改築
上浜-37	第一食堂	1970	R	2	大学支援施設	1254 m ²	50	長寿命化→集約 2/2 棟
上浜-38	プロパン庫・食品庫	1970	B	1	大学支援施設	25 m ²	50	長寿命化→集約 2/2 棟
上浜-41	総合研究棟Ⅱ A 棟	1966	R	4	大学教育・研究施設	4392 m ²	54	長寿命化→集約 3/5 棟
上浜-42	渡り廊下	1966	R	1	大学設備室等	12 m ²	54	長寿命化→集約 3/5 棟
上浜-43	総合研究棟Ⅱ D 棟	1966	R	1	大学教育・研究施設	248 m ²	54	長寿命化→集約 3/5 棟
上浜-44	渡り廊下	1966	R	1	大学設備室等	12 m ²	54	長寿命化→集約 3/5 棟
上浜-45	渡り廊下	1966	R	2	大学設備室等	26 m ²	54	長寿命化→改築
上浜-46	総合研究棟Ⅱ B 棟	1965	R	4	大学教育・研究施設	3837 m ²	55	長寿命化→集約 4/3 棟
上浜-47	渡り廊下	1965	R	2	大学設備室等	50 m ²	55	長寿命化→集約 4/3 棟
上浜-48	総合研究棟Ⅱ C 棟	1965	R	2	大学教育・研究施設	680 m ²	55	長寿命化→集約 4/3 棟
上浜-50	薬品庫	1965	B	1	大学教育・研究施設	33 m ²	55	長寿命化→改築
上浜-51	三翠会館	1936	W	2	大学支援施設	501 m ²	84	修繕→長寿命化(保存)
上浜-55	水理実験室	1966	R	1	大学教育・研究施設	375 m ²	54	集約 5/7 棟
上浜-56	材料実験室	1966	R	1	大学教育・研究施設	329 m ²	54	集約 5/7 棟
上浜-57	病理昆虫実験硝子室	1971	S	1	大学教育・研究施設	137 m ²	49	修繕→集約
上浜-58	果樹学実験研究硝子室	1973	S	1	大学教育・研究施設	158 m ²	47	修繕→集約
上浜-59	園芸実習実験硝子室	1968	S	1	大学教育・研究施設	158 m ²	52	修繕→集約
上浜-63	生理生態実験室	1969	R	2	大学教育・研究施設	621 m ²	51	集約 5/7 棟
上浜-65	ポイラー室	1969	B	1	大学設備室等	20 m ²	51	修繕→集約 5/7 棟
上浜-66	機械実験室	1967	R	1	大学教育・研究施設	386 m ²	53	集約 5/7 棟
上浜-67	森林育成学実験硝子室	1972	S	1	大学教育・研究施設	160 m ²	48	修繕→集約
上浜-69	共同実験室 (A 棟)	1971	RS	1	大学教育・研究施設	363 m ²	49	集約 6/3 棟
上浜-70	共同実験室 (C 棟)	1971	RS	1	大学教育・研究施設	480 m ²	49	長寿命化→集約 6/3 棟
上浜-71	共同実験室 (B 棟)	1971	R	2	大学教育・研究施設	546 m ²	49	集約 6/3 棟
上浜-72	育種・遺伝資源学温室	1969	S	1	大学教育・研究施設	158 m ²	51	修繕→集約
上浜-73	有機廃液焼却室	1967	R	1	大学教育・研究施設	8 m ²	53	解体
上浜-74	R I (生資) 実験施設	1967	R	1	大学教育・研究施設	193 m ²	53	解体
上浜-75	共同実験室 (D 棟)	1971	S	1	大学教育・研究施設	217 m ²	49	集約 7/2 棟
上浜-81	農業生産技術学硝子室	1965	S	1	大学教育・研究施設	168 m ²	55	修繕→集約
上浜-82	ポンプ室	1973	B	1	大学設備室等	7 m ²	47	修繕→改築
上浜-84	射場	1930	W	1	大学体育施設	93 m ²	90	修繕→改築
上浜-87	自動車車庫	1975	S	1	大学支援施設	101 m ²	45	修繕→改築
上浜-88	プール管理室	1969	B	1	大学体育施設	78 m ²	51	集約 8/3 棟
上浜-89	課外活動用シャワー室	1974	B	1	大学体育施設	20 m ²	46	集約 8/3 棟
上浜-90	プール機械室	1969	B	1	大学体育施設	5 m ²	51	集約 8/3 棟
上浜-91	倉庫	1971	W	1	大学体育施設	211 m ²	49	集約 9/7 棟
上浜-92	合宿所	1975	S	1	大学支援施設	199 m ²	45	集約 9/7 棟
上浜-93	便所	1969	B	1	大学体育施設	43 m ²	51	集約 9/7 棟
上浜-94	総合運動場管理室	1968	B	1	大学体育施設	120 m ²	52	集約 9/7 棟
上浜-95	厩舎	1971	S	1	大学支援施設	160 m ²	49	修繕→改築
上浜-96	便所	1969	B	1	大学体育施設	34 m ²	51	修繕→改築
上浜-98	L 5 棟	1970	S	1	大学教育・研究施設	224 m ²	50	集約 10/6 棟

棟番号	棟名称	建築年	構造	地上階	施設区分名称	棟計	経年	次期計画
上浜-99	便所	1963	B	1	大学教育・研究施設	2㎡	57	集約7/2棟
上浜-100	附属図書館	1978	R	3	大学図書館	8276㎡	42	長寿命化→改築
上浜-101	管理棟	1970	R	2	大学教育・研究施設	636㎡	50	集約11/2棟
上浜-102	倉庫	1972	S	1	大学教育・研究施設	15㎡	48	集約10/6棟
上浜-103	L1棟	1970	S	1	大学教育・研究施設	271㎡	50	集約10/6棟
上浜-104	L3棟	1970	S	1	大学教育・研究施設	271㎡	50	集約10/6棟
上浜-105	3号館	1971	R	4	大学教育・研究施設	3954㎡	49	長寿命化→改築
上浜-106	講義棟(B)	1971	R	1	大学教育・研究施設	446㎡	49	長寿命化→集約12/3棟
上浜-107	薬品庫	1972	B	1	大学教育・研究施設	36㎡	48	修繕→改築
上浜-108	2号館	1970	R	4	大学教育・研究施設	3723㎡	50	長寿命化→改築
上浜-109	講義棟(A)	1970	R	2	大学教育・研究施設	482㎡	50	長寿命化→集約12/3棟
上浜-110	1号館	1970	R	4	大学教育・研究施設	3672㎡	50	長寿命化→改築
上浜-112	看護師宿舎	1975	R	4	附属病院	1323㎡	45	長寿命化→改築
上浜-113	国際女子学生寄宿舎	1973	R	4	大学宿泊施設	2112㎡	47	長寿命化→改築
上浜-119	総合医学教育棟	1973	R	2	大学教育・研究施設	2130㎡	47	長寿命化→改築
上浜-120	渡り廊下	1975	R	2	大学設備室等	27㎡	45	長寿命化→改築
上浜-121	病態医科学研究棟	1975	SR	9	大学教育・研究施設	9804㎡	45	長寿命化→改築
上浜-122	渡り廊下	1975	R	2	大学設備室等	31㎡	45	長寿命化→改築
上浜-123	探索医学研究棟	1974	R	3	大学教育・研究施設	3229㎡	46	長寿命化→改築
上浜-124	渡り廊下	1975	R	2	大学設備室等	20㎡	45	長寿命化→改築
上浜-125	車庫	1970	S	1	大学教育・研究施設	45㎡	50	修繕→改築
上浜-126	多用途棟	1970	S	1	大学教育・研究施設	288㎡	50	修繕→改築
上浜-127	危険物倉庫	1970	B	1	大学教育・研究施設	9㎡	50	修繕→改築
上浜-128	先端医科学教育研究棟	1970	R	5	大学教育・研究施設	9139㎡	50	長寿命化→改築
上浜-129	ボイラー棟	1970	S	1	大学設備室等	165㎡	50	長寿命化→改築
上浜-130	ポンプ室	1970	B	1	大学設備室等	35㎡	50	長寿命化→改築
上浜-132	乾燥室	1975	B	1	大学教育・研究施設	41㎡	45	長寿命化→改築
上浜-133	R I (医) 実験施設	1970	R	1	大学教育・研究施設	745㎡	50	長寿命化→改築
上浜-134	医学系サークル棟	1971	S	1	大学体育施設	389㎡	49	修繕→集約19/2棟
上浜-135	製造実験工場	1971	RS	1	大学教育・研究施設	761㎡	49	長寿命化→集約5/7棟
上浜-138	第二体育館	1971	S	2	大学体育施設	1445㎡	49	改築
上浜-139	車庫	1968	S	1	大学教育・研究施設	30㎡	52	修繕→集約13/3棟
上浜-140	レーモンドホール	1971	W	1	大学教育・研究施設	279㎡	49	修繕→長寿命化(保存)
上浜-141	課外倉庫2	1968	B	1	大学支援施設	9㎡	52	修繕→集約13/3棟
上浜-142	ポンプ室	1968	R	1	大学設備室等	16㎡	52	修繕→集約14/2棟
上浜-143	課外倉庫1	1968	B	1	大学支援施設	45㎡	52	修繕→集約13/3棟
上浜-145	総合研究棟I	1968	R	4	大学教育・研究施設	7674㎡	52	長寿命化→集約14/2棟
上浜-146	射場	1973	S	1	大学体育施設	90㎡	47	修繕→改築
上浜-150	L2棟	1976	R	1	大学教育・研究施設	300㎡	44	集約10/6棟
上浜-151	L4棟	1976	R	1	大学教育・研究施設	200㎡	44	集約10/6棟
上浜-152	文化系サークル共用棟	1976	S	1	大学支援施設	352㎡	44	集約9/7棟
上浜-153	第二食堂	1976	R	1	大学支援施設	997㎡	44	長寿命化→改築
上浜-154	動物実験施設	1976	R	3	大学教育・研究施設	4401㎡	44	修繕→集約27/2棟
上浜-156	土壌肥料研究硝子室	1976	S	1	大学教育・研究施設	158㎡	44	修繕→集約
上浜-157	実習室	1977	S	1	大学教育・研究施設	189㎡	43	集約1/5棟
上浜-158	体育系サークル共用棟	1977	S	1	大学支援施設	174㎡	43	集約9/7棟
上浜-162	翠陵会館	1978	R	3	大学支援施設	1763㎡	42	長寿命化→改築
上浜-163	第二体育練習場	1978	S	1	大学支援施設	153㎡	42	集約1/5棟
上浜-164	総合情報処理センター	1979	R	2	大学教育・研究施設	831㎡	41	長寿命化→改築
上浜-165	特別高圧変電室	1979	R	2	大学設備室等	478㎡	41	修繕→改築
上浜-166	翠明荘	1979	R	2	大学支援施設	308㎡	41	長寿命化→解体
上浜-167	環境保全分析施設	1979	S	1	大学管理施設	344㎡	41	集約15/4棟
上浜-168	講義棟(C)	1979	R	2	大学教育・研究施設	569㎡	41	長寿命化→集約12/3棟
上浜-169	共通棟	1979	R	1	大学教育・研究施設	99㎡	41	長寿命化→集約11/2棟
上浜-170	教育学部校舎二号館	1980	R	5	大学教育・研究施設	2486㎡	40	長寿命化→改築
上浜-171	女子学生寄宿舎	1980	R	3	大学宿泊施設	1160㎡	40	長寿命化→集約16/2棟
上浜-172	共同棟	1980	R	1	大学宿泊施設	85㎡	40	長寿命化→集約16/2棟
上浜-173	車庫	1980	S	1	大学管理施設	55㎡	40	修繕→改築
上浜-174	臨床講義室	1980	RS	2	大学教育・研究施設	621㎡	40	長寿命化→改築
上浜-175	生活排水処理施設	1980	R	1	大学管理施設	152㎡	40	集約15/4棟
上浜-176	生活排水処理施設	1980	S	1	大学管理施設	94㎡	40	集約15/4棟
上浜-177	外国人教師等宿泊施設	1980	R	1	大学宿泊施設	115㎡	40	長寿命化→集約17/2棟
上浜-178	外国人教師等宿泊施設	1980	R	2	大学宿泊施設	308㎡	40	長寿命化→集約17/2棟
上浜-179	数理・データサイエンス館	1980	R	3	大学教育・研究施設	579㎡	40	長寿命化→改築
上浜-180	変電室	1980	R	1	大学設備室等	60㎡	40	修繕→集約1/5棟
上浜-181	8号館	1981	R	3	大学教育・研究施設	654㎡	39	長寿命化×2→集約18/2棟
上浜-182	4号館	1981	R	4	大学教育・研究施設	3397㎡	39	長寿命化→改築

棟番号	棟名称	建築年	構造	地上階	施設区分名称	棟計	経年	次期計画
上浜-198	倉庫	1973	S	1	大学教育・研究施設	16 m	47	修繕→改築
上浜-206	器具庫	1973	S	1	大学体育施設	49 m	47	修繕→集約 19/2 棟
上浜-207	倉庫	1974	S	1	大学支援施設	36 m	46	修繕→改築
上浜-211	R I (医) 実験施設	1983	R	1	大学教育・研究施設	404 m	37	長寿命化→改築
上浜-212	車庫	1983	S	1	大学管理施設	87 m	37	修繕→改築
上浜-213	課外活動等共用施設	1983	R	2	大学支援施設	480 m	37	長寿命化→改築
上浜-214	教養教育校舎 4 号館	1984	R	5	大学教育・研究施設	2192 m	36	長寿命化→改築
上浜-215	人工気象装置室	1984	R	1	大学教育・研究施設	151 m	36	修繕→改築
上浜-216	定型業務等運営・支援センター	1984	R	1	大学管理施設	82 m	36	修繕→改築
上浜-217	人文学部校舎	1984	R	5	大学教育・研究施設	5314 m	36	長寿命化→改築
上浜-218	ポンプ室	1985	B	1	大学設備室等	15 m	35	修繕→集約 20/3 棟
上浜-219	変電室	1986	R	1	大学設備室等	80 m	34	長寿命化→集約 3/5 棟
上浜-220	作物学硝子温室	1987	S	1	大学教育・研究施設	123 m	33	修繕→集約
上浜-221	害虫隔離飼育室	1988	S	1	大学教育・研究施設	152 m	32	修繕→集約
上浜-222	留学生会館 (単身棟)	1988	R	3	大学宿泊施設	993 m	32	長寿命化→集約 24/2 棟
上浜-223	留学生会館 (夫婦棟)	1988	R	2	大学宿泊施設	228 m	32	長寿命化→集約 24/2 棟
上浜-224	屋内運動場	1988	R	1	大学体育施設	734 m	32	長寿命化 x 2→集約
上浜-226	生物資源学部校舎	1990	SR	7	大学教育・研究施設	24780 m	30	長寿命化 x 2→改築
上浜-228	5 号館	1992	R	5	大学教育・研究施設	2263 m	28	長寿命化 x 2→改築
上浜-229	地域イノベーション研究開発拠点 A 棟・B 棟	1993	R	3	大学教育・研究施設	3677 m	27	長寿命化 x 2→改築
上浜-230	三翠ホール	1995	SR	2	大学管理施設	4084 m	25	長寿命化 x 2→改築
上浜-231	オープンイノベーション施設	1995	R	3	大学教育・研究施設	1210 m	25	長寿命化 x 2→改築
上浜-232	電気室	1994	S	1	大学設備室等	26 m	26	集約 9/7 棟
上浜-233	高圧ガス貯蔵庫	1993	B	1	大学教育・研究施設	10 m	27	修繕→改築
上浜-234	飼育棟	1995	S	1	大学教育・研究施設	300 m	25	長寿命化→集約 23/3 棟
上浜-235	飼育管理棟	1995	S	1	大学教育・研究施設	78 m	25	長寿命化→集約 23/3 棟
上浜-236	回流水槽棟	1995	S	1	大学教育・研究施設	70 m	25	長寿命化→集約 23/3 棟
上浜-237	高圧ガス貯蔵所	1995	B	1	大学教育・研究施設	10 m	25	修繕→改築
上浜-238	7 号館	1996	R	5	大学教育・研究施設	2782 m	24	長寿命化 x 2→改築
上浜-239	油圧源庫	1996	B	1	大学教育・研究施設	18 m	24	修繕→改築
上浜-240	講義棟 (E)	1996	R	2	大学教育・研究施設	488 m	24	長寿命化 x 2→集約 25/2 棟
上浜-241	講義棟 (D)	1992	R	2	大学教育・研究施設	334 m	28	長寿命化 x 2→集約 25/2 棟
上浜-243	6 号館	2000	SR	6	大学教育・研究施設	4227 m	20	長寿命化 x 2→改築
上浜-244	看護学科棟	2000	SR	6	大学教育・研究施設	7056 m	20	長寿命化 x 2→改築
上浜-245	渡り廊下	2000	S	1	大学設備室等	108 m	20	長寿命化 x 2→改築
上浜-246	事業系一般廃棄物置場	1998	B	1	大学管理施設	28 m	22	修繕→集約 15/4 棟
上浜-247	卓越型研究施設	2000	R	4	大学教育・研究施設	1513 m	20	長寿命化 x 2→改築
上浜-249	特殊ガスボンベ庫	2003	R	1	大学教育・研究施設	16 m	17	修繕→改築
上浜-250	ボンベ庫	2003	R	1	大学教育・研究施設	14 m	17	修繕→改築
上浜-251	車庫	2002	S	1	大学管理施設	31 m	18	修繕→改築
上浜-252	書籍倉庫	2002	S	1	大学管理施設	74 m	18	修繕→集約
上浜-253	実験室	2002	S	1	大学教育・研究施設	27 m	18	修繕→集約 5/7 棟
上浜-254	計測機器室	2003	S	1	大学教育・研究施設	15 m	17	修繕→改築
上浜-255	倉庫	2002	S	1	大学管理施設	24 m	18	修繕→集約
上浜-256	防災備蓄倉庫	2002	S	1	大学管理施設	15 m	18	修繕→集約
上浜-257	倉庫	2003	S	1	大学教育・研究施設	15 m	17	修繕→集約
上浜-258	倉庫	2003	S	1	大学教育・研究施設	15 m	17	修繕→集約
上浜-259	倉庫	2003	S	1	大学教育・研究施設	15 m	17	修繕→集約
上浜-260	倉庫	2003	S	1	大学教育・研究施設	15 m	17	修繕→集約
上浜-261	倉庫	2003	S	1	大学教育・研究施設	15 m	17	修繕→集約
上浜-262	倉庫	2003	S	1	大学教育・研究施設	15 m	17	修繕→集約
上浜-263	倉庫	2003	S	1	大学教育・研究施設	15 m	17	修繕→集約
上浜-264	医療技術棟	2003	S	1	大学教育・研究施設	157 m	17	長寿命化→集約 14/3 棟
上浜-265	植物バイオ温室	2005	S	1	大学教育・研究施設	123 m	15	修繕→集約
上浜-266	倉庫	2006	S	1	大学管理施設	15 m	14	修繕→集約
上浜-267	倉庫	2006	S	1	大学管理施設	15 m	14	修繕→集約
上浜-268	倉庫	2006	S	1	大学管理施設	15 m	14	修繕→集約
上浜-269	倉庫	2006	S	1	大学管理施設	19 m	14	修繕→集約
上浜-270	倉庫	2006	S	1	大学管理施設	15 m	14	修繕→集約
上浜-271	倉庫	2006	S	1	大学管理施設	15 m	14	修繕→集約
上浜-272	倉庫	2006	S	1	大学管理施設	15 m	14	修繕→集約
上浜-273	立体駐車場	2006	S	1	大学管理施設	2658 m	14	修繕→改築
上浜-274	車庫	2006	S	1	大学管理施設	57 m	14	修繕→改築
上浜-275	立体駐車場	2006	S	2	大学管理施設	4404 m	14	修繕→改築
上浜-276	ボンベ庫	2008	B	1	大学教育・研究施設	34 m	12	修繕→改築
上浜-277	病棟・診療棟	2011	SR	12	附属病院	40650 m	9	修繕→集約 26/3 棟
上浜-278	外国人留学生寄宿舎 A 棟	2009	S	2	大学宿泊施設	762 m	11	長寿命化→改築

棟番号	棟名称	建築年	構造	地上階	施設区分名称	棟計	経年	次期計画
上浜-279	外国人留学生寄宿舎B棟	2009	S	2	大学宿泊施設	762㎡	11	長寿命化→改築
上浜-280	エネルギーセンター	2010	R	3	大学設備室等	2481㎡	10	修繕→改築
上浜-281	臨床研究開発センター棟	2009	S	2	附属病院	224㎡	11	修繕→集約26/3棟
上浜-282	さつき保育園	2010	W	2	大学管理施設	585㎡	10	長寿命化→改築
上浜-283	RO装置用倉庫	2010	R	1	大学設備室等	13㎡	10	修繕→改築
上浜-284	塩素用倉庫	2010	S	1	大学設備室等	13㎡	10	修繕→改築
上浜-285	駐輪場	2011	S	1	大学管理施設	31㎡	9	修繕→改築
上浜-286	管理施設	2011	S	2	附属病院	1296㎡	9	修繕→改築
上浜-287	環境・情報科学館	2011	R	3	大学教育・研究施設	2173㎡	9	長寿命化×2→改築
上浜-288	外来・診療棟	2014	R	5	附属病院	28361㎡	6	修繕→改築
上浜-289	地域イノベーション研究開発拠点C棟・D棟	2013	R	5	大学教育・研究施設	4764㎡	7	長寿命化×2→改築
上浜-290	発電機室(防潮壁)	2013	R	1	大学設備室等	50㎡	7	修繕→改築
上浜-291	発電機室(動物実験施設)	2013	R	1	大学設備室等	41㎡	7	修繕→集約27/2棟
上浜-292	第一体育練習場	2014	S	1	大学体育施設	154㎡	6	長寿命化→集約化28/2棟
上浜-293	温室	2010	S	1	大学教育・研究施設	15㎡	10	修繕→改築
上浜-294	ハーモニハウス	2014	W	1	大学支援施設	113㎡	6	長寿命化→改築
上浜-295	外国人留学生寄宿舎C棟	2015	S	2	大学宿泊施設	952㎡	5	長寿命化→改築
上浜-296	外国人留学生寄宿舎D棟	2015	S	2	大学宿泊施設	952㎡	5	長寿命化→改築
上浜-297	永井記念トレーニングルーム	2015	S	1	大学体育施設	106㎡	5	長寿命化→集約28/2棟
上浜-298	駐車場整理事務所	2017	S	1	附属病院	87㎡	3	修繕→集約26/3棟
高野尾-1	管理棟	1970	R	2	大学教育・研究施設	1236㎡	50	長寿命化→集約40/2棟
高野尾-2	穀物庫	1970	B	1	大学教育・研究施設	80㎡	50	修繕→集約41/5棟
高野尾-3	資材庫	1970	S	1	大学教育・研究施設	130㎡	50	修繕→集約41/5棟
高野尾-4	堆肥舎	1970	B	1	大学教育・研究施設	128㎡	50	修繕→改築
高野尾-5	育すう舎	1970	S	1	大学教育・研究施設	84㎡	50	修繕→改築
高野尾-6	ケージ鶏舎	1970	S	1	大学教育・研究施設	90㎡	50	修繕→改築
高野尾-7	平飼鶏舎	1970	S	1	大学教育・研究施設	72㎡	50	修繕→改築
高野尾-8	豚舎	1970	S	1	大学教育・研究施設	128㎡	50	修繕→改築
高野尾-9	羊舎	1970	S	1	大学教育・研究施設	66㎡	50	修繕→改築
高野尾-10	牛舎	1970	S	1	大学教育・研究施設	360㎡	50	修繕→改築
高野尾-11	礫耕温室	1970	S	1	大学教育・研究施設	260㎡	50	修繕→改築
高野尾-12	ミスト耕温室	1970	S	1	大学教育・研究施設	260㎡	50	修繕→改築
高野尾-13	土耕温室	1970	S	1	大学教育・研究施設	260㎡	50	修繕→改築
高野尾-14	鉢物花卉温室	1970	S	1	大学教育・研究施設	260㎡	50	修繕→改築
高野尾-15	ポイラー室	1970	S	1	大学設備室等	40㎡	50	修繕→改築
高野尾-16	荷造調査室	1970	S	1	大学教育・研究施設	63㎡	50	修繕→改築
高野尾-17	大農具室	1971	S	1	大学教育・研究施設	396㎡	49	修繕→集約42/3棟
高野尾-18	小農具室	1971	S	1	大学教育・研究施設	126㎡	49	修繕→集約42/3棟
高野尾-19	第1農産製造室	1971	S	1	大学教育・研究施設	498㎡	49	修繕→集約43/2棟
高野尾-20	第2農産製造室	1971	S	1	大学教育・研究施設	378㎡	49	修繕→集約43/2棟
高野尾-21	穀物乾燥調整室	1971	S	1	大学教育・研究施設	150㎡	49	修繕→集約41/5棟
高野尾-26	屋外便所	1970	R	1	大学設備室等	26㎡	50	修繕→改築
高野尾-27	加圧ポンプ室	1970	R	1	大学設備室等	26㎡	50	修繕→改築
高野尾-28	農具室	1971	S	1	大学教育・研究施設	75㎡	49	修繕→集約42/3棟
高野尾-29	果樹選果室	1972	S	1	大学教育・研究施設	149㎡	48	修繕→改築
高野尾-30	学生宿泊所	1972	R	2	大学宿泊施設	525㎡	48	長寿命化→集約40/2棟
高野尾-31	油庫	1972	B	1	大学教育・研究施設	20㎡	48	修繕→改築
高野尾-32	作業室兼機械室	1972	S	1	大学教育・研究施設	220㎡	48	修繕→集約41/5棟
高野尾-33	渡り廊下	1972	S	1	大学設備室等	9㎡	48	修繕→集約41/5棟
高野尾-34	園芸育苗温室	1971	S	1	大学教育・研究施設	90㎡	49	修繕→改築
高野尾-35	実験用硝子室	1971	S	1	大学教育・研究施設	140㎡	49	修繕→改築
高野尾-36	ブドウ温室	1971	S	1	大学教育・研究施設	122㎡	49	修繕→改築
高野尾-38	林産ミスト温室	1971	S	1	大学教育・研究施設	165㎡	49	修繕→改築
高野尾-39	畜産実験室	1972	S	1	大学教育・研究施設	119㎡	48	修繕→改築
高野尾-40	乾草室	1972	S	1	大学教育・研究施設	60㎡	48	修繕→改築
高野尾-41	トラクター車庫	1975	S	1	大学教育・研究施設	90㎡	45	修繕→集約44/4棟
高野尾-42	熱帯植物温室	1975	S	1	大学教育・研究施設	160㎡	45	修繕→改築
高野尾-43	機械室	1977	B	1	大学設備室等	6㎡	43	修繕→改築
高野尾-45	倉庫	1975	S	1	大学教育・研究施設	33㎡	45	修繕→改築
高野尾-46	倉庫	1976	S	1	大学教育・研究施設	16㎡	44	修繕→集約44/4棟
高野尾-47	倉庫	1976	S	1	大学教育・研究施設	21㎡	44	修繕→集約44/4棟
高野尾-48	倉庫	1976	S	1	大学教育・研究施設	70㎡	44	修繕→集約44/4棟
高野尾-49	便所	1999	B	1	大学教育・研究施設	10㎡	21	修繕→改築
高野尾-50	バイオマスガス発生装置棟	2002	S	1	大学教育・研究施設	162㎡	18	修繕→改築
高野尾-51	倉庫	2002	S	1	大学教育・研究施設	15㎡	18	修繕→改築
高野尾-52	倉庫	2004	S	1	大学教育・研究施設	15㎡	16	修繕→改築
高野尾-53	畜糞備蓄室	2005	S	1	大学教育・研究施設	199㎡	15	修繕→改築

棟番号	棟名称	建築年	構造	地上階	施設区分名称	棟計	経年	次期計画
美杉-8	育種育苗用硝子室	1967	S	1	大学教育・研究施設	19 m	53	修繕→改築
美杉-9	機械庫兼雨天作業室	1976	S	1	大学教育・研究施設	121 m	44	修繕→改築
美杉-10	管理棟学生宿泊施設	1978	R	2	大学教育・研究施設	1081 m	42	長寿命化→改築
美杉-11	車庫	1980	S	1	大学教育・研究施設	153 m	40	修繕→改築
美杉-12	危険物保管庫	1980	B	1	大学教育・研究施設	9 m	40	長寿命化→改築
観音寺-1	管理棟	1966	R	2	附属学校	1310 m	54	修繕→集約 50/4 棟
観音寺-2	昇降口	1966	R	1	附属学校	115 m	54	修繕→集約 50/4 棟
観音寺-3	校舎	1966	R	3	附属学校	2537 m	54	修繕→集約 50/4 棟
観音寺-4	工作室	1966	S	1	附属学校	360 m	54	修繕→集約 51/2 棟
観音寺-6	給食棟	1963	R	1	附属学校	188 m	57	修繕→集約 52/5 棟
観音寺-7	実習生控室	1971	S	1	附属学校	60 m	49	長寿命化→集約 52/5 棟
観音寺-8	昇降口	1963	R	1	附属学校	67 m	57	修繕→集約 52/5 棟
観音寺-9	管理棟	1963	R	1	附属学校	536 m	57	修繕→集約 52/5 棟
観音寺-10	校舎	1963	R	3	附属学校	2876 m	57	修繕→集約 52/5 棟
観音寺-14	プール機械室	1971	S	1	附属学校	16 m	49	修繕→集約 53/3 棟
観音寺-15	プール便所	1971	B	1	附属学校	14 m	49	修繕→集約 53/3 棟
観音寺-16	プール更衣室	1971	B	1	附属学校	76 m	49	修繕→集約 53/3 棟
観音寺-17	高等部校舎	1975	R	3	附属学校	1140 m	45	長寿命化→集約 54/4 棟
観音寺-18	小学部校舎	1966	R	2	附属学校	858 m	54	修繕→集約 54/4 棟
観音寺-20	渡り廊下	1967	S	1	大学設備室等	32 m	53	長寿命化→集約 54/4 棟
観音寺-21	中学部校舎	1967	R	1	附属学校	807 m	53	長寿命化→集約 54/4 棟
観音寺-22	体育館	1966	R	1	附属学校	820 m	54	長寿命化→集約 55/2 棟
観音寺-23	脱衣室	1968	B	1	附属学校	60 m	52	長寿命化→改築
観音寺-24	園舎	1966	R	1	附属学校	607 m	54	修繕→集約 56/5 棟
観音寺-25	倉庫	1966	B	1	附属学校	23 m	54	修繕→集約 56/5 棟
観音寺-26	遊戯室	1966	R	1	附属学校	197 m	54	長寿命化→集約 56/5 棟
観音寺-32	C棟	1971	R	5	大学宿泊施設	1240 m	49	集約 70/8 棟
観音寺-33	B棟	1971	R	5	大学宿泊施設	1055 m	49	集約 70/8 棟
観音寺-40	園舎	1976	R	2	附属学校	149 m	44	長寿命化→集約 56/5 棟
観音寺-41	特別教室	1979	R	2	附属学校	625 m	41	長寿命化→集約 57/2 棟
観音寺-42	脱衣室	1980	B	1	附属学校	72 m	40	修繕→改築
観音寺-45	石灰庫	1975	S	1	附属学校	10 m	45	修繕→集約 55/2 棟
観音寺-46	体育倉庫	1980	S	1	附属学校	35 m	40	修繕→改築
観音寺-49	倉庫	1995	S	1	附属学校	29 m	25	修繕→集約 50/4 棟
観音寺-50	清掃用具庫	1979	S	1	附属学校	19 m	41	修繕→集約 51/2 棟
観音寺-55	教生控室	1972	S	1	附属学校	62 m	48	長寿命化→集約 56/5 棟
観音寺-56	倉庫	1974	S	1	附属学校	19 m	46	修繕→改築
観音寺-59	第2特別教室	1983	R	2	附属学校	628 m	37	長寿命化→集約 57/2 棟
観音寺-60	武道場	1986	R	1	附属学校	350 m	34	長寿命化 x 2 →集約 58/2 棟
観音寺-61	便所・シャワー室	1986	B	1	附属学校	49 m	34	長寿命化 x 2 →集約 58/2 棟
観音寺-62	日常生活訓練施設	2001	W	1	附属学校	468 m	19	修繕→改築
観音寺-63	クラブ倉庫 2	2004	B	1	附属学校	34 m	16	修繕→改築
観音寺-64	クラブ倉庫 1	2004	B	1	附属学校	18 m	16	修繕→改築
観音寺-65	屋内運動場	2014	RS	2	附属学校	1273 m	6	長寿命化 x 2 →改築
船頭-1	艇庫	1969	S	1	大学支援施設	205 m	51	修繕→改築
栗真中山-1	男子寄宿舎	1969	R	4	大学宿泊施設	3723 m	51	集約 60/2 棟
栗真中山-2	プロパン庫	1969	B	1	大学宿泊施設	9 m	51	修繕→改築
栗真中山-4	倉庫	1987	S	1	大学宿泊施設	58 m	33	修繕→集約 60/2 棟
江戸橋 1-1	B棟・C棟	1975	R	4	大学宿泊施設	892 m	45	集約 70/8 棟
志摩-1	実験実習棟	1978	R	2	大学教育・研究施設	470 m	42	解体
志摩-2	学生宿泊棟	1978	R	2	大学宿泊施設	403 m	42	解体
志摩-3	艇庫	1978	S	1	大学教育・研究施設	120 m	42	解体
志摩-4	水族飼育棟	1978	S	1	大学教育・研究施設	72 m	42	解体
志摩-5	危険物倉庫	1978	B	1	大学教育・研究施設	6 m	42	解体
志摩-6	管理棟	1979	W	1	大学教育・研究施設	64 m	41	解体
松阪港-1	船具庫兼作業場	1981	R	2	大学教育・研究施設	400 m	39	長寿命化→集約 80/2 棟
松阪港-2	艇庫	1981	S	1	大学教育・研究施設	165 m	39	長寿命化→改築
松阪港-3	倉庫	1981	B	1	大学教育・研究施設	9 m	39	修繕→集約 80/2 棟
鳥居住宅-1	1号棟	1972	R	5	大学宿泊施設	1238 m	48	集約 70/8 棟
鳥居住宅-2	2号棟	1973	R	5	大学宿泊施設	1238 m	47	集約 70/8 棟
鳥居住宅-3	3号棟	1975	R	5	大学宿泊施設	1353 m	45	集約 70/8 棟
鳥居住宅-4	4号棟	1976	R	5	大学宿泊施設	1353 m	44	集約 70/8 棟
鳥居住宅-5	5号棟	1978	R	5	大学宿泊施設	1353 m	42	集約 70/8 棟

3-2 インフラ長寿命化個別施設計画 (2021.2.1 現在)

- 1) 計画期間は、第3期中期目標期間の最終年度である2021年度～第5期中期目標期間最終年度の2033年度までの13年間とする。
- 2) 個別施設計画は、財源別の整備計画であり、予算状況により見直しに伴うものである。
- 3) 補助金整備については、2022年度の要求予定事業を基本にする。
- 4) 整備に実施にあたっては、整備予定年度当初に再度優先順位を精査するとともに、毎年度全体計画の見直しを行う。

棟番号	事項名	規模	内容	財源	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	備考
全学	安全衛生管理対策	—		自己財源														
	・自動火災報知設備改修		老朽化対策		キャンパスアクションプラン 2021													
	・昇降機設備改修		老朽化対策															
	・衛生設備改修		老朽化対策															
	・防火シャッター改修		老朽化対策															
	・その他		老朽化対策															
全学	省エネルギー対策	—		自己財源														
	・空調設備改修		老朽化対策		キャンパスアクションプラン 2021													
	・照明設備等改修		老朽化対策															
全学	施設維持管理対策	—		自己財源														
	・防水改修		老朽化対策		キャンパスアクションプラン 2021													
	・外壁改修		老朽化対策															
	・各種施設維持管理		老朽化対策															
	・課外活動施設		老朽化対策															
	・その他		老朽化対策															
全学	キャンパス環境整備	—		自己財源														
	・教育機能の発展		教育機能改善		キャンパスアクションプラン 2021													
	・キャンパス環境の充実		環境整備															
	・構内駐輪場整備		環境整備															
鳥羽	フィールドサイン拠点 新営 (研究)	約 600 m ²	機能強化	自己財源														
	フィールドサイン拠点 新営 (教育)	約 300 m ²		補助金														
上浜	医学部外構整備	—	歩道等整備	寄付金														
上浜-1	車庫 改築	96 m ²	老朽化対策	交付金														
上浜-2	倉庫 改築	57 m ²	老朽化対策	交付金														
上浜-3	本部管理棟 改修	3093 m ²	老朽化対策	補助金														
上浜-16	校舎別棟 改築	228 m ²	老朽化対策	補助金														
上浜-22	窯場 改築	20 m ²	老朽化対策	補助金														
上浜-29	情報教育棟 改築	196 m ²	老朽化対策・集約化	補助金														
上浜-31	教養校舎 120 番教室 改修	245 m ²	老朽化対策	補助金														
上浜-33	教養校舎 190 番教室 改修	232 m ²	老朽化対策	補助金														
上浜-35	第一体育館 改修	1853 m ²	老朽化対策	補助金														
上浜-37	第一食堂 改修	1254 m ²	老朽化対策	補助金														
上浜-38	プロバン庫・食品庫 改修	25 m ²	老朽化対策	補助金														
上浜-41	総合研究棟Ⅱ A棟 改修	4392 m ²	老朽化対策	補助金														
上浜-42	渡り廊下 改修	12 m ²	老朽化対策	補助金														
上浜-43	総合研究棟Ⅱ D棟 改修	248 m ²	老朽化対策	補助金														
上浜-44	渡り廊下 改修	12 m ²	老朽化対策	補助金														
上浜-45	渡り廊下 改修	26 m ²	老朽化対策	補助金														
上浜-46	総合研究棟Ⅱ B棟 改修	3837 m ²	老朽化対策	補助金														
上浜-47	渡り廊下 改修	50 m ²	老朽化対策	補助金														
上浜-48	総合研究棟Ⅱ C棟 改修	680 m ²	老朽化対策	補助金														
上浜-50	薬品庫 改修	33 m ²	老朽化対策	補助金														
上浜-57	病理昆虫実験硝子室 集約	137 m ²	老朽化対策・集約化	補助金														
上浜-58	果樹学研究実験硝子室 集約	158 m ²	老朽化対策・集約化	補助金														
上浜-59	園芸実習実験硝子室 集約	158 m ²	老朽化対策・集約化	補助金														

棟番号	事項名	規模	内容	財源	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	備考
					21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
上浜-67	森林育成学研究硝子室 集約	160 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 49 年
上浜-70	共同実験室 (C 棟) 改修	480 m ²	老朽化対策	補助金											経年 50 年
上浜-72	育種・遺伝資源学温室 集約	158 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 52 年
上浜-73	有機廃液焼却室	8 m ²	解体	自己財源											経年 54 年
上浜-74	R I (生資) 実験施設	193 m ²	解体	自己財源											経年 54 年
上浜-75	共同実験室 (D 棟) 改修	217 m ²	老朽化対策	補助金											経年 50 年
上浜-81	農業生産技術学硝子室 集約	168 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 56 年
上浜-82	ポンプ室 改築	7 m ²	老朽化対策	交付金											経年 48 年
上浜-84	射場 改築	93 m ²	老朽化対策	補助金											経年 91 年
上浜-88	プール機械室 集約	78 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 52 年
上浜-89	課外活動用シャワー室 集約	20 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 47 年
上浜-90	プール機械室 集約	5 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 52 年
上浜-91	倉庫 集約	211 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 50 年
上浜-92	合宿所 集約	199 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 46 年
上浜-93	便所 集約	43 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 52 年
上浜-94	総合運動場管理室 集約	120 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 53 年
上浜-95	厩舎 改築	211	老朽化対策	P P P											経年 50 年
上浜-96	便所 改築	34 m ²	老朽化対策	補助金											経年 52 年
上浜-98	L 5 棟 集約	224 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 51 年
上浜-99	便所 集約	2 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 58 年
上浜-102	倉庫 集約	15 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 49 年
上浜-103	L 1 棟 集約	271 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 51 年
上浜-104	L 3 棟 集約	271 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 51 年
上浜-112	看護師宿舎 改修	1323 m ²	老朽化対策	補助金											経年 46 年
上浜-113	国際女子学生寄宿舎 改修	2112 m ²	老朽化対策	補助金											経年 46 年
上浜-120	渡り廊下 改修	27 m ²	老朽化対策	交付金											経年 46 年
上浜-122	渡り廊下 改修	31 m ²	老朽化対策	交付金											経年 46 年
上浜-124	渡り廊下 改修	20 m ²	老朽化対策	交付金											経年 46 年
上浜-125	車庫 改築	45 m ²	老朽化対策	交付金											経年 51 年
上浜-126	多用途棟 改築	288 m ²	老朽化対策	補助金											経年 51 年
上浜-134	医学系サークル棟 集約	389 m ²	老朽化対策	補助金											経年 50 年
上浜-138	第二体育館 改築	1445 m ²	老朽化対策	補助金											経年 50 年
上浜-139	車庫 集約	30 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 53 年
上浜-141	課外倉庫 2 集約	9 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 53 年
上浜-143	課外倉庫 1 集約	45 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 53 年
上浜-146	射場 改築	90 m ²	老朽化対策	補助金											経年 48 年
上浜-150	L 2 棟 集約	300 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 45 年
上浜-151	L 3 棟 集約	200 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 45 年
上浜-152	文科系サークル共用棟 集約	352 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 45 年
上浜-153	第二食堂 改修	997 m ²	老朽化対策	補助金											経年 45 年
上浜-156	土壌肥料研究硝子室 集約	158 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 45 年
上浜-157	実習室 集約	189 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 44 年
上浜-158	体育系サークル共用棟 集約	174 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 44 年
上浜-163	第二体育練習室 集約	153 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 43 年
上浜-164	総合情報処理センター 改修	831 m ²	老朽化対策	補助金											経年 42 年
上浜-165	特別高圧受変電室 改修	478 m ²	老朽化対策	補助金											経年 42 年
上浜-166	翠明荘 改修	308 m ²	老朽化対策	補助金											経年 42 年
上浜-167	環境保全分析施設 集約	344 m ²	老朽化対策・集約化	補助金											経年 42 年
上浜-168	講義棟 (C) 改修	569 m ²	老朽化対策	補助金											経年 42 年
上浜-169	共通棟 改修	99 m ²	老朽化対策	補助金											経年 42 年
上浜-172	共同棟 改修	85 m ²	老朽化対策	補助金											経年 41 年
上浜-175	生活排水処理施設 集約	152 m ²	基幹整備	補助金											経年 41 年
上浜-176	生活排水処理施設 集約	94 m ²	基幹整備	補助金											経年 41 年
上浜-177	外国人教師等宿泊施設 集約	115 m ²	老朽化対策	P P P											経年 41 年
上浜-178	外国人教師等宿泊施設 集約	308 m ²	老朽化対策	P P P											経年 41 年

棟番号	事項名	規模	内容	財源	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	備考
上浜-180	変電室 集約	60 m ²	老朽化対策・集約化	補助金														経年 41 年
上浜-181	8号館 改修 (卓越研究拠点)	654 m ²	老朽化対策	補助金														経年 40 年
上浜-206	器具庫 集約	49 m ²	老朽化対策・集約化	補助金														経年 48 年
上浜-219	変電室 改修	80 m ²	老朽化対策	補助金														経年 35 年
上浜-220	作物学硝子温室 集約	123 m ²	老朽化対策・集約化	補助金														経年 34 年
上浜-221	害虫隔離飼育室 集約	152 m ²	老朽化対策・集約化	補助金														経年 33 年
上浜-222	留学生会館 (单身棟) 改修	993 m ²	老朽化対策	補助金														経年 33 年
上浜-223	留学生会館 (夫婦棟) 改修	228 m ²	老朽化対策	補助金														経年 33 年
上浜-224	屋内運動場 改修	734 m ²	老朽化対策	補助金														経年 33 年
上浜-226	生物資源学部校舎 改修	24780 m ²	老朽化対策	補助金														経年 31 年
上浜-228	5号館 改修	2263 m ²	老朽化対策	補助金														経年 29 年
上浜-229	地域イノベーション研究開発拠点 A棟・B棟 改修	3677 m ²	老朽化対策	補助金														経年 28 年
上浜-230	講堂 改修	4084 m ²	老朽化対策	補助金														経年 26 年
上浜-231	オープンイノベーション施設 改修	1210 m ²	老朽化対策	補助金														経年 26 年
上浜-234	飼育棟 改修	300 m ²	老朽化対策	補助金														経年 26 年
上浜-235	飼育管理棟 改修	78 m ²	老朽化対策	補助金														経年 26 年
上浜-236	回流水槽棟 改修	70 m ²	老朽化対策	補助金														経年 26 年
上浜-238	7号館 改修	2782 m ²	老朽化対策	補助金														経年 25 年
上浜-240	講義棟 (E) 改修	488 m ²	老朽化対策	補助金														経年 25 年
上浜-241	講義棟 (D) 改修	334 m ²	老朽化対策	補助金														経年 29 年
上浜-243	6号館 改修	4227 m ²	老朽化対策	補助金														経年 21 年
上浜-244	看護学科棟 改修	7056 m ²	老朽化対策	補助金														経年 21 年
上浜-245	渡り廊下 改修	108 m ²	老朽化対策	補助金														経年 21 年
上浜-246	事業系一般廃棄物置場 集約	28 m ²	基幹整備	補助金														経年 23 年
上浜-247	卓越型研究施設 改修	1513 m ²	老朽化対策	補助金														経年 21 年
上浜-264	医療技術棟 改修	157 m ²	老朽化対策	補助金														経年 18 年
高野尾-2	穀物庫 集約	80 m ²	老朽化対策・集約化	補助金														経年 51 年
高野尾-3	資材庫 集約	130 m ²	老朽化対策・集約化	補助金														経年 51 年
高野尾-4	堆肥舎 改築	128 m ²	老朽化対策	補助金														経年 51 年
高野尾-5	育すう舎 改築	84 m ²	老朽化対策	補助金														経年 51 年
高野尾-6	ケージ鶏舎 改築	90 m ²	老朽化対策	補助金														経年 51 年
高野尾-7	平飼鶏舎 改築	72 m ²	老朽化対策	補助金														経年 51 年
高野尾-8	豚舎 改築	128 m ²	老朽化対策	補助金														経年 51 年
高野尾-9	羊舎 改築	66 m ²	老朽化対策	補助金														経年 51 年
高野尾-10	牛舎 改築	360 m ²	老朽化対策	補助金														経年 51 年
高野尾-11	礫耕温室 改築	260 m ²	老朽化対策	補助金														経年 51 年
高野尾-12	ミスト耕温室 改築	260 m ²	老朽化対策	補助金														経年 51 年
高野尾-13	土耕温室 改築	260 m ²	老朽化対策	補助金														経年 51 年
高野尾-14	鉢物花卉温室 改築	260 m ²	老朽化対策	補助金														経年 51 年
高野尾-15	ボイラー室 改築	40 m ²	老朽化対策	補助金														経年 51 年
高野尾-16	荷造調査室 改築	63 m ²	老朽化対策	補助金														経年 51 年
高野尾-17	大農具室 集約	396 m ²	老朽化対策・集約化	補助金														経年 50 年
高野尾-18	小農具室 集約	126 m ²	老朽化対策・集約化	補助金														経年 50 年
高野尾-19	第1農産製造室 集約	498 m ²	老朽化対策・集約化	補助金														経年 50 年
高野尾-20	第2農産製造室 集約	378 m ²	老朽化対策・集約化	補助金														経年 50 年
高野尾-21	穀物乾燥調整室 集約	150 m ²	老朽化対策・集約化	補助金														経年 50 年
高野尾-26	屋外便所 集約	26 m ²	老朽化対策・集約化	補助金														経年 51 年
高野尾-27	加圧ポンプ室 改築	26 m ²	老朽化対策	補助金														経年 51 年
高野尾-28	農具室 集約	75 m ²	老朽化対策・集約化	補助金														経年 50 年
高野尾-29	果樹選果室 改築	149 m ²	老朽化対策	補助金														経年 49 年
高野尾-31	油庫 改築	20 m ²	老朽化対策	補助金														経年 49 年
高野尾-32	作業室兼機械室 集約	220 m ²	老朽化対策・集約化	補助金														経年 49 年
高野尾-33	渡り廊下 集約	9 m ²	老朽化対策・集約化	補助金														経年 49 年

棟番号	事項名	規模	内容	財源	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	備考
高野尾-34	園芸育苗温室 改築	90 m ²	老朽化対策	補助金														経年 50年
高野尾-35	実験用硝子室 改築	140 m ²	老朽化対策	補助金														経年 50年
高野尾-36	ブドウ温室 改築	122 m ²	老朽化対策	補助金														経年 50年
高野尾-38	林産ミスト温室 改築	165 m ²	老朽化対策	補助金														経年 50年
高野尾-39	畜産実験室 改築	119 m ²	老朽化対策	補助金														経年 49年
高野尾-40	乾草室 改築	60 m ²	老朽化対策	補助金														経年 49年
美杉-8	育種育苗用硝子室 改築	19 m ²	老朽化対策	補助金														経年 54年
美杉-10	管理棟学生宿泊施設 改修	1081 m ²	老朽化対策	補助金														経年 43年
観音寺-4	工作室 改築	360 m ²	老朽化対策	補助金														経年 55年
観音寺-6	給食棟 改修	188 m ²	老朽化対策	補助金														経年 58年
観音寺-7	実習生控室 改築	60 m ²	老朽化対策	補助金														経年 50年
観音寺-14	プール機械室 集約	16 m ²	老朽化対策・集約化	補助金														経年 50年
観音寺-15	プール便所 集約	14 m ²	老朽化対策・集約化	補助金														経年 50年
観音寺-16	プール更衣室 集約	76 m ²	老朽化対策・集約化	補助金														経年 50年
観音寺-17	高等部校舎 改修	1140 m ²	老朽化対策	補助金														経年 46年
観音寺-20	渡り廊下 改修	32 m ²	老朽化対策	補助金														経年 54年
観音寺-21	中学部校舎 改修	807 m ²	老朽化対策	補助金														経年 54年
観音寺-22	体育館 改修	820 m ²	老朽化対策	補助金														経年 55年
観音寺-26	遊戯室 改修	197 m ²	老朽化対策	補助金														経年 55年
観音寺-32	C棟 集約	1240 m ²	老朽化対策・集約化	P P P														経年 50年
観音寺-33	B棟 集約	1055 m ²	老朽化対策・集約化	P P P														経年 50年
観音寺-40	園舎 改修	149 m ²	老朽化対策	補助金														経年 45年
観音寺-41	特別教室 改修	625 m ²	老朽化対策	補助金														経年 42年
観音寺-55	教生控室 改修	62 m ²	老朽化対策	補助金														経年 49年
観音寺-59	第2特別教室 改修	628 m ²	老朽化対策	補助金														経年 38年
観音寺-60	武道場 改修	350 m ²	老朽化対策	補助金														経年 35年
観音寺-61	便所・シャワー室 改修	49 m ²	老朽化対策	補助金														経年 35年
船頭-1	艇庫 改築	205 m ²	老朽化対策	補助金														経年 52年
江戸橋1-1	B棟・C棟 集約	892 m ²	老朽化対策・集約化	P P P														経年 46年
志摩-1	実験実習棟 撤去	470 m ²	解体	補助金														経年 43年
志摩-2	学生宿泊棟 撤去	403 m ²	解体	補助金														経年 43年
志摩-3	艇庫 撤去	120 m ²	解体	補助金														経年 43年
志摩-4	水族飼育棟 撤去	72 m ²	解体	補助金														経年 43年
志摩-5	危険物倉庫 撤去	6 m ²	解体	補助金														経年 43年
志摩-6	管理棟 撤去	64 m ²	解体	補助金														経年 42年
松阪港-2	艇庫 改修	165 m ²	老朽化対策	交付金														経年 40年
鳥居住宅-1	1号棟 集約	1238 m ²	老朽化対策・集約化	P P P														経年 49年
鳥居住宅-2	2号棟 集約	1238 m ²	老朽化対策・集約化	P P P														経年 48年
鳥居住宅-3	3号棟 集約	1353 m ²	老朽化対策・集約化	P P P														経年 46年
鳥居住宅-4	4号棟 集約	1353 m ²	老朽化対策・集約化	P P P														経年 45年
鳥居住宅-5	5号棟 集約	1353 m ²	老朽化対策・集約化	P P P														経年 43年

3-3 施設集約化計画

500m²以下の小規模施設及び 500m²~1,500m²程度の中規模施設を集約化して、教育研究機能の向上と維持管理費を縮減するとともに、CMP2018 に基づいた良好なキャンパス環境を確保する。

特に、集約化による屋上防水面積、外壁面積、共通スペース（廊下・トイレ等）の縮減を図り、今後の施設運営費を抑制する。

3-3-1 上浜キャンパス集約化計画

図示の枠色と枠形は、集約化する施設群を示す。



図表_3-3① 上浜キャンパス配置図

■ 策定

2020年3月23日 施設整備委員会 承認

2020年3月26日 役員会 承認

■ 改訂歴

2021年3月17日 施設整備委員会 承認

2021年3月24日 役員会 承認

